



第16回日本の次世代リーダー養成塾 報告書

開催日程 2019年7月26日～8月8日



I n d e x

C o n t e n t s

	Page
1. 第16回日本の次世代リーダー養成塾を開催して	1
2. 主催者からのメッセージ	4
3. 開催概要	5
4. 講師・講義内容一覧、カリキュラム表	6
5. 講義概要	9
6. 塾期間における成果・課題や卒塾後の様子	19
7. 塾を支えるスタッフ	30
8. カリキュラム	39
9. 参画道県・市の声	52
10. 第26回アジア・太平洋地域宇宙機関会議	57
11. マレーシア次世代リーダー養成塾設立へ	58

【資料】

① 塾期間中の塾生アンケート調査結果	59
② 卒塾後の塾生・保護者・学校アンケート調査結果	64
③ 塾生概要	72
④ 塾生高校一覧	73
⑤ アジア奨学生概要	74
⑥ クラス担任・学生リーダー及びスタッフ名簿	75

(巻末) ご協賛・ご協力・助成いただいた皆様

1. 第16回日本の次世代リーダー養成塾を開催して

今年は、集中豪雨、台風など天災の多い1年でした。皆様の地域は大丈夫でしたか。リーダー塾も例外ではなく、台風に翻弄されました。マレーシアのマハティール首相は、今年も講師として、外務大臣、青年・スポーツ大臣ら約50人の代表団を引き連れていらしてくださいました。しかし、政府専用機が台風の通過を懸念して、前日入りを断念して、夜行便に切り替えて講義当日早朝に到着されました。他の講師も新幹線などに乗り換えていらしてくださいました。このため、予定された講義がすべて行われました。講師の皆さまには深く感謝申し上げます。

2週間通して午前中の1時間半かけて塾生だけで討議する「アジア・ハイスクール・サミット」は、地球規模で解決しなければいけない課題を宇宙でどう解決するかというテーマで行いました。かねてから講師としてお招きしたかった宇宙飛行士の若田光一・宇宙航空研究開発機構（JAXA）理事においでいただくこととなり、JAXAにご協力を仰ぎ、これまでのサミットで最も難しいテーマに挑戦しました。今回は、準備段階から大学生のボランティアである学生リーダーに関わってもらい、筑波宇宙センターを見学して、塾生に対する宿題から準備をして、リーダー塾本番では、塾生だけで討議を進め、学生リーダーと協賛企業から派遣された担任がフォローをする形式をとりました。初日には、川島興介・JAXA研究開発部門研究戦略部主事に日本や世界の宇宙開発の現状を話していただき、期間中、質問がある時にはJAXAの方々がメールで回答していただきました。

葛藤を乗り越えて8月6日にクラスごとに発表。地球規模で解決する課題として、気候変動を身近な問題に捉えているためか環境問題を挙げるクラスが多かったのが特徴でした。人工衛星を使って、海洋プラスチックの多い場所を特定して、海洋パクパクロボットを開発して、海中のプラスチックのゴミを取ることを提案したクラスが1位となりました。このほか、太陽光パネルを地球に近い惑星に貼り付けて、地球の一カ所に電磁波を集めて送電するシステム、宇宙畑をつくり、飢餓に苦しむ地域に食糧を提供するなどユニークな案が出された。また、宇宙に学校を作って人種や宗教の差別なく教育を行う案や、雇用問題の解決のために宇宙にテーマパークと宇宙ライブで新事業を展開するなどユニークな案が出されました。

8月7日には、マハティール首相や若田理事の前で英語で発表。詳しくは、カリキュラムの宗像市公開講座の項を参照いただきたいのですが、若田理事からは「2週間だけでこんな案を作ったのですか」「皆さんには努力を続けて、いつか宇宙開発の仕事で一緒にしたい」とお褒めの言葉をいただき、マハティール首相からは「科学技術は平和利用することもできるが、一歩間違えれば戦争の道具となる。科学技術は人間に与えられた選択肢なのだから、環境問題や病気の治癒などに使ってほしい。人類を真の意味で文明化するのが次世代の責務だ」とアドバイスしていただきました。

11月には、名古屋で開かれたJAXAなどアジア・太平洋諸国の宇宙機関の代表が集まる「第26回アジア・太平洋地域宇宙機関会議」（APRSAF）で次世代代表として、塾生2人が「アジア・ハイスクール・サミット」の内容を発表、パネルディスカッションで宇宙機関長や宇宙飛行士と50年後の宇宙と人類の関係を英語で討議して、会場から「今後、宇宙開発において地球で行っている覇権争いをするのではなく、国際協調をすることの大切さを高校生たちから示してもらった」と意見が出されました。

一方、マレーシアでは、マレーシア次世代リーダー養成塾（MFLS）が国家プロジェクトとして、青年スポーツ省の中に発足し、35000人が9泊10日の合宿生活を行い、最も優秀な200人が選ばれ、来春には数十人がスタディツアーを日本で行う予定で、リーダー塾としてお手伝いします。また、来年のリーダー塾にも招待したいと思います。日本からアジアへ。次世代リーダー育成の風を起こしていきたい。リーダー塾を支えていただいている皆様に感謝申し上げますと共に、どうぞ、今後ともご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

日本の次世代リーダー養成塾専務理事・事務局長 加藤暁子

Day 1



Day 2



Day 3



Day 4



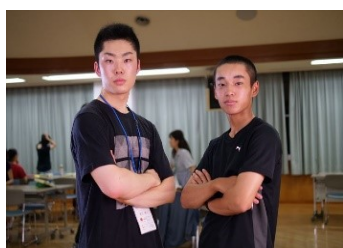
Day 5



Day 6



Day 7



Day 8



Day 9



Day 10



Day 11



Day 12



Day 13



Day 14



2. 主催者からのメッセージ

塾長 中西 宏明（一般社団法人日本経済団体連合会会長）

この数年で世界情勢は大きく変化しました。各国のパワーバランスの変化により旧来の国際秩序がゆらぎ、反グローバリズムやポピュリズムの台頭といった新たな時代に直面しています。一方、テクノロジーの分野ではAIなどを駆使したデジタル化による新たな産業革命（第4次産業革命）が、産業・医療・交通など社会のあらゆる分野で進行中です。社会課題の解決と経済的な発展を両立する「Society 5.0」という全く新しい社会が到来しつつあります。

今私たちがやらなければいけないことは、多様性を受容できる、豊かで活力ある日本をつくりあげることです。国際協調を大切にしつつ、「モノからコト」「所有から利用」に代表される社会の変化の中で、新たな価値を創造しなくてはならないのです。そのためには多くのイノベーションが必要であり、若い世代の新しい発想と推進力を必要としています。皆さんには、文系・理系といった区分けをしないで、人とのコミュニケーションを大切にしてグローバルな視点でよく学び、新たな社会の実現に貢献していただきたいと思います。

本塾では、仲間たちと切磋琢磨し、視野を広げ、様々な課題に真正面から取り組むことで、お互いの立場や考え方の違いに気づき、それを乗り越える知恵を養ってください。また、お互いのアイデンティティを尊重しつつ、いつでも誰でもリーダーに成り得ることを学び、実践してほしいと思います。本塾での経験が、皆さんの未来を切り拓く力になることを期待しています。



「日本の次世代リーダー養成塾」役員等名簿（2019年7月13日現在、五十音順）

塾長	中西 宏明	/	一般社団法人日本経済団体連合会会長
塾長代理	榊原 英資	/	青山学院大学特別招聘教授
筆頭理事	小川 洋	/	福岡県知事
理事	浅野 史郎	/	神奈川大学特別招聘教授
理事 (顧問兼務)	麻生 渡	/	元全国知事会会長・学校法人福岡工業大学最高顧問
理事	石原 進	/	九州旅客鉄道株式会社相談役
理事	伊豆 美沙子	/	福岡県宗像市長
理事	川勝 平太	/	静岡県知事
理事	小島 順彦	/	三菱商事株式会社相談役
理事	鈴木 直道	/	北海道知事
理事	高橋 温	/	三井住友信託銀行株式会社特別顧問
理事	滝 久雄	/	株式会社ぐるなび取締役会長・創業者 株式会社NK B取締役会長・創業者
理事	達増 拓也	/	岩手県知事
理事	張 富士夫	/	トヨタ自動車株式会社相談役
理事	中村 時広	/	愛媛県知事
理事	仁坂 吉伸	/	和歌山県知事
理事	橋田 紘一	/	特定非営利活動法人九州・アジア経営塾理事長兼塾長
理事	古田 肇	/	岐阜県知事
理事	松尾 新吾	/	九州電力株式会社特別顧問
理事	溝上 泰弘	/	株式会社ミズホールディングス代表取締役会長
理事	三村 申吾	/	青森県知事
理事	宗政 寛	/	株式会社サニックス代表取締役社長
理事	山口 祥義	/	佐賀県知事
専務理事 (事務局長兼務)	加藤 暁子		
監事	遠藤 泰昭	/	九州電力株式会社上席執行役員

3. 開催概要

1 主催者

日本の次世代リーダー養成塾

塾長：中西宏明／一般社団法人日本経済団体連合会会長

2 開催日程

2019年7月26日（金）～8月8日（木）

3 開催・宿泊施設

グローバルアリーナ（福岡県宗像市吉留46-1）

波戸岬少年自然の家（佐賀県唐津市鎮西町名護屋5581-1）

※自然の家は8月1日（木）～8月4日（日）の3泊4日で宿泊

4 塾生

対象：高校生（1年生～3年生） 185名

内 訳	参画県推薦枠 (北海道、青森県、岩手県、静岡県、岐阜県、和歌山県、愛媛県、 福岡県、佐賀県、福岡県宗像市、沖縄県うるま市)	115名
	全国からの一般公募枠	54名
	アジア奨学生	16名 [非公募]

5 カリキュラム概要

① 各界を代表する講師陣による講義

● 教養系（哲学、近現代経済・文明史、医学、科学、芸術など）

日本や世界を代表する講師が高校生に知的好奇心を湧かせる講義をします。

● ビジネス系（日本企業の強みと弱み、ビジネスのしくみなど）

世界を相手にビジネスの最先端で日夜活躍する講師が、日本の企業の強みや弱み、ひいては日本の国のあり方を伝えます。

● 国際系（国際問題や外交、国連やNGO活動への理解）

世界に目を向け、日本人としてのアイデンティティを持ち、国際舞台で活躍できる力をつけます。

● 人間学（将来の夢をどう具現化するか、リーダーとしての生き方など）

人生の先達が21世紀の日本を背負って立つ人材に必要なことは何かを語ります。

② 講義後のディスカッション

講義終了後にクラス担任の指導のもと、1クラス約20名余りによるグループディスカッションを行います。クラス担任は、日本を代表する企業の中堅社員が務めます。

③ プロジェクト型企画「アジア・ハイスクール・サミット」

日本人とアジア各国の高校生が、2週間を通して社会課題の解決に向けた議論を行い、具体案を提言する「アジア・ハイスクール・サミット」を開催します。

④ フィールドトリップ

福岡県では世界遺産である宗像大社を見学します。佐賀県では佐賀県立佐賀城本丸歴史館にて、幕末・維新期に日本で当時最先端であった佐賀藩の科学技術や、佐賀が輩出した偉人などについて学びます。また、佐賀県立名護屋城博物館にて、日本列島と朝鮮半島間の歴史を当時の貴重な資料や遺産を見学し、学びます。

4. 講師・講義内容一覧、カリキュラム表

講師 27 名（敬称略、講義順）

講義日	お名前、お役職、演題	ページ
7/26 (金)	おがわ ひろし 小川 洋 福岡県知事 「世界にはばたく！未来のリーダーたちへ」	9 ページ
7/27 (土)	かとう あきこ 加藤 暁子 日本の次世代リーダー養成塾専務理事・事務局長、公益財団法人 A F S 日本協会理事長 「激動の時代を生き抜き、明るく未来を切り拓くリーダーに」	9 ページ
	かわしま こうすけ 川島 興介 宇宙航空研究開発機構（JAXA）研究開発部門研究戦略部主事 「宇宙開発の動向と今後の社会課題への対応に向けて」	9 ページ
7/28 (日)	あら い やすあき 荒井 保明 国立がん研究センター理事長特任補佐 「ダーウィンの進化論知ってますよね。 それじゃ、そんな進化の中で僕らがやるべきことは？」	10 ページ
	かわかつ へい た 川勝 平太 静岡県知事 「日本と天皇の学問」	10 ページ
7/29 (月)	かまた み の る 鎌田 實 諏訪中央病院名誉院長 「『生きているってすばらしい』～命・平和・絆を考える～」	10 ページ
	やはら てつかず 矢原 徹一 九州大学大学院理学研究院教授 九州大学持続可能な社会のための決断科学センター長 「持続可能な未来のためにどうすれば社会を変えられるか？」	11 ページ
	あかし やすし 明石 康 元国連事務次長、公益財団法人国立京都国際会館理事長 「世界の中の日本ーもっと外に開く国に」 “Japan in the world – towards a more open, dynamic country”	11 ページ
7/30 (火)	こてがわ きょうじ 小手川 強二 フンドーキン醤油株式会社代表取締役社長 「発酵食品が繋ぐ国際化」	11 ページ
	あしづ たかゆき 葦津 敬之 宗像大社宮司 「宗像の世界遺産への取り組みと環境問題」	12 ページ
7/31 (水)	うえだ のりゆき 上田 紀行 文化人類学者、東京工業大学リベラルアーツ研究教育院長・教授 「『志』を持とう『愛される』よりも『愛する』人になろう 自分も輝き、世界も輝かせる生き方とは」	12 ページ
	むろふし こ 室伏 きみ子 お茶の水女子大学長 「『研究者』という職業選択～人々が心身ともに健康で心豊かに暮らせる社会を創りたい～」	12 ページ
	あそう わたる 麻生 渡 元全国知事会会長、学校法人福岡工業大学最高顧問 「君は人生 100 才時代をどう生きるのか」	13 ページ

講義日	お名前、お役職、演題	ページ
8/1 (木)	やまぐち よしのり 山口 祥義 佐賀県知事 「世界で輝く佐賀～ふるさとを語れる自分に～」	13 ページ
	かさや かずひこ 笠谷 和比古 大阪学院大学法学部教授（専門、歴史学、武家社会論） 「幕末日本の国際条約と国際環境」	13 ページ
8/2 (金)	うらかわ かずや 浦川 和也 佐賀県立名護屋城博物館副館長 「佐賀県立名護屋城博物館の建設と開館26年の歩み ―エスノセントリズムを超えて―」	14 ページ
	り ぼんう 李 鳳宇 映画プロデューサー、株式会社マンシーズエンターテインメント代表、立命館大学映像学部客員教授 「映画で日本の将来を考えよう」	14 ページ
8/3 (土)	や の ひろのり 矢野 弘典 公益財団法人産業雇用安定センター会長、横綱審議委員会委員長、一般社団法人ふじのくにづくり支援センター理事長 「論語とリーダーシップ」	14 ページ
	ちん じゅかん 沈 壽官 薩摩焼十五代 「伝統を守り現代を表現する」	15 ページ
8/5 (月)	かわにし ひでや 河西 秀哉 名古屋大学大学院人文学研究科准教授 「象徴天皇制とは何か」	15 ページ
	さ さ き く み こ 佐々木 久美子 株式会社グルーヴノーツ代表取締役会長 「高校生が知っておくべきテクノロジーのインパクト」	15 ページ
8/6 (火)	たき ひさお 滝 久雄 株式会社ぐるなび取締役会長・創業者、株式会社NKB取締役会長・創業者 「やらなければならないことは、やりたいことにしよう！」	16 ページ
	にしかわ めぐみ 西川 恵 毎日新聞社客員編集委員 「国際政治をどう読み解くか」	16 ページ
8/7 (水)	わかた こういち 若田 光一 宇宙航空研究開発機構（JAXA）理事・宇宙飛行士 「宇宙飛行とリーダーシップ」	16 ページ
	マハティール・モハマド マレーシア首相 「科学技術の発展が世界の平和にどう貢献するか」 “How Progress of Science Technology could Contribute to World Peace and Harmony”	17 ページ
	さかきばら えいすけ 榊原 英資 青山学院大学特別招聘教授 「危機的状況でのリーダーシップ」	17 ページ

第16回 日本の次世代リーダー養成塾 カリキュラム表 (2019年7月26日～8月8日)

[illegible]

5. 講義概要

日本のみならず世界で活躍する講師陣にご講義いただいた。また、交流会では卒業生4名をゲストスピーカーとして招いた。塾生たちにとって、リーダーとしてあるべき姿を学ぶ貴重な時間となった。
(講義順)



小川 洋 先生 福岡県知事

「世界にはばたく！未来のリーダーたちへ」

通産省で働いていた時、PL法の成立に向け三年間の時間をかけて取り組んだ。賛成派と反対派のあいだには大きな隔たりがあった。戦後の数々の裁判一つ一つは異なっているが、共通の何かがあるのではないかと考え成立にこぎつけた。社会で問題が起こらないようにする。起こった時にその影響を最小限にする。その問題を解決する。行政はその三つを行うことができる。

様々な異なる価値観にふれることがグローバル社会を生き抜くことに繋がる。日本の歴史、文化を身につけるのは当然として、グローバルな目線を持ち、自分だったらこの問題にどう取り組むかという考えを持って欲しい。

講義の感想

- 明確な動機を持ち、目的達成の為に徹底的に情報を集め行動してきた知事の信念に憧れを抱きました。私も確固たる信念を持ちたいと感じました。
- 知事の、「なぜ実現できないのかではなくどう実現するかを考える。」という言葉がとても印象的でした。



加藤 暁子 先生 日本の次世代リーダー養成塾専務理事・事務局長、公益財団法人AFS日本協会理事長

「激動の時代を生き抜き、明るく未来を切り拓くリーダーに」

高校生の時にアメリカに留学をして、歴史の授業で原爆投下の是非について議論した。同級生の議論は「原爆を落としたから戦争が終結した」という米国側の意見が先行して、終戦後も原爆症で苦しみ続ける被爆者についての言及は一切なかったので、拙い英語で必死に被爆者の苦しみを伝えた。終戦直後に広島で取材して書いた「ヒロシマ」でピューリッツァー賞を取ったジョン・ハーシーと文通して感銘を受け、ジャーナリストを志した。

記者をしていた頃は、結婚して子供を持つ女性が記者として働くのは大変なことだった。今は社会が変わり、働き方改革も実施されている。一度きりの人生、誰かに反対されても、明確に目標を持って「余に不可能はない」と、明るく未来を切り拓くリーダーになってほしい。そして、何より人の気持ちに寄り添うことができるリーダーになってほしい。

講義の感想

- 「理想は現実にならないこともあるが、理想をいくつになっても忘れるな。」という言葉が私の心にとっても響きました。いつまでも自分が描き続ける理想の世界を求めて日々を生きていきたいと思いました。
- 「自分の人生は自分で切り開くもの。」私も加藤先生の様に信念を曲げず、諦めずぶれない強いリーダーになります。



川島 興介 先生 宇宙航空研究開発機構（JAXA）研究開発部門研究戦略部主事

「宇宙開発の動向と今後の社会課題への対応に向けて」

2008年に宇宙基本法という法律ができて、大きな転換期となった。今まではいかなる時も軍事利用は禁じられていたが、防衛のためであれば許されるようになった。個人でロケットを飛ばす時の宇宙活動法という法律も制定されている。一般企業とも宇宙の探査にかかわっていく時代になる。10年20年先の宇宙開発に向け、更に解像度の高い衛星を使用し、災害時の状況把握などに役立てるための研究をおこなっている。熱帯雨林を守る、洪水の被害をすぐに知らせる、大気汚染を観測してデータ化している。そういった調査は政府だけではなく企業も含めた地球規模で課題に向き合おうというSDGsにも役立てることができる。これから月の探査をするために、月の周りにステーションを作ったり、有人探査も始まるかもしれない。みなさんもわくわくしながら待っていて欲しい。

講義の感想

- 「どうありたいか？」という言葉に深く考えさせられました。自分にとっての、やりたいこと（動機）、できること（才能）、やるべきこと（義務）とは何なのか、これからはこの問いについて考えていきたいです。
- 「努力の仕方」を学びました。どんな小さなことでも成功体験を一つ一つ積み重ねることで、どんな時代でも力強く楽しく生きることができると感じました。



荒井 保明 先生 国立がん研究センター理事長特任補佐

「ダーウィンの進化論知ってますよね。」

それじゃ、そんな進化の中で僕らがやるべきことは？」

外に出て元気に過ごす未来は絶対にはわかっていて白血病の子供を治療していた時、そんながん治療は無駄だと感じていた。ところが毎日一緒に時間を過ごしていくうちに、狭い彼の病室に実は彼の壮大な宇宙があることに気づいた。宇宙の大きい小さいはあっても全ての人それぞれに宇宙があり、その宇宙を守ることに大きな価値があることを教えてもらった。

ダーウィンの進化論は、僕らが生きている今が、実は地球が生まれ、生物が生まれてからの悠久の時の流れの中の一瞬でしかないということを教えてくれている。でも、その一瞬の宇宙にも大きな価値があることを忘れてはいけない。未来が無限に見えているかもしれない若い皆さんだからこそ、実は一瞬の、しかし限りない可能性をもった皆さんの宇宙でどう生きていくかを考えて欲しい。

講義の感想

- 荒井先生はプラス思考で、お話を聞いているだけで私の考え方が明るくなったように思います。「人生を楽しくその時にやりたいことをする。」という言葉は心にずっとしりました。
- 死生観に衝撃を受けました。人間の命は有限であり、しかも長い地球の歴史から見ると、ほんの一瞬であるということに自覚し、その上で自分の生き方というものに価値を見出すことが大切だと感じました。



川勝 平太 先生 静岡県知事

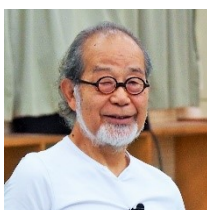
「日本と天皇の学問」

徳仁天皇は、人間の生活に必要な水を研究対象にされていた。平成天皇はハゼを研究されており、昭和天皇は海洋生物を研究していた。大学の教授に何故日本の皇室では学問をするのかと聞かれた時に、研究を行っていない天皇も奈良時代から歌学を続けているということを知った。歌学も学問であり、「禁中並公家諸法度」では天皇は学問を第一にするべきと書かれている。トップである天皇が学問を第一にしている日本人は学問を続ける志を持つべきであると言える。

富士山は日本のシンボルであり、信仰の対象であり芸術の源泉である。日本人は和歌で富士山とかかわってきた。和歌、詩に込められた一番の原点は祈りといえる。これから様々な学問に取り組むと思うが、自分の中に詩を持って欲しい。

講義の感想

- これまで詩や短歌という日本の伝統的な歌に関してあまり興味のなかった私ですが、日本人としてはもちろん、社会人になる前に一度しっかりと触れてみたいと思いました。
- 日本の学問の歴史を天皇家を中心に考えるというのが興味深く新鮮でした。天皇が一貫して歌学を数千年続けてきたことに驚き、そのような日本人にある和の心を知ることはとても大切だと思いました。



鎌田 實 先生 諏訪中央病院名誉院長

「『生きているってすばらしい』～命・平和・絆を考える～」

自分の自由を大切にすることは、相手の自由も認めるということ。自分の人生は、自分で決めることが大事。生前交流のあった女優の樹木希林さんは、がんになっても、がんには支配されていなかった。自分で「もうダメだ」と思わない限り、人生に「もうダメだ」ということは絶対にない。

鎌田版の『アリとキリギリス』をスズキコージの絵で紙芝居にした。アリのように働くことも大切だが、キリギリスの弾くバイオリンに救われるアリもいる。外から見えるものはほんのわずか。物事には○か×の間に無数の形があり、面白い△になればいい。夢を達成するためには勉強していい大学に入ることも大事かもしれないが、それはゴールではなく本当の夢はもっと遠くにある。自分の人生を振り返って面白い人生だったと思えるよう、絶対に自分は自由に生きるんだという意思を持ち続けることが大切である。

講義の感想

- 「もう駄目だと思わない限り、自分の道は切り開ける。」という言葉に勇気づけられました。失敗ばかりしてよく自分を責めることがありますが、「失敗が面白い。」という言葉に救われました。
- 全て自分のために生きるのではなく、1%でも誰かのために生きるということを大事にしたいです。1%誰かのために勇気をもてるか、私はこの先、誰かのために変わりたいと思いました。



矢原 徹一 先生

九州大学大学院理学研究院教授、
九州大学持続可能な社会のための決断科学センター長

「持続可能な未来のためにどうすれば社会を変えられるか？」

人間の中には猿から進化する過程で発達した四つの善性が宿っている。その性質によって社会をよくしてきた。しかし動物の本能として持つ悪い性質により社会を対立や混乱に陥れてしまう。世界では温暖化などの問題が起きるが、人間はそれに気づいて改善しようとすることができる。

世界は悪くなっているように見えるが、よくなっている部分もたくさんある。人間の意思決定が社会を変えていく中でとても大切なことである。

貧困の撲滅や飢えの撲滅に始まる、社会が持つ問題を地球規模で解決しようとしていくという、人類の中でかつてなかった変化が起きている。人類の歴史の中で最も素晴らしい時代を生きていくみなさんの努力でさらに素晴らしい時代をつくっていった欲しい。

講義の感想

- 普段はどうしても悪いニュースばかりに目がいきがちですが、実際には暴力が減少していることや、発展途上国が目覚ましい発展をしているといった良い側面も知ることができました。
- 「持続可能な未来」のために私たち個人、民間レベルで出来る具体的な案とは何かを考えさせられ、とても良い経験になりました。



明石 康 先生

元国連事務次長、公益財団法人国立京都国際会館理事長

「世界の中の日本—もっと外に開く国に」

“Japan in the world – towards a more open, dynamic country”

世界は急速に変化している。それに伴い、今日の日本でもグローバル化が進行している。現在、国外のことについて学ぶのは当たり前になっている。多種多様な文化、人種、宗教が入り混じる現代社会において、日本も多種多様な人々を受け入れる国となる必要がある。しかし、

その中で日本の文化や伝統を守り続ける必要がある。グローバル人材を育成するために必要なことは3つある。1つ目はコミュニケーション能力の向上。人はコミュニケーションを積極的に取ることによって確固たる信頼関係が生まれる。2つ目はやる気とチャレンジ精神の旺盛。1つ1つのことにやる気をもつこと。そして、何事に対してもチャレンジ精神を持たなければならない。3つ目は異文化の理解。今後、自国と異なる文化を理解しようとする姿勢が必要となる。

講義の感想

- 心に残ったのは「平和を一旦作ることは簡単だけど、維持することが難しい。」ということで、みんなが平和を望むのだけれど、バランスをうまく取るのは難しく、維持することが課題だと思いました。
- 実際に世界を股にかけるリーダーとなるには情熱だけでは足りなくて、自ら努力してつかみ取るべきなのだと感じました。
- 明石先生の話から、今をよくするためには、過去を甘やかして逃げてはいけない。そう強く思いました。



小手川 強二 先生

フンドーキン醤油株式会社代表取締役社長

「発酵食品が繋ぐ国際化」

現在、海外でも様々な日本の発酵食品の会社が工場を作っている。フンドーキン醤油株式会社では、イスラム教徒も食べることができる、ハラール認証を受けた醤油をマレーシアで販売することにに向けて動いている。実際にどんな味が受け入れられるのか、大分の大学に通う留学生に商品開発チームに参加してもらい、はちみつ入りの甘い醤油が完成した。

世界の食の文化も千差万別である。かつて、海外のことを知る時はテレビや本や映画を通して知った。リーダー塾で様々な国の人と実際に生活をして、お互いのよさを認識し合うことは非常にいい機会である。海外で日本がどう見られているかを知り、日本の進むべき方向を日本の国内の世論だけではなく、海外の世論からも感じて欲しいと思う。

講義の感想

- 印象的だったのは、日本の味噌の消費量が減少していることです。原因が少子高齢化にあることを知り、影響の大きさや、必ず解決しなければならない問題だということが実感できました。
- 海外の人にも合わせた味噌作りなどを進めていった先生の行動をみて、伝統を頑なに守り続けるのではなく、時代の流れに応じて変化させていくというのがやはり必要だと思いました。



葦津 敬之 先生 宗像大社宮司

「宗像の世界遺産への取り組みと環境問題」

今は文字や電子を使って物事を記録しているが、かつては口伝という方法が使われており、伝達方法として精度が高かったと言われている。現在、人間は便利な機器を得て記憶を外部に依存しているが、それにより退化しているともいえる。

古事記、日本書紀には人間らしい、多様性を持った神々が描かれている。皇室の直系の神となる天照大御神も非常に人間らしい神である。神道は自然そのものにも神々が宿るという自然崇拝という考え方である。世界の国々の宗教は一神教と言われる宗教が多数を占めているが、それができる前は日本と同じ自然崇拝的な考え方もあった。人と交流する時、共通のキーワードが必要である。日本の宗教についての歴史を知っていると、外国の人と話をする時にも役に立つのではないかと思う。

講義の感想

- 世界遺産登録推進の際の Spiritual、Ecology、Animism というキーワードを紹介されていました。どうすれば沖ノ島の魅力を正しく外国人に伝えることができるのか。異文化との共通項を見つけて Communication を取ることの大切さを学びました。
- 宗教を守っていくためには、自国だけではなく、他国の宗教も理解する必要があると思いました。自分たちの宗教をもう一度理解し直す必要があると思いました。



上田 紀行 先生 文化人類学者、東京工業大学リベラルアーツ研究教育院長・教授

「『志』を持とう『愛される』よりも『愛する』人になろう

自分も輝き、世界も輝かせる生き方とは」

リーダーは社会、人をリードする必要もあるが、自分をリードできるかが大事である。この数十年で学生の考え方が、評価されることをひたすらやる、評価されればいいというふうに変ってきている。誰かが作ってくれた問題は解けるが、自分で問題を作り出すことはできない人をリーダーと呼べるのだろうか。自分で社会の中の問題を見つけて解決に向けて取り組んでいく必要がある。

日本の学生に「自分は何者にでもなれると思うか」と聞くと、そう思わないという人が多いが、それは志を持っていないことが原因と言える。自分の愛すること、志を知ってこそ、世界が広がる。日本は謙遜を美德とし人の目を気にする文化があるが、社会のために動こうという志を持ち発言する人を否定したりはしない。自分は何を愛しているのかを考えてみてほしい。

講義の感想

- 高い評価ばかり求め自分が相手に左右されるのではなく、自分自身が相手を愛する方が大事だという言葉は、私の根底にある人との関わり方についての概念を大きく変えてくれました。
- 「人生に無駄はなく、挫折や苦しんだりすることが大きな力になる。」という話で、今は不安でできていないことがたくさんあるけれど、チャレンジしたいと思うようになりました。



室伏 きみ子 先生 お茶の水女子大学長

「『研究者』という職業選択～人々が心身ともに健康で心豊かに暮らせる社会を創りたい～」

小学生の頃、理科の先生が実験を通して自分で考えることの大切さを教えてくれた。それがきっかけで理科が好きになり、進学したお茶の水女子大学の附属中学校では理科の先生が女性ばかりだったので、抵抗なく理系の道に進むことができた。いまだに女性で研究者を目指す人は少ないが、チャレンジする進路の一つとして研究者という選択肢が増えてくれたら嬉しい。世界には病気や飢えなど、山積するさまざまな課題がある。研究者はそういった課題の解決に向けて取り組むことができる、社会に必要とされる有意義な職業である。

ニューヨークに留学した時、色々な家族と家族ぐるみの交流を持った。確かな学力、人間力を養う時、様々な文化、社会環境が違う人を知り、そこで生まれる多角的な視点で探究する方法を知ることが大切である。

講義の感想

- 好きなことのために、周りの状況に対応しながら途中で諦めずに研究者を続けてこられた話を聞いて、「失敗に負けない、ねばり強くやり抜く意志と実行力。」が大切だと思いました。
- 人間の意識を変えるためには社会の構造を変えることが大切で、身の回りの環境が変われば、自ずとそれに合わせた思考や行動を人間はできるようになるものだと感じました。



麻生 渡 先生 元全国知事会会長、福岡工業大学最高顧問

「君は人生100才時代をどう生きるのか」

将来、何の職業に就くか選択するタイミングがやってくる。途中で変更することもできるが、非常に重要な選択である。「好きこそものの上手なれ」ということわざがあるように、人間は好きなこと、興味のあることをするのが一番楽しいし能力も伸びる。みなさんの人生の第一関門として、何に特化した仕事をするのか考える上で、自分が好きなことを探して欲しい。自分の心の奥にあるものがわからず客観視できない時は、自分の特性はどこにあるのか親や周りの人に聞いてみるといい。

日本の教育は、平等性が大切にされている。伸びる人を伸ばすという教育を目指してリーダー塾を開いた。将来たどり着いた場所で、周囲の心を理解し率いることのできる心の広いリーダーになってもらいたい。

講義の感想

- 過去の経験よりも新しい発想の方が大切だという言葉が心に残りました。もっと様々な経験をして、それを生かし、誰にも考えつかないような発想力をつけたいと思います。
- “時間”の大切さを十分に理解し、人生設計をしなければと思いました。人生100才時代と言われている今、後悔のない人生を送りたいです。



山口 祥義 先生 佐賀県知事

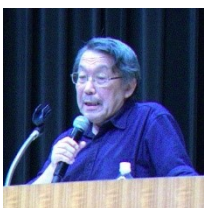
「世界で輝く佐賀～ふるさとを語れる自分に～」

かつて、佐賀には様々な技術力があつた。その理由は、長崎が近くにあり多くの情報を得ることができ世界を見ていたからだ。更に、何かをつくろうと実行に移す力があつたからである。自分が生まれ育つた世界と大きな世界を見る、広い視野を持って欲しい。また、考えること、勉強することは誰でもできるが、それを実行に移すということはまた別の能力である。自分で行動するということは誰かに教えてもらうことではなく、自分にしかできないことだ。

新しい時代をつくりあげるのはみなさんの仕事である。迷った時にはやるほうを選んで欲しい。やるかやらないか考えた時、やらなかったことは大きな後悔になる。失敗もあるかもしれないが、それを乗り越えていく時に大きなフィールドが現れる。

講義の感想

- これから何事も思い切ってやりたいと思いました。また、失敗と後悔の連続にも勝てるようになりたいと思いました。
- 地元を活性化していこうという知事の姿勢にひどく感銘を受けるとともに、私も地元で何かできることはないか考えるいい機会になりました。
- 「人生は何事も挑戦だ、物事が失敗するかどうかは決心できる。」という言葉が心に残りました。意思決定、行動選択は自分次第で良い方向に変えられると思いました。



笠谷 和比古 先生 大阪学院大学法学部教授（専門、歴史学・武家社会論）

「幕末日本の国際条約と国際環境」

日米通商条約が不平等条約であると言われている理由は二つある。一つはアメリカで逮捕されたらアメリカの法律で処理される、治外法権であるということ、二つ目は関税について日本にとって極めて不利な設定がされていたということである。しかしこれは、条約が締結された当時は日本人がアメリカに行って商売をすることは考えられておらず、日本人がアメリカに行くということもなかったためである。日本人がアメリカで商売をするということが現実になった時、これが不平等条約だということが顕在化していった。条約が締結された段階では問題がなくても時代の変化で問題点が生じることがある。様々な知識を持ち、歴史は奥深いものであるということを知って欲しい。

講義の感想

- 教科書には記載されていない歴史の奥深さを改めて感じ、歴史上で起こった出来事の本質を自ら学ぶことは、これからの人生に多様性や豊かさをもたらすだろうと感じました。
- 日露和親条約と日米通商条約を比較しながら、不平等条約体制が誤った言説であると説明していただきました。背景を理解しないと、正しく評価することはできないのだなと強く思いました。



浦川 和也 先生 佐賀県立名護屋城博物館副館長

「佐賀県立名護屋城博物館の建設と開館26年の歩み

―エスノセントリズムを超えて―

物事に対する見方・考え方は、その人の拠って立つところによって異なる。名護屋城博物館は、平成5年10月に開館し、「この戦争（文禄・慶長の役）の反省の上に立って名護屋城跡を日本列島と朝鮮半島との長い交流史の中でとらえ」、「双方の交流・友好の推進拠点となる」ことを基本理念として活動している。

学芸員は、日本中心の歴史観にも、韓国中心の歴史観にも偏ることなく、史料で史実を紹介していくよう努めている。そのためには、国と国との戦争や摩擦で苦しむのは、時代を問わず、国を問わずいつも民衆であるということを認識しておく重要であろう。

国際交流の基本は、相手の国や文化に対するリスペクト（Respect 敬意）である。エスノセントリズム（ethnocentrism 自民族中心主義）からは「敵意」しか生まれない。エスノセントリズムを超えてリスペクトしあえる関係が必要だ。

講義の感想

- 日本の持つ負の歴史について、躊躇うことなく中立な立場から話されていたことにとても感動しました。私たちは自分で調べて考える必要があると感じました。
- 「エスノセントリズムに陥ることなく、フラットに歴史を省みる。」ことが大切だと学びました。実際に残された史料から事実を見ていく必要があると、改めて考えることができました。



李 鳳宇 先生

映画プロデューサー、株式会社マンシーズエンターテインメント代表、
立命館大学映像学部客員教授

「映画で日本の未来を考えよう」

映画をつくる時、それを見て日本人はどう思うかということを考える。今、虐待、待機児童の問題など、大人の事情で子供が被害を受けている。「あの日のオルガン」という、大空襲から53人の園児を守る為に動いた保育士達の姿を観れば、大人達が子供への思いを考え直すのではないかと思った。映画は人の価値観を大きく変えたり、その映画がつくられた国や文化のことを広める力がある。

主演の戸田恵梨香に、この映画の台本を読んだ時、彼女が体験し、友人や親戚を亡くした阪神淡路大震災のことを思い出したと言われた。悲惨な戦争だけではなく、災害も日本に暮らす人を襲う。韓国人はたくましく前に進む精神があると言われるが、それは災害にあっても何度も立ち上がる日本人にもあるものである。

講義の感想

- 映画を通して人に何かを伝えようという強い意志を感じました。また、文化の都市発展などにおける可能性について話されていて、改めて文化の重要性を感じました。
- 今まで映画は、娯楽としてしか見ていませんでしたが、疑似体験として歴史を語り継いでいく役割があると聞き、今後はあまり興味の無いものでも、見て、学んでいきたいと思いました。



矢野 弘典 先生

公益財団法人産業雇用安定センター会長、横綱審議委員会委員長、
一般社団法人ふじのくにづくり支援センター理事長

「論語とリーダーシップ」

世の中には本物ではないものがたくさんあるが、本物を見ようという気持ち、それにふれた時の感動を大切にしたい。優れた人との出会いは人生の糧になる。

漢文が好きで、中学生の時に論語に出会った。大人になり、毎日の生活や仕事の中で問題に直面した時に、論語の言葉がよみがえり、自分の目の前の問題を解決するヒントを得ることができた。まず自分自身を確立し、内面を磨く。問題は外にあるのではなく自分の中にある。楽しむということは非常に深いものである。つまらないなと思いながらやるのではなく、楽しんで、没頭できる時間を持つて欲しい。

リーダーとして、知性、理性を持ち分析し判断するということは最低限の必要なものである。倫理的なリーダーシップのもと動いている組織には人がついてくる。

講義の感想

- 「本は人生を変える大きな力がある。」と仰っていました。普段読まない説明文や論語を読むことで、人生を変えるストーリーに出会えるかもしれません。本との関わり方を変えてみたいです。
- 「リーダーとはどうあるべきか。」と模索する中で「自分自身を磨くしかない。」という答えにとっても共感しました。また、一つ一つの出会いから学べることを吸収していきたいです。



沈 壽官 先生 薩摩焼十五代

「伝統を守り現代を表現する」

焼き物を作る時、以前売れたもの、評価されていたものを見てしまうが、それのできるものは自分のものではない。竹をテーマに何かを作ろうと思ったら、インターネットで竹林の写真を見るのではなく、竹林に流れる空気や踏みしめた時の感触から伝えたいことを探さなければならない。

何よりも大切なものは意志だ。何を美しいと感じ、何を伝えたいと思っているのか、まず意志を持ち、それを伝えるための技術を持つ。それが表現するということ。それを世の中の人達に見えるようにする作業が仕事である。これだと思った仕事の中で、これを伝えたいと思ったものを世の中に見せて欲しい。リーダーになった時、右に行くか左に行くか、自分で判断しなくてはいけない時が来る。その時に自分の中の哲学と照らし合わせて判断できる力を持つて欲しい。

講義の感想

- 「自由に動けるのは動かないものがあるからだ。」という言葉で、自分は誰かに動かされるのではなく、振り回されない、動かない視点を持ち、行動できるようになりたいと思いました。
- 朝鮮人だから、日本人だからと差別するのではなく、お互いに歴史や国、民族に拘束される必要はないという言葉が印象的でした。



河西 秀哉 先生 名古屋大学大学院人文学研究科准教授

「象徴天皇制とは何か」

天皇の仕事と聞いてイメージするのは、被災地の訪問などが多いのではないだろうか。しかしそういった仕事は憲法において天皇の仕事には含まれていない。第二次世界大戦終戦後、天皇には何の権限もないと世界に示す必要があり、天皇の仕事は儀礼的なものしか残らなかった。

平成の天皇は国民が予想していなかった、民間の女性である美智子様と結婚をして人気が上がった。しかし国民からの関心が下がっていく中で、象徴としてどう行動するべきかの模索をしていく。結果、今は天皇に対する尊敬の念が強い時代になった。ところが平成の三十年間ずっとそうだったわけではなく、天皇が「国民と苦楽を共にする立場」であるという考えを持って行動されたことにより、国民の天皇への関心の強さも変化し、今のような結果となった。しかし、グローバル化社会はより進行している。それに対応するような象徴天皇のあり方が今後の宿題として残っている。

講義の感想

- 講義を通じて天皇制がどのようなものか知ることができました。また、偉大さを知ることができ、親近感を覚えることができました。今後も皇族関連のニュースに関心を持っていきたいです。
- 私のような若い世代の人は、天皇陛下への関心があまり無い人も多いと思います。だからこそ、象徴天皇とは何かを私たちが考える必要があるのだと思いました。



佐々木 久美子 先生 株式会社グルーヴノーツ代表取締役会長

「高校生が知っておくべきテクノロジーのインパクト」

かつては新聞やテレビなどの一方的な情報の伝達がほとんどで、感覚が統一化される社会がつくられていた。今は個人が自分の欲しい情報を選べる時代。関わりたい人と関わることができ、自分が何をしたいかが選択できるようになった。一人一人の意識が重要になっている。

AI を作るには人の心の移ろいがわからなければいけない。プログラミングだけ学べばいい世界ではなく、文系理系という考え方は日本特有のものであり、プログラミングにも本を読んだり映画を観ることから得られる、思想を深く探求していく力が求められている。

場当たりの解決に逃げず、あきらめずに全体を見る力はテクノロジーの世界でもリーダーを目指すにも共通した必要な能力である。テクノロジーがはびこり情報に溢れた世界で、自分で行動した結果で判断して欲しい。

講義の感想

- 「人工知能は人から奪うだけではなく、何かを与えることもできる。」どの方向から見るかによって人間にとって利となるか害となるかが決まることを知りました。
- 場当たりの解決をするのではなく、全体を見て視点を変えて、諦めずに行動することで、必ず答えは得られるという意見はとても印象的でした。自分もそのように俯瞰して、視点を変えて見ていきたいです。

**滝 久雄 先生**

株式会社ぐるなび取締役会長・創業者、株式会社NKB取締役会長・創業者

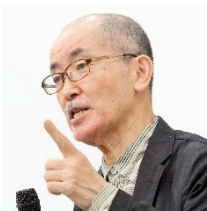
「やらなければならないことは、やりたいことにしよう！」

リーダーになるには好奇心を持ち、考える力を持つために自分の脳を進化させていくことが大切である。何かに興味を持つと、脳がそれを解決する方法を引き出そうとするようになる。頭の中に何か浮かんだ時に入れるための矛盾箱という箱を作っている。スマートフォンは便利ではあるが、使っている人の行動履歴を記憶して物事を提案してくる。意識していないとスマートフォンを使っているつもりが使われていて、考える力が奪われていくかもしれない。この問題は矛盾箱に入れるのではなく、今すぐに考えなければいけない問題だと感じている。

人間を好きになり、人間社会を好きになることが大切である。また、自分の価値観だけにとらわれず、それぞれの国の歴史的な成り立ちを尊重したうえで物事を考えて欲しい。

講義の感想

- 経営者のトップは人に騙されない能力と人を騙さない主義を持つことが大切だと思います。そしてどんな局面でも楽しみながら前に進むことができるリーダーになりたいです。
- 「やらなければならないことをやりたいことにするために、志を高く持ち使命感を持つ。」ということが無意識にできるようになればもっと人生が楽しくなると思うので頑張ろうと思いました。

**西川 恵 先生**

毎日新聞社客員編集委員

「国際政治をどう読み解くか」

歴史は未開状態からより発達した文明へと進歩・発展していく絶対的な過程と認識をされてきました。しかし近年、世界の歴史は単線的に進歩・発展していくのではなく、地域それぞれに特色ある文明を持ち、編成の違いがあるだけと相対的に歴史をとらえる仕方が大勢を占めるようになっていきます。米欧だけが世界の中心ではなく、多様な文明がモザイク状に地球を覆っているとの認識です。

国際政治について考える時も、そうした相対的な見方が大事です。国際政治は善悪という絶対価値で切ると見誤ります。価値は相対的で、一つの物事もいい部分と悪い部分を併せ持っているという視点で見ることが大切です。

まずその国を理解するにはどうするか。それは国の基礎データ（人口、国土面積、GDP、資源等）を押さえ、日本と比較するとその国の姿が浮かび上がってきます。もう一つ、国際政治を理解する近道は、政治指導者の回想録を読むことです。政治家は基本的に相対的にものごとを見ます。ぜひとも政治家の回想録を読み、相対的に物事を捉える仕方を学んでほしいです。

講義の感想

- 国際社会を読み解くのに不可欠なことは、その事象の成り立ち、その背景にある歴史、民族、文化、社会に対する視線と伺いました。
- 先生がどんなに私たちのためになるお話をされても、ある程度の世界情勢や国際政治についての知識が無いと全くついていけない、と無知だった自分がとても恥ずかしく思えました。

**若田 光一 先生**

宇宙航空研究開発機構（JAXA）理事・宇宙飛行士

「宇宙飛行とリーダーシップ」

宇宙飛行士には技術的な能力だけではなく、各国のメンバーとミッションを確実に遂行するための集団行動能力が求められる。文化や習慣が違う国の人と接する時は、すぐには理解してもらえない可能性も考慮してコミュニケーションを取る必要がある。このことは宇宙飛行だけではなく多くの職場や学校でも役立てることができる。

いつでもリーダーになれるフォロワーがいて、目標を共有できているのが最強のチームである。また、積極的にリーダーに意見ができる環境をつくることも大切。失敗した時は、それを教訓として次に生かす。壁にぶつかって試行錯誤を重ねて努力する時が実は一番進歩している時である。その時、勇気を持って自分やチームが目指す目標に立ち返り、諦める事なく学んだ教訓をどう次につなげていくかが大事である。皆さん一人ひとりそれぞれ誰にも負けない素晴らしい力を持っている。明確な目標に向かって努力し、夢を掴んで欲しい。

講義の感想

- フォロワーシップもリーダーシップと同じくらい大切なのだと知りました。また、一度底辺まで落ちたらあとは上がるだけだという言葉に私は救われた気がしました。
- 訓練でコマンダーとして、全員がリーダーを経験するとのことでした。宇宙飛行士はリーダーシップもないといけないと知って大変な職業であり、すごい職業でもあるなと思いました。



マハティール・モハマド 先生 マレーシア首相
「科学技術の発展が世界の平和にどう貢献するか」

“How Progress of Science Technology could Contribute to World Peace and Harmony”

今、海洋プラスチック・ゴミを宇宙で解決する衝撃的な解決策を聞いた。一步を踏み出し、継続的に努力すれば本当の解決策にたどり着く。ナイフは彫刻刀として美しいものを彫ることも人を殺すこともできる。科学技術の活用は、人間に与えられた選択肢だ。そのことを日本人が一番よく知っている。原子核の分裂と融合の技術開発で広島と長崎に原爆が落とされた。爆弾を作り、人を殺す決定したのは人間側の価値観。今日、人類は新しい技術で文明化されたと思い込みがちだが、国家間の紛争を戦争で解決する価値観をいまだ持っているから、原始的と言わざるを得ない。多くの軍事費を環境汚染の処理に使えば地球は美しくなり、ガンの治療などの医薬品の開発に使うべきだ。選択は皆さんにある。次世代リーダーは、戦争は犯罪で、武器はいらないと政府に意見表明してほしい。やがて、各国のリーダーとなったら、紛争解決に暴力を使わず、平和のための活動を広めてほしい。人類を文明化することが皆さんの重い責務だ。

講義の感想

- 台風など様々な障害があった中で、私たちに思いを伝えようと来てくださった強い信念を感じました。情熱を持ち続け、人のために生きる姿は本当に素晴らしいと思いました。
- 世界の諸問題の解決に向けて、私たちが技術をどう扱っていくかにかかっており、適切に扱えるようになるために原始的思考から脱却して、「人類が文明人になること。」がこれから目指す重要な通過点であると感じました。



榊原 英資 先生 青山学院大学特別招聘教授

「危機的状況でのリーダーシップ」

平時と緊急時のリーダーは求められるものが異なる。平時のリーダーは相談して、合意を取りつける調整する能力、緊急時は強い判断力が求められる。

米中貿易摩擦、ヨーロッパの国々の難民問題による EU からの離脱など、世界は難しい状況になっている。トランプのアメリカファーストの姿勢も国民から支持されず、次の選挙で大統領が変わる可能性もある。リーダーの交代の時期に来ている。

日本の憲法は戦後から変わっていない。長い年月の間に起こったことを踏まえて、憲法、法律をどう変えるか考える時が来ている。最近ポストモダンと言われ、日本人が豊かになっている。がむしゃらに働いていた時代が過ぎ、成熟社会の日本で何をするかを考えることが重要である。

講義の感想

- 緊急時には強い意志で人を引っ張っていくリーダーシップが必要だなと感じました。私はとっさに判断することが苦手なので、決断力もあるリーダーを目指していきたいです。
- 普段海外ニュースは見ないのですが、想像以上に日本と密接に関係している国が多いと知ったので、これからは色々な方向から情報を集めたいと思います。

卒塾生発表 社会や大学で活躍する4名の卒塾生に話をしてもらいました。

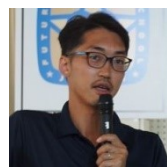


1期 中川 智博 さん 外務省アジア大洋州局中国・モンゴル第二課課長補佐

先日、首脳会談で通訳を担当した。通訳をするときは事前準備をしっかりとすることがあり、通訳をする相手のスピーチを何度も聞き、その人の話し方や発音の癖を理解したり、相手の国の文化などについても事前に理解しておく必要がある。

将来は東アジア地域の平和・和解に携わりたい。東アジアが和解をできたから、他の地域でも和解することができると言いたい。

みなさんには、勇気を持ってチャレンジをして、一生懸命に事前準備をし、反省をするとともにこれまでに助けてくれた人に感謝をして欲しい。



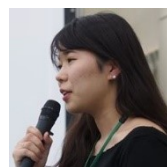
2期 椿原 誉樹 さん 住友商事株式会社アグリサイエンス部アグリテックチーム主任

現在、テクノロジーを使って農業の課題解決をする仕事をしている。「生きるコスト」を下げることで、人がありのままに多様性を持って生きることができる社会にしたい。

リーダー塾で、こんなに面白い人たちがいるのかと刺激を受けた。

人の気持ちが分かる人じゃないとリーダーになれない。そのためには人や国のバックグラウンドを知らなくてはならない。一人で考えるのではなくみんなで共有することが大事。謙虚さを忘れないで欲しい。

日本の次世代リーダーではなく、世界のリーダーになってほしい。



11期 時津 美弓 さん 早稲田大学国際教養学部国際教養学科

リーダー塾で明石康先生の英語が聞き取れなかったことが悔しくて英語を勉強し、黒崎伸子先生が女性でも海外に出てNGOで活躍していることに影響を受けた。

大学入学時、3分の1が留学生、3分の1が帰国子女で授業が英語で行われるという環境で、英語がコンプレックスだった。そのとき帰国子女の友達から「あなたはこれまで日本語の勉強をしてきたのだから、これから英語を勉強すればいい。自分は今まで英語を勉強してきたからこれから、日本語を勉強する。順番が違うだけだ。だからコンプレックスを感じる必要はない。」と言われて救われた。

難民について勉強をし、アメリカに行きイスラムの難民を支援しているシェルターに研修に行った。

また、スウェーデンに一年間留学に行き、難民について勉強をした。その中で親や自身が難民である人やハーフ、帰国子女のアイデンティティの形成について勉強をした。



13期 岩崎 綾夏 さん The College of Wooster 心理学専攻・教育学副専攻

リーダー塾の前は日本の大学を目指していたが、塾後にアメリカの大学に志望が変わった。

塾生は大きな夢を語っていて、同世代の人が大きな夢を語るのを聞いて自分にもできると思った。

リーダー塾はコンフォートゾーンではない。人はコンフォートゾーンではない場所で成長ができる。自分ができないことをするのは大変だが乗り越えたら違う世界があり成長することができる。

私は教育によって子供たちの選択肢を増やせるようになりたい。教育によって自分が見えなかった世界を見て幸せになる選択肢が増えるような仕事をしたい。

発表の感想

- リーダー塾を卒業した人達が実際に活躍している話を聞いて感動しました。自分の夢を叶えるためにはひたすらに努力して挑戦し続けるしか無いのだと思いました。
- どの方の発表もとても堂々としていて自分自身を理解しているのがとても印象的でした。先輩方のように胸を張って堂々とできるように高校時代に経験を沢山積もうと思いました。
- 卒塾生の話を聞き、この塾がどれほどいいものであるかがわかりました。また、緊張するということは自分の限界を越えようとしているときだという言葉聞いて自分に自信ができました。
- お話の中にアジア人としてのアイデンティティというものが、その言葉が自分の意識を変えました。自分も世界に出て、アジア人としてのアイデンティティを見つけたいです。
- “心地の良い場所では無いからこそ”という言葉がとても印象に残りました。私も苦しいことから逃げずに自分を成長させてくれる方を選べるようにしたいと思いました。
- どの先輩方の話を聞いても前向きでポジティブだと感じました。また、上手くいかなかった時に落ち込むのではなく、努力をし、何度もチャレンジして成功することの大切さを知りました。

6. 塾期間における成果・課題や卒塾後の様子

第16回日本の次世代リーダー養成塾（以下、リーダー塾）を終えて、塾生概要、期間中における塾生の様子や成長をまとめた。

塾生概要

（１）概要

塾生は、負担金をいただいている9県2市（北海道、青森県、岩手県、静岡県、岐阜県、和歌山県、愛媛県、福岡県、佐賀県、福岡県宗像市、沖縄県うるま市）の参画県推薦枠から115名、全国から選抜する一般公募枠54名、アジア6ヶ国から招待したアジア奨学生16名、あわせて185名（男子68名、女子117名）が参加し卒塾した。

日本人卒塾生は、国内28都道府県123校、海外1校に所属していた。国内の高校に通う者の中にも、塾直前まで留学していた者や、海外生活を数年経験している者、卒塾後に留学予定の者など、国際色豊かな塾生が揃い、アジア奨学生のフォローにも一役買っていた。塾生は22～24名ごとに8クラスに分け、各クラスにクラス担任1名がついた。（巻末参考資料③～⑤参照）

（２）アジア奨学生の招待

2014年より、日本だけでなく海外の同世代とも互いに切磋琢磨し、広い視野を持ったリーダーとして成長してもらうためアジア奨学生としてアジア各国から高校生を無償で招待している。今年からベトナムが加わり、中国、マレーシア、モンゴル、タイ、韓国6ヶ国から16名を招待し、2週間寝食を共にした。一般社団法人東京倶楽部から、渡航費、宿泊費等のご支援をいただき、招待が実現した。募集にあたって在中華人民共和国日本大使館（北京）、在福岡大韓民国総領事館、在タイ日本国大使館、在ベトナム日本国大使館、成都外国語学校、石家荘外国語学校、帝京マレーシア日本語学院、新モンゴル小中高一貫学校などのご協力をいただいた。アジア奨学生の期間中の様子については27ページ以降で後述する。

（３）塾生の募集及び選考

塾生は、参画県推薦枠もしくは一般公募枠のいずれかの応募枠に申し込み、書類や面接による審査を経て塾に参加することができる。参画県推薦枠は、各自治体で個別に募集および選考をいただいている。一般公募枠については、事務局が募集・選考を担う。

一般公募枠に関しては、3月に全国900校以上の高校に募集要項や募集チラシなどを一斉に発送し、そのうち一部の学校には電話での営業活動や高校への訪問を行なった。学校においては繁忙期であるにも関わらず、ご対応・ご協力いただいた学校関係者の皆様には、改めて感謝申し上げたい。そのほか、卒塾生にも周知活動をお願いし、自身が活動する団体や高校の後輩へのチラシ配布やSNSを通じての呼びかけに協力してくれた。塾生が参加を決意するきっかけに、先輩や兄弟姉妹が塾への参加を契機に大きく成長した姿を目の当たりにしたことを挙げる者が多い。今後も卒塾生による周知活動協力を期待するとともに、塾として卒塾生の活躍を支援していきたい。また、昨年度から公式のFacebookページにて広告した。参加した塾生から広告を見て応募した塾生もいたため、一定以上の効果を得たと考える。来年度以降も引き続き行う予定である。

一般公募枠の選考については、一次選考（応募書類及び作文）、二次選考（個人面接）による審査がある。面接は全国5ヶ所の会場で実施し、海外に住む者については、Skypeによる面接を行った。個人面接の後には、審査には含まないが、塾でのプログラムを疑似体験してもらうため、場所によってはグループディスカッションを行った。今年は、アジア・ハイスクール・サミットのテーマにも関わる「1か国だけでは解決できない地球規模の問題とは？」をテーマにフリーディスカッションを実施した。差別、貧

困、海洋汚染、地球温暖化など内容は多岐にわたり、どのグループも論議が停滞することは少なく、応募者の社会定期関心が高いことがうかがえた。

塾生の期間中の様子

(1) 選考通過から入塾式まで

6月上旬、1次試験、2次試験を通過した合格者が決定。塾が始まるまで1ヶ月あまりの期間、塾生たちは与えられた課題や持ち物の準備を学校生活の傍ら行った。2週間もの長期間、家族と離れて過ごす経験がなかった者が多くいた。塾期間中は、洗濯からスケジュール管理など自分の事は自分で行うことを基本としている。最低限の持ち物リストは塾から提示しているが、自身の普段の生活で必要としている物は、自分で考えて持ってくる必要がある。準備に関しても、自立した生活のための大事な学習の機会になっている。

塾初日、日本全国、アジア各国から集まった塾生185名や来賓が一堂に会し、入塾式を開催した。塾生を代表する3名が、榊原英資塾長代理に向けて決意表明を行なった。まず、開催地である福岡県を代表して、福岡県立筑紫丘高等学校2年生の平雄太^{たいらゆうた}さんが、全国とアジアから集まった塾生へ挨拶を行ない、6月にG20が福岡県にて開催され主要国のリーダーたちがこの地、福岡県を訪れたとこに言及した。「私たちも立場は違えど、これから2週間の活動の中で、世界規模の課題の解決に向けてアジア・ハイスクール・サミットで議論を交わし、宇宙でその課題をどう解決するかにチャレンジします」と決意を表明した。

次に、岐阜県の岐阜高等学校2年生の日比咲希^{ひびさき}さんが、自分自身が参加した模擬国連や即興型英語ディベートの活動を通じて経験し感じたことを語り、「私は、抱える課題が多いからこそ自国の未来に責任を持ち、『これから』を大きく変える議論に若者が積極的に参加することが大切だと思います。明日を自分たちの手で作り上げるのです。このリーダー塾では講師の方々のお話を聞き、皆さんと議論することで課題に対する、私たちだけの『世界でたった一つの答え』を見つけたいと思います。」と力強い思いを宣言してくれた。

最後に、アジア奨学生を代表して、今年から初参加となるベトナムの Foreign Language Specialized School の Nguyen Thu Giang^{グエン トゥ ジャン}さんが、8歳から12歳までを過ごした日本の小学校と、ベトナムの小学校の違いに触れ、「私は、教育者になりたいと思っています。そして、より多くの子供がより良い環境で学べるようなサポートをしたいです。将来、世界を支えるのは私たち、高校生です。そのため教育者はたくさんの大切な義務があると思います。時代が変わっていくとともに教育方針も変わっていくのでそれに応じて考えなければなりません。だから教育者たちは世界の動きについて知らないといけなし、どのような教育が今の状況にふさわしいのかもしっかりと考える必要があります。」と流暢な日本語で決意表明した。

他の塾生たちは、これから始まる塾に向けて期待と不安の入り混じった緊張感のある面持ちで3人の代表挨拶に耳を傾け、気を引き締めていた。



▲塾初日、受付をする塾生（左）と塾生を迎えるクラス担任（右）



▲決意表明する3名の塾生代表

(2) 塾生の様子と特徴

16期生は素直で協調性のある塾生が多かった。塾開始前からSNSで準備物や事前課題について情報交換し、塾初日には知り合いになっている者もいた。合唱の練習など、全員で取り組む活動では、周りと協力して円滑に進めていた。議論の中で自分の意見を通そうと周りが見えなくなり、時にはぶつかり合うこともあったが、その後に引きずることなくうまく切り替えていた。

またクラスをまとめるリーダーは、先頭に立って引っ張るというよりも、「仲間とともに歩む」というスタンスで、皆と同じ目線でクラス内の異なる意見を受け入れ、まとめていた。

一人ひとりが明確な目標を持って参加しており、何を学びたいのか、自分には何が足りないのか、どうやったらクラスで貢献できるのか、自分を成長させたい、ということを真剣に考えていた。

一方で、当たり前のことができていない点もあり、時間を守る、予定を管理するなどの点においては、レベルアップが必要な塾生が多かった。

全体的には仲が良く平和であったが、積極性が足りない部分もあった。自分の意見に自信がない塾生や発言量が少なく大人しい塾生も見受けられ、受動的な姿勢で、自ら進んで行動することができていない塾生も多かった。塾期間中の前半では緊張のせいか、講義後の質疑応答で手を挙げる塾生が少なかった。しかし徐々に緊張が和らぎ、自分を当ててほしいとクラス担任へ申し出るなどの積極的な姿勢を見せる者や、講義後に講師を求めて講義会場の外にまで行き、質問を繰り返す場面も見られた。序盤は手を挙げられなかった塾生も、仲間と話し刺激を受け、後半には様々な質問をしていた。

また、あるクラスでは、最初は自分の意見をなかなか言い出せず、ぶつかり合うことさえなかった。しかし塾後半、アジア・ハイスクール・サミット発表前日に、初めて塾生同士が本音でぶつかり合うことができ、クラス全員で「今思っていること」を話し合った。アジア・ハイスクール・サミットの発表準備は進まなかったが、このことにより、ようやくクラスが一つになった。翌朝クラス全員で早起きをして、発表準備を行なったときの集中力は素晴らしかった。「あの話し合いがあってよかった」と、塾生たちは本気のぶつかり合いを良い経験と捉え、前向きな姿を見ることができた。

地元の学校生活においては優秀であろうと思える塾生が多いなか、塾に参加して異なる地域の人々と関わることで、自分より優れた人がいると言う事に気づき、ショックを受けたり、今まで自分が知らなかった一面を仲間に見つけてもらったりしていた。ショックと気づきを繰り返すことでお互いを意識し成長するなど、塾生同士で良い化学反応が起きていた。

楽しむ時は楽しみ、真面目な時には真面目にとメリハリをつけ、卒塾式前日の前夜祭では、ダンス、バレエ、書道パフォーマンスなど、日頃見ることが出来ない姿を披露した。



▲クラスは学級委員を中心に運営



▲合唱練習も塾生主導で行う



▲熱心に合唱練習に取り組む塾生たち



▲夕食の様子。2週間寝食を共にした仲間はまるで家族のよう



▲質疑応答では多くの手が挙がる

(3) 短期間での成長

■卒塾生代表挨拶

期待と不安が入り混じった入塾式の表情から一変、卒塾式での顔つきは大きく変わっていた。ハードなスケジュールをやり通し、仲間たちと議論を尽くし、大切な仲間を得たその顔は達成感と自信に満ちていた。その成長は卒塾式での代表挨拶に表れている。

静岡県立韮山高等学校2年生^{まつもとなおや}松本直也さんは、「リーダー塾へ参加する前、私は自分の高校で生徒会や文化祭を役員として運営した経験があり、少し天狗になっていました。自分にはリーダーとしての実力があると信じ、リーダー塾の自己の目標に『自分の実力を確かめる』と書きました。しかし、私はこのリーダー塾で自分よりも多くのこと知り、率先して周囲を見て行動できる、自分は到底及ばないような高校生が世界には存在することに気づきました。同じ高校生なのに、自分よりも数倍大きく、賢く見えました。自分は井の中の蛙であり、この世界のことを何も知らない、そう思いました。最初の委員会やクラスの委員長決めにも多くの塾生が立候補し、全国の高校生の積極性に驚きました。自分はまだまだなんだ、と実感した瞬間でした。講義をしてくださった一流の先生方の話も深く心に刺さりました。元国連事務次長の明石康先生の授業では、おっしゃっていることの九割は理解することができなくて、頭が真っ白になったことを覚えています。頑張っ^て手を挙げて質問したものの、自分の英語力の無さを披露したようなもので、そのあとは心が折れそうでした。英語をもっと勉強しなくてはならない、もっと話せるようにならないといけないと思った瞬間でした。まずは英語力、そう胸に刻みました。鎌田實先生の『人にレッテルを張って評価してはいけない』という言葉。これは私が一番印象に残っている言葉です。人が自分に見せている部分はその人のほんの一部である、少し考えればわかることなのに、『ここは自分のほうが優れているな』とすぐに人を下に見てしまっていた自分が恥ずかしいです。この講義の後からは、すべての人に尊敬の念を持って接することができるようになりました。大人数でのディスカッションというのも私は経験したことがなく、右も左もわからなくて最初は全く建設的な議論ができませんでした。学生リーダーに指摘を受けても改善できなかったことも多く、結果的にクラス全体の意思決定が遅くなるということもありました。しかし、日を重ねるごとに先生方や仲間たちからさまざまなものを吸収し、最終的にはクラス全員の思いが詰まった発表をすることができました。私はこのリーダー塾に参加して本当に良かったと思っています。世界の広さを知ることができたことはもちろん、最高の仲間を作ることでもできました。仲間と真剣に意見をぶつけ合ったのも今ではいい思い出です。この仲間たちと過ごした密度の濃い二週間は絶対に忘れません。時には自分の実力不足を感じ、くじけそうになったこともありますが、その辛さや気付きはすべて自分の糧になったのだと確信しています。」と成長の過程を話してくれた。

また、東北育才学校高等部3年生^{かんひんたく}の韓浜澤さんは、「この夏は、私は日本とアジアの国々からの185名の高校生と一緒に熱い2週間を過ごし、精神の面でも知識の面でも様々な経験を積みました。仲間を巻き込んで前進しようとする情熱から、リーダーとして大切な粘り強さを、カリキュラムの中で繰り返し、身体に染みこませました。実際に各業界で活躍する講師の方々や、自分の夢に向かって努力している同年代の人たちと接して、私は今まで持っていた価値観が大きく変わりました。そして味噌汁コンテストや佐賀城本丸歴史館と宗像大社の見学によって、日本文化についてもより深く理解することができました。特に一番思い出に残っているのが、アジア・ハイスクール・サミットです。そこでは、塾生全員が宇宙規模の解決策にたどり着けるよう、真剣に考え抜き、とことん語り合いました。お互いの意見を尊重しながら



▲卒塾式代表挨拶の様子

も、一つの問題について、意見をまとめる事が多く、最初は上手くいかずとも、最後にみんなで課題を成し遂げられた時の達成感は一生涯忘れられません。リーダー塾は人生で1番といっても過言ではないほど素晴らしい青春の1つです。長い人生の間に、14日は本当に一瞬に過ぎませんが、今振り返ってみると、皆さんとは長く付き合っている仲間のように感じています。これからはリーダー塾で出会った一生の仲間たちと支え合いながら、ここで得た経験を、未来を切り拓く力として生かしていきたいと思います。」と未来への力強い意思を述べてくれた。

■塾に参加した感想、塾で得たもの

塾に参加した感想や塾を通して得たものを塾生に聞いた。以下に主な内容を抜粋して掲載する。

日本全国とアジアの友達と仲良くなれたのが一番よかったことです。リーダー塾に参加しなければ会うことのなかった人達と触れ合うことが出来たのはとても嬉しかったです。
社会に出ていく中で一生の憧れとなる講師の方々、将来について何も隠さず相談できる担任の先生方、これからもライバル視できる、全国・アジアのレベルの高い仲間など、生きていく中で支えとなる、日常生活では絶対に出会えない多くの人々に出会えたことは本当に良かった。
確実に成長できました。私の場合は特に、学校の議論の中で好感度を気にせずに 自分の意見をはっきりと言えるようになった ことです。また、たくさんの講義を聞いて、海外留学をするという決心がつきました。たくさんの知識を得ることに加え、全国・アジアに意識の高い仲間ができたことはリーダー塾ならではの良い点だと思います。
方言の違いや各地域の特殊な文化など同じ日本人でも違う文化があり、実際に話を聞き、学ぶことが出来、とても面白かった。 自分に何が足りていないか自覚することが出来る良い機会となった 。同じ高校生でも、こんなに違うものかと驚きを感じ、また頑張ろうとやる気が出た。
高い志を持つ同世代の仲間と出会い、外からの刺激を受けて、 自分の価値観や考え方が変わり、視野が広がった こと。
自分を見つめ直す機会になった 。普段の生活ではどうしても、周りが慌ただしいあまり自分の時間を作ることは難しい。しかしリーダー塾はスマホとも、普段の生活とも離れて、全く新しいコミュニティの中で生きることができる。また、自分の話を受け入れてくれる最高の仲間ができる。こんなにも自分について話したいと思える友達は初めてかもしれない。
勉学に関する意識が向上しました 。
このリーダー塾では、アジアからも学生が参加していました。彼らは母国語以外に日本語や英語を話していました。その彼らと共同生活を通じて 世界の広さを直に感じる ことができました。
あれほど多くの凄い方のお話を聞けるのは大変貴重で、学ぶことも大変多かった。その中には、今後、忘れないような心に残る話もあり 将来、壁にぶつかったときにヒントとなるものを得られた 。
情熱を持つ大切さが身に染みてわかった ことです。
全てが自分の成長に繋がる良いプログラムばかりでした。一流の講義を通して、将来について考えさせられ、リーダー像を持つことも出来ました。入塾前よりも、 世界を舞台に活躍したい という思いが強くなりました。
自己管理ができるようになりました。自分の身の回りのことを全部自分でする機会はなかなか無かったのですがタイムスケジュール含め自分のことは自分でする癖がつきました。また、何でもかんでもスマホで検索せずに 自分の頭で考える楽しさと面白さを知りました 。
自分の小ささと自分の可能性の大きさに気づくことができました。そしてもっと 努力を続ければ、もっと成長することができると感じる ようになりました。

（４）塾生の今後の課題

２週間を通し、多くの塾生が目を見張る成長を遂げたが、以下には塾生が今後さらに強化すべきと思われる課題を挙げたい。

■計画性

塾期間中だけではなく、塾前、塾後は締切を設けている宿題や提出物が多くあった。塾前の事前課題、塾中はみそ汁コンテストのプログラムの決定、アジア・ハイスクール・サミットの発表、合唱、オリジナルネッピーの製作、塾後には講義レポートやアンケートの提出を求めた。これらに対し、締切を守れない、本番までに間に合わないなどの塾生がいたことは非常に残念である。

事前、事後の提出物に関しては、日頃使い慣れないデジタルデバイスによるものであったり、学校生活や部活動、受験勉強の合間に行なうということで、忙しい中での提出となる。しかし、それはみな同じ条件で理由にならない。社会に出た後に納期や締切に遅れることがどれほど周りに影響を与えるのか。一つの締め切りを守らないことで大きな損害を出してしまう事もある。自分の置かれている環境、状況を含めて求められているものをどうマネジメントするか。そこをしっかりと予測し、考えながら取り組む必要がある。特に、遅れている塾生の中には、事務局からの再三の連絡に対して応答せず、最終的に保護者に電話するという案件もあった。もう一度、締切や約束の大事さを考えて欲しい。

塾期間中のスケジュール管理に関しても同じである。時間や生活態度に対してルーズな塾生が多かった。塾期間中には実際、停電による急な予定変更や、マハティール首相歓迎のために開催したリハーサルの実施などの予定変更を行なってきた。今回、多くの予定変更や締切、提出物の多さに驚いた塾生もいるだろう。しかし、どの事項に関しても、基本的には余裕を持って取り組めるように設定している。遅れは相手に対しての甘えである。しっかりと今回の自分のスケジュールリングを振り返り、今後に生かしてほしい。

■主体性

塾では、塾生がリーダー塾期間中の生活を自分達で進めることが出来るように委員会制度を設けている。全員が「学級委員」「施錠・防災委員」「会場委員」「掃除委員」「食事委員」「洗濯委員」「入浴委員」「保健委員」のいずれかの委員として活動する。今回、それぞれのリーダー職を決める時には積極的に立候補があり、多くの塾生が与えられた役割に対して、意欲的にこなしていた。各委員会では、委員長、副委員長を中心に、空き時間に自主的に委員が集まり、食堂での効率的な配膳や適切な鍵の管理、限られた時間で洗濯をするための工夫などを話し合い、着実に実行していた。

しかし、役割が決まっていないことについて、主体的に動く者が少なかったことは残念である。講師の先生が入場される直前でも騒がしかったり、就寝時間を守らないなど、生活態度がよい者がないときなどは、スタッフが注意した。スタッフから注意を受けないと気がつかない、また一度注意をただけでは互いに声を掛け合うなどの解決策を考えようとする動きがなく、同じことが繰り返された。慣れない環境のなかで200人近くの塾生に呼びかけることは勇気のいることだが、リーダーを志す者として、広い視野をもって今何をすべきかを考え、一步踏み出す勇気を持ってほしい。与えられた役割を全うするだけでなく、能動的に動くフットワークの軽さを身に着けてほしい。

■体調管理

慣れない環境で体調を崩す者がいた。今年に限ったことではないが、「カリキュラムを詰め込み過ぎる」「睡眠時間が短い」などの意見が見受けられた。カリキュラムの突然の変更や他の団体との兼ね合いによる食事時間の変更などがあったが、基本的には規則的な生活ができる様な配慮はしてある。将来、海外に留学したら授業までにこなす課題は、この比ではない。世界に飛び出して世界の同世代と伍して生きていくには、自分に対して厳しくしなければ、他人の上に立つリーダーにはなれない。体力面、精神面の充実には社会で活躍するために必要なものであり、基本的なものである。体力増進を図ると共に、周りを思いや

る気持ちを持ち、自分の体調をコントロールできるようになって欲しい。

全体をとおして、どの塾生も、事務局や担任、学生リーダーが注意をすると素直に話を聞く塾生が多かった。誰しも間違いはあり、失敗することもある。失敗自体が問題ではなく、次にどうするか、何が足りなかったのか、今の課題は何なのかを考えて欲しい。現状に満足せず、リーダー塾での経験を活かし、より広い世界で羽ばたいてほしいと考えている。

卒塾後の活動

卒塾してから約1ヶ月後、塾生とその保護者、学校の担任の先生を対象に事後アンケートを実施した。塾生本人にはリーダー塾での経験を振り返ってもらい、保護者と担任の先生方には塾生の参加後の様子を第三者の目線から見ていただく。塾生の成長や変化を様々な角度から知ることにより、卒塾生のフォローアップや、より魅力ある塾運営のために役立てることが狙いである。（詳細は59ページ以降を参照）

ここでは、塾生への事後アンケートから「卒塾後の活動」を紹介する。卒塾してすぐに活動している塾生も多く、行動力には目を見張るものがある。卒塾生達は今、全国各地で目の前にある課題をしっかりととらえ、自分の出来ることから挑戦を行なっている。今後も事務局は、これら卒塾生の活動を出来る限りサポートしていきたい。

【リーダー塾報告会】

地元青森県に住む方々や高校生に報告した。簡易的ではあったが、リーダー塾の概要や2週間の中で印象に残ったこと、自分自身が学んだこと、身につけたことなどについて話した。これからも多くの高校生に報告をする予定なので、聞いた人が絶対行きたくなるような報告の仕方を練っていききたい。
愛媛県のリーダー塾に興味がある高校生に向けて報告会を県参画枠の人たちと行いました。発表はAHSで行った活動や、全体概要を説明しました。質疑応答の時に、質問に答えるのに、マイクの手取り合いになりながら答えるなど、リーダー塾のテンション感を少し伝えられたと思います。
文化祭で全校生徒に向けて発表を行った。リーダー塾での毎日の流れなどをパワーポイントを使って説明して最後に感想を言うというものだった。発表しているうちに思い出が蘇ってきて懐かしくなった。また次は中学生の文化祭でも発表することを予定している。
学校の生徒全員、特に自分より下の学年の生徒に対しての報告会をしました。リーダー塾の魅力やここで学んだこと、そして、その後自分がどう変わったかを説明しました。1200人以上の前で報告会をしたので少し緊張しましたが、うまくリーダー塾の良さを伝えることができました。
高校2年生に向けたリーダー塾についてのプレゼンを英語で行った。たくさんの人にリーダー塾の良さを伝えられてよかった。次もこういう機会があったら積極的に参加していきたい。

【学校活動】

学校の総合活動の「新しい遠野物語プロジェクト」でアジアの少数民族と貧困について、経済格差についてデータを元にした自分なりの考えと解決策をクラス全体にプレゼンした。
今までやっていた学内の研究プログラム(super global high school)でやっていた、ねりまみどりの教室という企画への態度が変わった。自分はこのEAporTという団体のリーダーを務めていたが、今まで自分は無意識に階層構造を作りだしてしまっていたことに気づいた。良い組織を作るには、フラットで対等でお互いに成長し合える環境づくりが必要だと思い、リーダー塾で得た経験を生かして話し合いの方法やまとめ方を変えていった。
学校の探究活動で「守ることができたはずの死」について考えており、それにリーダー塾で学んだ知識を活かし共有し、10月末には学年全体での発表があります。
2000部発行する学校新聞に掲載し、全校生徒にリーダー塾を紹介しようと考えています。

生徒会執行部と先生が話し合う場を作り、先生が一方的に環境づくりを推進するような状況を変える採択を議会で取った。
学校の会報にリーダー塾についての記事を載せていただきました。

【ボランティア】

青島太平洋マラソンというイベントのボランティアに応募した。
以前から、ボランティアで参加していた Ted'xHamamatsu で、 高校生無料招待プログラムのリーダー をし、アテンドとして高校生を迎え入れ、高校生と、社会・夢とを繋ぐレクリエーションを考え実行しました。リーダー塾で、ファシリテーターをやった成果も出て、上手く、プログラムをまとめることができました。
聖路加国際病院が主催している 障害を持った子供達とのキャンプにジュニアリーダーとして参加 した。
地元のお祭りで カンボジアの子供たちのために募金 を行った。
人との交流を深めるために、ボランティア活動に参加 しました。
ラグビーW 杯のボランティア を行いました。私の住む釜石市はラグビーW 杯の開催地の一つで、9月25日と26日に市に訪れた外国人観光客の道案内や試合の宣伝を英語で行いました。
JICA の活動報告会に参加し、NGO に関する知識や見聞を広めた。 今後は地元の虹ノ松原の清掃活動などを頻繁に行いながら、各地のボランティア等に参加を予定 している。
多くの人に自分が体験しているボランティアを体験して貰うために 来年度の文化祭に向けてボランティアのワークショップを企画 している。
小学生に向けた英語学習教室のサポート をした。
リーダー塾最終日の頃に九州を通過していた台風の影響で甚大な被害を受けた 佐賀県の大町町に災害ボランティアとして0泊3日で名古屋から参加 しました。人生で初めて参加したボランティアでしたが、困っている人がいたら助けると言う当たり前の事の大切さを改めて知ることが出来ました。

【自己研鑽】

e-hiroshima やグローバル未来塾、国際フォーラム、cdm（姉妹高とのメールのやり取り）など、たくさんのプログラムに積極的に参加し、グループでの役割分担のときに躊躇せずリーダーに立候補し、塾で学んだリーダー像を意識しながら グループでのワークを円滑に進められるように、努力 しています。
岩手サファリの短期アルバイトをした。料金場で 外国人のお客様に英語で接客 した。これはリーダー塾のおかげだと思う。また最難関大講座というのにも参加した。これは九州大学と東京大学の教授が英語と数学を難関大学の入試レベルに合わせて授業してくださった。
探求活動の一貫で 起業、合同会社の設立に向け準備を進め ている。
コンサルティング会社のPwCのサマープログラムに参加しました。3人組のチームを組んで 沖縄県が抱える課題(教育、食事など)を解決する事業を提案する というものでした。また、その事業を通して同時にどう利益を得るのかを考えるプログラムでした。解決したい課題に対する理想的なアプローチと利益を得るための現実的なアプローチを両立させることが大変でした。 チーム内ではリーダーシップを発揮するよう意識 しました。3人がそれぞれの役割を果たし、 8チーム中1位を取る ことができました。
地元の未来を変える為に活動しようとしている友達とタッグを組んで仲間を増やし、SDGsについて 考え方を深め広げる活動をするつもりです。

【講演会、ディスカッション】

高校生 ICT Conference という SNS について県内の様々な地域から集まった仲間とともに半日をかけてディスカッションをし、その成果をプレゼンテーションするというプログラムに参加しました。リーダー塾で学んだディスカッション時の周りの引っ張り方や意見の出し方、聞き方について活かしました。

AO 入試でグループディスカッションが必要な人のために 5~6 名を集めて練習をしました。

J A X A の講演会に参加しました。学校の英語のディベートチームに参加し、来月行われるディベート愛媛県予選大会に参加する予定です。また、A P - S G W にも参加予定です。

16 期生が立ち上げたディスカッショングループに入りました。また、佐賀で行われた C・W ニコルさんの講演に行き、質問をしてきました。

生徒会で月一で学校改善のためのディスカッションをするようになった。

【その他】

市内のラジオに出演しました。

新たな奨学金のシステムを作ろうと考えています。無償で多くの人が大学や高校など次のステージへ行けるようなものを作りたいです。

県で行われる「第 26 回高校生による海外エネルギー事情研修会」に参加します。フランスと、スウェーデンを訪れて、エネルギー施設の見学や、現地高校生との交流、文化見学などをするものです。県で 6 人しか行くことができない貴重な体験だと思います。

高校生が運営している「校外プログラム大全」にリーダー塾の記事を執筆し寄稿した。

アジア奨学生

昨今のアジア地域の情勢は目まぐるしく変わっている。日本を取り巻く近隣諸国との関係を考えるとき、若い世代の偏見のない関係構築が重要と考え、日本語を勉強しているアジア各国の学生を招聘している。このアジア奨学生制度は 2014 年にはじまり、今年で 6 年目を迎えた。今年も、在タイと在中国の日本大使館や在福岡韓国総領事館をはじめ、毎年優秀な生徒を快く派遣してくださる海外の学校から多大なご協力をいただき、中国、マレーシア、モンゴル、タイ、韓国、そして今年は新たにベトナムが加わり合計 16 名のアジア奨学生が来日した。(74 ページ資料⑤を参照)

アジア奨学生は各クラス 2 名ずつに分かれ、2 週間の合宿生活を通して、日本人学生と共に考え、議論する。例年と同じく今年のアジア奨学生のほとんどが日本語上級者であり、その中でも数年間の日本滞在経験がある者は、むしろ同世代の日本人よりも丁寧な日本語を使う事が出来る塾生もいた。その一方で、慣れない生活環境や日本語に対する自信の無さにより、塾開始当初はクラスに馴染めず苦心する者も見られた。その中で、講義やディスカッションで難しい言葉があれば日本人の塾生がサポートし、発言しやすい環境をつくり出していた。塾後半には積極的に議論に参加できるようになり、国を越えた友情が育まれた。様々な国の塾生がいることは、日本人の塾生にとってもアジア奨学生にとっても大きな刺激となった。



▲クラスの中心となって議論を進めるアジア学生



▲塾生にマレーシアの歌『ラサヤン』を教えるアジア学生



▲民族楽器を披露するアジアの学生

アジア奨学生プレゼンテーションはまだ緊張感がとれていない2日目に行ったが、アジア奨学生の懸命な各国紹介によって、多様性を大切にする雰囲気が醸成された。日本語で堂々と発表する姿、ユーモアを交えて外国語で巧みに笑わせながら聴衆を引き込むプレゼン能力に、日本人塾生は一目おいたようである。塾全体の空気が和み、「もっとお互いを知ろう」と周りに積極的に話しかけるきっかけとなった。



▲名護屋城での茶道体験

アジア奨学生は、2週間という限られた期間の中で、宗像大社での本殿参拝、名護屋城博物館併設の茶室での茶道体験など日本文化を体験し、畳の心地よさや茶室から見える庭園の美しさに感動していた。生活スタイルや食事面で驚いたことや馴染みにくいことがあったようだが、体調を崩すこともほとんどなく、元気に楽しく団体生活を送ることができた。

以下に、リーダー塾に参加したアジア奨学生の感想と、アジア奨学生と2週間を共にした日本人塾生の感想を掲載する。今年のアジア奨学生は、医者、教育者、エンジニア、起業家、国連職員など様々な夢を持ち、日本の大学への進学を考える者も多い。このリーダー塾が、アジアの若者同士が手を取り合う一助となっていれば嬉しく思うと同時に、塾として、彼らの活躍をこれからも後押ししていきたいと考える。

【参加したアジア奨学生の感想など】

アジアハイスクールサミットなどのディスカッションを通して、リーダーというものはただ単に自分の意志を押し付ける一方でなく、 自己主張無しで、周りの人々の利害をきちんと理解した上で行動すべきだと考えるようになりました。
私が一番印象に残ったのは味噌汁コンテストです。私はマレーシア人で味噌汁を作ったことは一度も無く、日本の料理屋で飲んだことがあります。その時は正直あまり口に合わなかったです。それを知ったクラスの皆さんは、 私でも美味しく飲める味噌汁を作るために一生懸命考えてくれました。私はとても感動しました。皆で作った味噌汁はとても美味しかったです。
日本の高校生達は私が想像していたより素晴らしかったです。物の考え方や視点もそうですが、 助け合うことと人に対する接し方も私の想像よりはるかに優れていました。
皆優しかったです。 リーダー塾で足を怪我して、2日くらい車椅子生活をしていましたが、たまに私が車椅子で外へ出かけるとき、知らない別のグループの人でも私に手を貸してくれました。
ディスカッションの仕方を学びました。 話すだけでなく聞く、そして休みも必要、意見を言う時は手を挙げることや、その構成や時間など、とても勉強になりました。
私は以前発言することがとても怖くずっと遠慮していて、自信が無いタイプでした。リーダー塾で色々なことに挑戦してから自信がついて、今はクラスで積極的になりました。やってみなければ自分の能力はわかりません。だから、 今後もリーダー塾にいるときのよう自信を持って、色々なことに挑戦したいと思っています。
リーダー塾では、想像さえできなかった視点や夢を持つ人がとても多かったです。日本人に対するイメージと正反対の友達もいました。「日本人」ということを一括りにして、判断したり評価したりすることがとても理不尽だとわかりました。その間違っただ思い込みを修正することで、 十人十色の価値観や考え方を自分の視野に取り入れました。
自分の可能性は、今いる枠の外にあります。 飛び出してみないとその可能性は実現しません。このことが脳裏に刻まれました。
団体生活は本当に楽しかったです。みんなとすぐに仲良くなりました。 文化の違いはもちろんあったけれど、それを気にしないように頑張りました。

私の世界は、こんなに狭いなんて。知らない世界は、こんなに広いなんて。この世界は、まさかこんなに面白いなんて。リーダー塾で得た経験や衝撃をこれからの人生の中で活かし、また環境や出会った人に恵まれたことを忘れず、努力を重ね、この社会に恩返ししたいと思います。

【アジア奨学生と過ごした日本人の塾生の感想など】

私が今まで日本以外の参加国を漠然とアジア、一つの他国として見ていましたが、実は**地理的条件や宗教的環境の違いによって一つの国の中でも大きな特色がある**ということが分かりました。日本も一つの国家だが地方によって生活は全く異なる。分かっていたようで分かっていたこの事を実感できたことは私にとっては大きな収穫でした。

初めは日本人のように話しかけたり、冗談を言って大丈夫なのか戸惑ったが、話しているうちに日本人と何も変わらない！と感じた。笑顔がとても可愛く、いつも一生懸命な姿に心が動かされた。**ディスカッションが行き詰まってしまった際、突破口を開いてくれるのはいつもアジア学生だった**。見方がいつも客観的で、視野の広さに驚かされた。持ち物や時間によって食べる量が違うことから文化の違いを感じた。イスラームの習慣を詳しく教えて貰ったが、近くでその習慣を見るととても新鮮かつ興味深かった。書道を心からの笑顔で楽しんでくれたことが、とても嬉しかった。これから海外に書道を広めたいと新たな目標が出来た。

とても親しみやすい子がばかりだった。特に印象が深かったのは韓国の学生との会話だった。**私の周りは嫌韓国人が多く、今まで余り韓国に対していい人があるイメージがなかった**。しかし、今回のリーダー塾で初めてちゃんと触れ合ってやっぱり偏見なんだと実感した。

アジア学生のプレゼンテーションを聞いて大きくイメージが変わりました。**メディアでしか知ることができなかったアジア諸国での生活や文化を直接聞き、見ることでイメージが変わりました**。

語学の力が私とは比べものにならないと感じました。とてもやる気に満ち溢れていて、刺激的な共同生活でした。

今まではステレオタイプでこの国はこのような人と決め付けていました。ですが、今回のリーダー塾を通してそれを捨てることが出来ました。

彼らの語学力の高さに驚かされました。**日本語に加えて英語や他言語を操っている姿に感動しました**。

私と同じくらいの歳なのにもう既に**世界をよく見ていて、そして日本がとても好きなことが伝わってきて日本人として嬉しくなった**。好きな歌手グループなど他の国の人でも共通点があって楽しかった。

私の班に、マレーシアからの学生がいて、その人は、何カ国語も話すことができる人で、そのおかげで、日本人の私たちと国境を越えて仲良くなることができました。**やはりこれからの時代に対応するためには、語学力が重要であると思いました**。

皆日本語が上手で、それだけ努力して勉強してきたのだと思うととても凄いと感じた。

多くの人が2カ国語以上話すことができている、すごいと思った。日本語もとても上手で驚いた。また、その他の面でも立派だと感じた。例えば**将来の夢について聞いた時も強い意志を持って話してくれた**。なぜそうなのかという理由もとても深く具体的だった。自分よりも自分の国のことや世界のことをよく知っていて、それらのために貢献したいという思いが強いように感じた。

皆本当に日本語が上手だった。母国語で無いとは思えないほど流暢に日本語を話していて驚いた。とても気さくに話しかけてくれて、そこでも日本との違いやアジア学生の国などについて教えてくれた。**日本の良いところや逆に他国の良いところなど、会話を通して新たな発見がたくさんあった**。慣れない環境で2週間生活することや議論への理解の迫りつきなどが大変な点であったと思う。

7. 塾を支えるスタッフ

リーダー塾では、開塾当初から社会人によるクラス担任制度をとっている。狙いは、高校生に学校の先生ではない企業や地方自治体などで経験を積む社会人を身近な存在として接してもらうためである。クラス担任は、協賛企業などが毎年、派遣してくださっている。今年は20代～40代までの年齢も職種も多種多様な16名の社会人で構成された。塾生は8クラスに分かれており、前半後半のそれぞれ一週間を受け持つ。クラス担任は日々の講義や議論の指導だけではなく、健康管理を含む生活面の指導や進路の相談にも乗っていただいている。

そのクラス担任を支える学生リーダーは、主に卒塾生からなる大学生が参加してくれている。高校生である塾生にとって年齢も近く、すぐ先のロールモデルとして身近な存在であり、黙々と業務をこなす学生リーダーに尊敬と憧れのまなざしを注いでいた。学生リーダーはまさに塾を円滑に運営するための重要な縁の下の存在である。



短期でのお手伝いは、卒塾生を中心とした高校生、大学生が参加してくれた。初日の空港や駅での塾生の誘導や、事務作業など、塾生が気づいていないところで活躍してくれた。

また、今年は看護師の方に常駐してもらい、体調不良の塾生の対応をお願いした。病院への付き添いなど昨年スタッフの時間がとられていた部分が軽減でき、大きく貢献していただいた。

その他、今年は事務局員の交代があり不慣れな点も多く、塾期間中は多くのサポートをいただいた。塾生や講師の送迎を担当してくださった福岡県の皆様、塾生対応を全般的にサポートしてくださった宗像市の皆様、佐賀フィールドトリップの間に対応してくださった佐賀県のご担当者様、またその他の参画県の皆様や、選考面接や夢ディスカッションなどでご協力いただいた過去のクラス担任を中心とした各企業の皆様にも心から感謝したい。

ここでは、2週間を共にしたクラス担任と学生リーダーについて述べる。クラス担任と学生リーダーは、リーダー塾が始まる1か月ほど前に、本番と同じグローバルアリーナにて1泊2日の事前研修を行った。今年は過去にクラス担任として活躍してくださった経験者の方から、塾に参加した感想や問題が起こったときの対処方法のアイデアなどを共有していただいた。



▲事前研修の様子

クラス担任

(1) 概要

担任の先生は、各協賛企業を中心に各社の中堅クラスのリーダー格の社員を送ってくださるので、安心して塾生をお任せしている。今年の派遣企業は、下記の通り。

■クラス担任派遣企業（五十音順）

株式会社麻生
麻生医療福祉専門学校福岡校
特定非営利活動法人九州・アジア経営塾
九州電力株式会社
株式会社ぐるなび
株式会社コアラ
西部ガス設備工業株式会社
株式会社正興電機製作所
株式会社特殊高所技術
株式会社ふくや
株式会社ミズ
三井住友海上火災保険株式会社
三井物産株式会社
株式会社南福岡自動車学校
株式会社リクルートマーケティングパートナーズ

クラス担任の先生方には、1クラス22～24名の塾生を担当していただいた。先生方には、事前研修にて塾中に想定される問題をケーススタディーとして考えてもらったこともあり、塾期間中も慌てることなく、独自の指導を取り入れながらご対応いただいた。なるべく教えずぎず、塾生に考えさせてほしいという指導方針を伝えていたため、方針に沿って、各人の社会人経験から指導方針をお任せした。塾生にとっては、親や学校の先生以外の大人から日々指導を受ける機会はない。中には、大人に対してあまり良いイメージをもっていなかった塾生もいたが、先生方の姿を見て、「こんな素敵な大人もいる」と感動し、ロールモデルとして目標にしたいという塾生も多い。また、クラスにアジア奨学生を2名配属したが、今年のアジア奨学生の日本語のレベルはとても高く、講義も8割以上理解していたため、指導もスムーズにいった。

クラス担任の先生方には、卒塾後にも様々な相談や報告があるようだ。塾直後には、クラス担任に「リー塾ロス」「〇〇組ロス」というような内容のメッセージが大量に送られてきたようである。それくらい、2週間を密なものにしてくださった「影の立役者」であるクラス担任の存在は、塾にとってなくてはならない存在である。クラス担任の感想は、次ページの通り。



▲塾生と一緒に講義を聴講するクラス担任



▲真剣に塾生の発表を聞く担任



▲塾生にアドバイスをする担任



▲キャリア教育をする担任

(2) クラス担任感想

■クラス担任からみた塾生の感想

想定よりも、問題のある子がおらず、 協調性のある子が多かった です。物事の考え方もしっかりしている子が多い印象でした。
クラスをまとめる学級委員長タイプの高校生ばかり集まるのかと思っていましたが、それぞれに個性があり、 バランスが取れていた ような気がします。自己主張のぶつかり合いでトラブルが起こるようなことはありませんでした。 全体的には非常に優秀な高校生でしたが、いい意味でも悪い意味でもやはり幼さが残っている など感じました。
選りすぐりの学生と聞いていましたが、会ってみるとそこは素直な高校生。 自己主張は強いものの、厳しく接するときでも前を向き、聞き入れる姿勢が感じられました 。個々でのコミュニケーションの時間がなかなか取れなかったのが心残りです。話をすると素直な子たちなのですが、講義等のカリキュラム以外での生活態度に、 マナーの面で幼さを感じる生徒が少なくなかった です。ディスカッションでの考え方や積極性等だけではなくリーダーとして日々どうあるべきかを考えてない様な印象がありました。
非常に優秀な子ばかりでした。自分で考える、ということを先に指導すれば、きちんとできていました 。ただ、時間にルーズだったりする面はありましたのでその都度、指導はしていました。健康管理については、まだまだ甘い面も見られました。
最短の答えを見つけにいく高校生が多すぎる 。考えない。ここはかなり問題点。時代背景、ジェネレーションとして仕方がないが、携帯を没収してもまわりに答えを見つけにいく。普段の行動がしみついている。そこについては、かなりレベルが低いと感じました。（日本人全体がそうなのでしょう）開講の時にマインドセットしてもよいと思いました。 アジア学生は、考えた後に行動することができている。ここは日本人と大きな違いですね 。
課題に対して真面目というか解答を探してしまうが為に自由な発想が失われているような印象を受けた 。講師への質問が期待したよりも少ない印象で残念であったが、概して講師の塾生へのメッセージが曖昧な時に質問が少なかったような印象があり、消化不良が背景にあるように思えた。
とにかくモチベーションが高いと感じた。 まだ高校生なので生活態度は至らない点含め、初々しく思えた 。アジア塾生の意識は特に高いので比率を上げてもいいと思った。
全国トップクラスの高校生だが、普通の高校生と何ら変わりがないというのが一番の感想だ。全国から集まれば劣等感も感じたり、交友関係に悩んだりする者もいた。今回、スマホがないという特殊な環境はとても良かった。SNS等便利なツールが溢れるあまり、コミュニケーションが希薄になっているのはどのレベルの学生においても課題であるように感じた。しかし、 明確な目標・夢・志を持つ者は高校生であっても、とても魅力的で尊敬に値した 。
突出した才をもっている高校生の集団だと思いますが、「あたりまえ」のレベルアップが必要な塾生が多いと感じました 。おそらく定時にしっかりと臨む準備ができて始まった講義やプログラムは無かったのではないのでしょうか。このフォローができなかったのは悔やまれます。
素直で一生懸命な塾生ばかりで、かつ、とにかく このリーダー塾で自分を成長させたいと真剣に考えている生徒ばかりでした 。ディスカッションの場でも、前回のディスカッションでの自分の発言や態度を省みて次に生かそうという姿勢が見られる塾生も多く、 回を重ねるごとにより良いものになった と思います。
生徒個々の成長が1週間という短い間でも日々成長してるのが実感でき、私自身も一つ一つの言動や行動を改める良い機会になりました 。

非常にポジティブで、“目の前の現実から逃げない”という意志を強く感じました。作文を拝読したところ、多くの塾生が、「はじめは周りの塾生の積極性に圧倒されたが、なぜ自分がリーダー塾に参加しようと思ったのかを思い出し、自分ももっと前向きに取り組もうと考え直した。」と書いてあり、実際の言動からもそれを見て取れました。
1週間という短い期間で、明らかに成長した姿が見られる塾生が多く、感動しました。また、塾生たちがリーダー塾を通して、 今までの学校生活で出会ったことのない人たちと出会い、それぞれ刺激しあい、成長していく姿に、私自身が塾生たちのことを羨ましくも感じました。 体調管理の面において、私が担当したクラスに限らず、塾生は思ったよりも子供だと感じました。日本になれていないアジア学生の方が、終始元気に生活していると感じました。

■クラス担任の指導方針

時間管理については厳しく指導しました。また、自分本位ではなく、 他人を思いやることの大切さ を伝えました。
議論がうまく進まないときは、 助けるばかりではなく塾生に任せました。 苦難の末に納得のいかない答えがでて議論をとりあえず終えたら、その議論の進め方のどこに問題があったのかを説きました。失敗や苦難の経験も大切に、それに対する反省や問題点の把握をして、次の問題を越える力や方法が身に付けばと。
答えを言わないこと。 どう思うのか？どうしたいか？逆に質問し返すことが訓練になると思います。2週間もあれば必ず癖がつくと思います。
指導方針としては、基本的に 塾生の自主性に任せる スタイルとして、時にどうすべきかのヒントを与え、塾生から回答が得られるようにしていました。アジア塾生においては、コミュニケーションの問題から一人になる事がないように配慮していました。
基本的には塾生の自主性に任せましたが 時間を守ること、忘れ物をしないこと等、基本的な部分を守れていない場合は怒るなどしました。 アジア学生については日本語が不慣れな子に関しては英語を話せる子にフォローしてもらいました。
指導方針は2点あり、「問いによるマネジメント」「権限の移譲」である。担任の発言は時に学生の考える機会を奪い、視野を狭める。先生と名がつくとどこか絶対的であるように錯覚すると考えている。「 問いによるマネジメント 」は何事に関しても学生に考えてもらう。その際注意するのが、 現在おかれている状況と何をすべきか、目標は何かの認識を共有すること である。はじめのホームルームで「クラスについて私自身が決めることは何もない」と伝えた。多少動揺はあったが日に日に自ら考えるようになったように見えた。「 権限の移譲 」においては担任の権限をクラスリーダーやその都度リーダーの役割を行う者に移譲した。 注意点は放棄ではないこと。つねに関心があることを伝え続け、コミュニケーション量を増やしていく。 また失敗した場合、迷惑をかけた場合など最終的な責任は担任にあることを公言し、学生自身が安心して取り組める環境づくりに注力した。
私は、 塾生と“対等な立場”での対話 を試みました。生活指導、進路指導に、その結果を求められる学校の先生は、受け持った生徒に自身の思いとは必ずしも一致しない、厳しいことを“命令”的に伝えねばならないことも多いかと思います。しかし、私はそういった立場ではないため、大人と子供の関係ではなく、同じ目線で話してみることで、塾生の“本当の考え”、“本当の姿”を感じ取り、それに対する自分なりの意見提示（指導と言うとおこがましいので・・・）を行ってみました。その結果、皆さんの本音をある程度聞くことができたのではないかと考えております。友人関係の悩み相談等もしていただき、「話しやすさ」、「信頼」といったものを少しは醸成できたのではと自負しております。但し、これは結果論であり、もし私のようなスタンスをとった結果、塾生が友達感覚で担任と接するようになってしまった場合は、別の対応をとらねばならないと思います。

アジアからの塾生で、初めは馴染めず、睡眠不足になっていたとの事でしたので、 もっと、アイスブレイクのようなことをしてアジアの塾生も馴染みやすい雰囲気づくりに力をいれるべきであった。
全体的にストレスが溜まっていると感じたら、 強制的に息抜きさせる ようにしていました。
食事や自由時間では塾生と積極的に会話をし、フレンドリーな空気づくりをしていましたが、アジアハイスクールサミット等の活動ではだらけた雰囲気にならないようピリッとした雰囲気づくりを心がけました。 注意するところはしっかり注意をして、めりはりをつける ことを意識していました。
アジア学生については、アジア学生を気遣ってくれる日本人の塾生が数名いたので非常に助かりましたが、やはり日本人の子と比べると孤立する場面がしばしばありました。孤立していることを自分たちで気づかせようとはしましたが、気づかない場合は担任から輪に入れるように声をかけをしました。
なるべく、 プライベートの時間で会話（面談）をするよう心掛けました。 あわせて、クラスの中でも中心と思われる塾生から聞き取りを行い、可能なフォローを行うよう、中心と思われる塾生のフォローを行いました。アジア学生にも同様に多くの会話を行うようにし、都度困っていることやコミュニケーション上の悩みはないか聞き取りを行いました。
後半の担任の先生とクラス担当の学生リーダーの4人で、リーダー塾が始まる前に4人で「表ルール」と「裏ルール」を決めていました。表ルールは 生活態度に関する基本的なもので、挨拶をする、時間を守る、 という2つのことを塾生の前で伝えて守るように指導していました。裏ルールは塾生を指導するに辺り、担任2人とクラス担当の学生リーダー2人が大事にするルールで、「 塾生の意見を否定しない 」というものでした。それは違う、ダメといった指導ではなく、出た意見に対してどうしてそう思ったのかをちゃんと聞いてあげる、認めてあげることを大切にしていました。

■塾生のクラス担任についての感想

一人一人のことをとても気にかけてくださり、仲良くなろうとしてくださったことが、とても印象に残っている。また、私たちが相談に行ったときは、物凄く丁寧に話を聞いてくださり、 決して私たちが話している最中に話を遮るようなことはなさらず、最後までゆっくり話を聞いてくださったあと、丁寧にアドバイスをくださった。 大人として、社会人として、本当に尊敬している。
学生の立場では気づかないことやより良い改善点、 話し合いを円滑に進める方法を教えて貰うことができ、初め行ったディスカッションと最後に行ったディスカッションでは話し合いの質が違った。
AHSのリーダーとしての在り方について悩んだ時、いつも相談に乗ってもらい、自身が成長することが出来た。 担任の先生のおかげで自分の弱さは弱さではないと気付かされ、前に進めた。
とても近い距離感で、1週間ほどのお付き合いとは思えないほどどんなことも相談することができました。だからといって友達のように接するのではなく、敬意を持って人生の先生と思える人ができました。また、 先生方の柔軟な発想や子供の視点に立ち親身になって考えてくださる姿勢に、初めて本当に親以外で何か困った時に頼りたいと思える大人ができました。
夢と希望と勇気を与えてくれ、生き方について教えてくれました。良かった点は、 高校生としてではなく、一人の人間として接してくれたことです。 現実も教えてくれました。人生のアドバイスもしてくれました。
クラス担任の先生に、「 的を射た意見だからもっと積極的に発言してみよう 」とアドバイスをいただきました。 自分を見てもらっていると強く感じたと共に自信ができました。
社会に出て最も必要なことを具体的に伝えてくださいました。 また、自分の仕事への情熱やプライド等、仕事のことを話す先生の目は輝いていて、自分も将来はそれぐらい全う出来るように全力でありたいと感じた。
短い間だったのに、一人一人のことをすごくよく見ていて、 リーダーとして必要なこともたくさん教えてくれました。

先生でも親でも無い初めて出会った大人という感じでした。自然と何でも言えて、私たちにアドバイスをしてくれて、話し合うことを大切にしてくれました。
学校内の悩みなどは生徒のことをよく知っている学校の先生だからこそ、話せないことが多い。普段の生活と全く関わりを持たない第三者の視点からアドバイスをもらえたことは自分の中で大きな支えになった。
担任の先生が「一人一人が意見を持ち、皆が発言しやすい雰囲気づくり」を心がけてくださったので、どのディスカッションもサミットもとても質の高いものになったと思います。私は前半なかなか発言出来なかったのですが、発言しやすい良い雰囲気により、だんだんと発言出来るようになりました。ただ意見を持つだけでなく、それを皆に伝える大切さを改めて感じました。
一番印象に残っているエピソードは、クラス担任の先生に悩みを相談した時に、「俺もまだまだだからね。」と仰ったことでした。先生は私たち一人一人と対等に話してくださっているように感じ、より心を開くことができました。
自主性を大切にしてくれて、任せてくれる所、授業外で思い切り一緒に楽しんでもくれる所、クラスでどんな選択をしても応援してくれる所、失敗しても軌道修正の道を示してくれる所です。学校の先生より近い歳だったのもあり、議論以外の話もしやすかったです。
クラス担任の先生は、勉強などではなく人生の師匠として関わってくださった。落ち込んだ時はいち早く声をかけてくれて、叱るわけでもなく励ましてくれる。小さな悩みでも、大人が心を込めて向き合ってくれることの嬉しさを先生たちから感じた。

(3) 課題

今年は事務局員の交代があり、クラス担任の皆様には例年よりもご迷惑をおかけした。アジア・ハイスクール・サミットでは事務局・クラス担任・学生リーダーの認識が統一されていないため、一貫性に欠ける場面があったとのこと指摘があがった。「クラス担任として具体的にどのように動けばいいかわからなかった」、「何を求められているか不明瞭だった」、「もっと熱意を示してほしかった」など、事務局の指示が明確ではないということが大きな要因であった。また、学生リーダーに業務が集中していることから、クラス担任にもっと仕事をふってもらってよいという声もアンケートでいただいた。

塾期間全体を通してスケジュールがタイトなあまり、せっかくクラス担任を配置しているにもかかわらず、塾生とかかわる時間が少なく、もう少し担任の采配で動かせる時間があると良かった。個々の塾生と話す時間が少なかった。というご意見もあり、スケジュールについては今後の課題としたい。

学生リーダー

(1) 概要

学生リーダーは卒塾生を中心とした大学生ボランティアで、塾運営の一翼を担っている。クラス担任と塾生の橋渡し役になりクラス運営をサポートする「クラス担当」と事務局の仕事や録音・音響関係を行なう「全体統括」のほか、今年から新たに「アジア・ハイスクール・サミット担当」を設け、全体統括と兼務とした。また、クラス担当と全体統括の学生リーダー同士の関係について、例年溝が発生するという事から、昨年同様に全体統括を各クラスの副担当として振分けた。今年は全国から17名の大学生が集まった。クラス担当は8名、全体統括は9名そのうち4名はアジア・ハイスクール・サミット担当の割り振りとした。また、卒塾生が12名、非卒塾生が5名、男性が6名、女性が11名であった。

学生リーダーの募集は、全卒塾生を対象に4月に送付した「ニュースレター」に加え、卒塾生交流SNSサイトでも行った。これに加え、大学生のボランティアの募集を行なうサイトなどでも行なった。学生リーダーは大学2年生以上の大学生および大学院生を対象としており、選考は書類審査と電話面接で行

った。例年、塾期間が大学の試験期間に重なること、就職活動や卒業論文のスケジュールと被る、学生リーダーの募集期間に夏の予定が把握できないことなどの理由から、決定までには苦慮した。今年度は卒塾生が集まる勉強会でも声を掛けた。それにより募集人数を上回る応募があった。それ以外に卒塾生の紹介や、高校生のときからリーダー塾のことは知っていたが、参加できなかったため学生リーダーとして申し込んでくれた者もいた。今年度は、試験期間の関係から塾開始前日の準備までに集まれる学生リーダーが少なく、塾期間途中からの参加となる者が数名いた。また、昨年までに学生リーダーを経験したことのある者が3名おり、率先して動き頑張ってくれた。

(2) 役割と今後の課題

学生リーダーに求められる姿勢としては、以下の4点を重視している。①塾生を指導する立場として、塾生の模範となるような行動ができること②スタッフ間のチームワークを大事にし、高め合える人材であること③塾の内容や方針は毎年進化するので、過去にとらわれない思考をもつこと④主催者の一員という自覚をもち、主体的に責任を持って行動することである。

今年度は前述したが、塾生担当の事務局員が不慣れなことから、現場での対応が多くある中、しっかり相談をしながら自ら率先して動いてくれ、塾運営における中核を担ってくれた。採用面接の際から研修、塾中も学生リーダーは事務局側の視点を持つことを伝えていた。その視点をしっかり守り、クラス担当の学生リーダーはクラス担任と塾生の架け橋として活躍し、塾生から相談を受けた際は自ら考えさせるなどの姿も見ることができた。また全体統括の学生リーダーはその日のスケジュールを確認し、必要な備品の準備などを行ないながら自分のクラスの生徒の相談にもものっていた。仕事内容に関わらず、塾生との関係性に関してもしっかりとバランスをとっており、塾生からは尊敬を集めていた。担任や事務局に対して、何を必要としているかを先回りして考え、行動に移すことが出来、塾運営においてなくてはならない存在であった。相手に敬意を持って思いやりながら仕事をしている姿は、様々な塾生にとって身近なロールモデルになったようだ。塾生がアジア・ハイスクール・サミットやクラスの中でまとまってきたのは、学生リーダーの行動による要素が非常に強い。塾生へのアンケートの中でも学生リーダーに対する感謝の言葉がたくさん述べられていた。また、目立つ部分だけではなく、会場の武道場と事務局を何往復も走ったり、写真やデータの整理、資料作成、

学校	性別	学年	卒塾期	担当
早稲田大学	女	3年	1 1期	AHS/全体
早稲田大学	女	2年	—	AHS/全体
早稲田大学	男	4年	1 1期	AHS/全体
立教大学	女	3年	1 0期	AHS/全体
青山学院大学	女	3年	1 2期	全体
お茶の水女子大学	女	4年	1 0期	全体
慶應大学	女	2年	1 3期	全体
関西学院大学	男	3年	—	全体
獨協大学	男	3年	—	全体
慶應大学	男	4年	1 1期	クラス
TheCollegeofWooster	女	2年	1 3期	クラス
岩手大学	女	4年	1 1期	クラス
東京理科大学	女	4年	1 1期	クラス
東京外国語大学	女	3年	1 2期	クラス
九州大学	男	3年	—	クラス
早稲田大学	男	3年	—	クラス
国際基督教大学	女	2年	1 1期	クラス

▲学生リーダーの所属大学



▲運営について意見する学生リーダー



▲みそ汁コンテストの準備をする学生リーダー



▲塾生のレポートにコメントする様子

ミーティングの議事録作成など、表に出ない仕事も多い。そのような仕事に関しても着実に行ってくれた。

一方で精神面の未熟さが見えることもあった。事務局として指示が明確でなかった反省点でもあるが、行動の粗さ、精神面のもろさが見えることがあった。疲れとストレスから体調を崩すものも多く、必要な写真が撮れていない、保存ができていない、講師の飲み物を忘れるなどがあった。これは事務局のフォローが足りない部分もあり、配慮が必要であったと考えるが、行動をすぐに起こすフットワークの軽さを維持しつつ、自分が周りにどのように見られているのかという第3の視点を持つ必要がある。

体力的にも精神的にも非常に大変であったと思う。しかし、彼らが一貫して「相手のために何が出来るか」と考えながら率先して行動したことはしっかりと糧になっている。塾期間の姿勢を忘れず、どんな仕事でも一生懸命行う社会人になり、これからも様々な形で塾に関わってほしい。



▲塾生に向けて自身の進路を発表する学生リーダー

(3) 学生リーダー感想

■学生リーダーに対する塾生の感想

学生リーダーがいなければリーダー塾は成り立たなかったと思う。クラスのお姉さん、お兄さんのような存在で、些細なことも沢山沢山話することができる大切で身近な存在だった。恋愛の話、ご飯の話、塾生間で起きたハプニングなどを随時報告していた。辛かったこと、嬉しかったこと、楽しかったことをいつも共有できた。大変なはずなのに、私たちの体調もいつも気にかけてくれて、年がいくつかわか分からないのに、 学生リーダーから学ぶことが沢山あった。私にとって学生リーダーはこれからも自分のモチベーションでもあり、なりたい姿の象徴のような存在である。
学生リーダーは一番私たち塾生という時間が多く、一番身近な存在でした。本当にみんなを理解して、一番私たちを思い、応援してくれた人達でした。だからこそ怒るときはしっかり怒ってくれました。その厳しさからも私達は強くなれたと思います。学生リーダーのためにも頑張ろうとみんなで思いました。
塾生にとっての模範だった と思う。学生リーダーの立ち居振舞いから学んだことは多くあるため、自分の将来像を考える上でよい指標となった。最後まで私たちに疲れを見せずに頑張っていたことがとても印象に残っている。
いつも的確なアドバイスをして頂きとても感謝しています。 自分も大学生になったら、学生リーダーとしてリーダー塾に戻ってきたいです。
学生リーダーは大人と高校生の価値観のギャップを埋める存在、両者を客観的に評価して高校生に的確なアドバイスを与えてくれる存在であったと思います。 悩みごとがあったときに寄り添ってくれる存在で大変助かりました。
担任の先生とは違いメンタル的な部分での支えや日頃の生活で塾生同士の関係性を作ってくれたり 仲間意識を教えてもらった 。困った時も真剣に解決策を考えてくれたりと頼りになる存在だった。
すごく、助けになって頂いたし、たくさんの事を学ばせて頂きました。また塾生たちが間違えそうになったらしっかりと正してくれて、 困っているときは分かりやすく導いてくださいました 。楽しむ時は一緒に全力で楽しんでくれたこともとても嬉しかったです。
高校生の1番近い模範のリーダーであったと思います。私たちの活動がスムーズに進むように、 高校生が気づけてないことを1番に気付かせてくれる存在 でした。
先生よりも年齢や感覚が近く、気さくに話してくれたり、先生の立場ではしづらい注意をしてくれたりと 陰ながらチームを支えてくれた ように思えます。

■学生リーダーの感想

塾生のディスカッションの内容が明らかに向上している姿が嬉しかったです。そのために、時には厳しく、涙を流す生徒もたくさんいましたが、結果的には成長できていました。
想像していたとおり激務ではありましたが、 塾生たちと濃厚な二週間を過ごせました 。もっとクラスのみんと時間を共有したかったなと少し後悔もしています。全体的にスケジュールに追われる印象が強く、塾生たちとゆっくりとした時間を過ごせたのがおそらくお風呂の時間の後のみだった気がします。もっとたくさん会話しておけばよかったなと思いました。
大学生という立場から高校生に伝えることの難しさを感じた。社会人ほど年は離れていないが、高校生よりも人生経験を積んだ存在として、 塾生にどのような影響を与えることができるのか考えさせられる2週間だった 。私たちは、進路選択や大学受験に関するアドバイスを与えることはできるが、それ以外に、例えば 今後の日本や世界でどのようなリーダーが必要とされているのか、人として大切にすべきものは何なのかを考えるきっかけをもっと作ってあげたい と感じた。
学生リーダーとして、高校生を指導しなければならなかったが、この塾を通して彼らに求めている水準は高く、（主にディスカッションやAHSの話になるが）ただ答えやうまく行く方法を教えれば良いわけではない。それに塾生たちが何とか苦勞して自ら気付くことが一番重要で、「 導き方を導く 」ということがかなり大変だったがやりがいのあることであった。その分、彼らが自分たちの力で納得できる解答を見付け出せた時は、本当に頼もしく感じた。それをサポートできるというのは彼らにとって本当に糧になることであり、学生リーダーのやりがいであると思う。また、高校生の先輩という立場で指導する身として、まずは己のことができていなければならない、ということをつつも以上に感じた。これからも彼らに指導した身として恥じないような当たり前のことが当たり前にできる人でいなければならないと思った。
どこまで口出しするのが塾生を育てるのに最もふさわしいのか、 ただの親切ではなく教育の視点を持つことができました 。
人に何かを教えることの難しさや、楽しさなどを学ぶことができた。
学生リーダーを体験し感じたことは、 イレギュラーに対応する力の重要性 である。学生リーダーとして数々のイレギュラーに対応する場面があり、自分で判断し、適切に対応できる場面もあったが、あまり適切ではない判断を下してしまうこともあった。 この判断力はより多くの経験から成り立つものであると思うので、より活発に活動し、この力をより高めていきたい と感じた。
塾生の姿を見ていて教育の分野をもう少し勉強し、 将来何らかの形で教育に携わっていただけたらいいな と感じた。
様々な活動をしている人が多く集まり、地域のばらつきなど多様性が感じられる構成であった と思います。班を超えた繋がりを生む機会が少ないことを心配していましたが、講義後の時間や前夜祭を通して自ら他班の塾生との交流を図ろうとしている姿が多く見受けられました。

（４）短期お手伝い

2週間スタッフとして働く学生リーダーのほか、2018年に15期で参加したばかりの高校生から社会人まで、卒塾生を中心とした多くの方が短期お手伝いとしてサポートをしてくれた。人手のいる塾前日の資料や会場の準備、初日の空港や駅での誘導や、体力勝負のみそ汁コンテストの準備、書類や物品の管理など、事務局員や学生リーダーが手の回らない仕事を臨機応変に対応してくれた。最終日の片付けまで、空いた時間を利用して何度もグローバルアリーナを訪れて手伝ってくれた。目立たない作業が多かったが、彼らの献身的な働きぶりは、尊敬に値する。この塾が卒塾生を中心とした多くの方の陰ながらのサポートで成り立っていることを印象付けるものだった。

8. カリキュラム

(1) 若田光一 JAXA 理事とマレーシアのマハティール首相を講師に宗像市公開講座

日本や世界を代表する一流の講師による講義がリーダー塾の大きな柱となっている。日ごろ拝聴できない講師の方々に、専門分野の話に加え、リーダーシップについて語ってもらっている。

今年は、かねてから講師としていらしていただきたかった宇宙飛行士の若田光一・宇宙航行研究開発機構（JAXA）理事に講師をお引き受けいただいたため、8月7日、若田先生には「宇宙飛行とリーダーシップ」をマレーシアのマハティール首相には、「科学技術の発展が世界の平和にどう貢献できるか」と題して講義をしていただき、宗像市の公開講座として、市内の中高校生ら 85 人が参加した。

若田先生の講義では、宇宙飛行士として宇宙ステーションでコマンドの経験をもとに「リーダーはメンバーの士気を維持し、目標達成のためチームの能力を高めることが必要。何より自己管理ができないといけない。困難な状況下で冷静さを失うことのない強靱な精神を持つことが重要だ」と語っていただいた。台風の影響でマハティール首相の到着が遅れたため、1時間余り、若田先生には、塾生からの質問に応じていただいた。若田さんは、質問に答える時に必ず、質問者に対して「いい質問だね」や「マレーシアから参加したの。ロシアでマレーシアの宇宙飛行士と一緒に訓練しましたがとても立派な方で尊敬しています」などと語りかけ、若田先生が世界中の宇宙関係者から一目置かれているその理由を垣間見ることができた。

今年の「アジア・ハイスクール・サミット」は、JAXA の協力を仰ぎ、地球規模で解決しないといけない課題を洗い出し、宇宙という空間を使っていかにその課題を解決できるのかという難しい課題にクラスごとに2週間取り組んだ（詳細は後述）。

若田先生とマハティール首相には、塾生によるサミットの概要の英語の発表を聞いていただいた。優勝した3組の人工衛星でプラスチックごみのある場所を特定して、「海洋パクパクロボット」で海中のゴミを取り除くなど、ゴミ問題、環境問題、教育など様々な分野でユニークな解決策に若田先生は「皆さんの発表は想像を超えたユニークな発想だった。地球温暖化やプラスチックごみの問題は人類が違いを乗り越えて協力して解決しないといけない。いい仕事をし続けて、皆さんと将来、宇宙の分野で再会を果たしたい」と激励していただいた。

マハティール首相は、講義の中で「海洋プラスチック・ゴミを宇宙で解決する衝撃的な解決策を聞いた。科学技術の活用は、人間に与えられた選択肢。爆弾をすることもできるし、平和利用もできる。次世代リーダーは、紛争解決に暴力を使わず、平和のための活動を広めてほしい。人類を文明化することが皆さんの重い責務だ」と話してくださった。

塾生たちは、サミット各クラスの取り組みをイラスト付きでボードに作成、マハティール首相ご夫妻にプレゼント。マハティール首相はそのボードに“Tackle problems with passion. Never give up”（課題に真正面から情熱を持って取り組み、けっして諦めるな）と書き添えていただいた。



▲若田光一 JAXA 理事へ質問する塾生



▲英語で発表する様子



▲英語で発表する様子



▲マハティール首相・講義の様子



▲ボードにメッセージを書き添えていただいた

(2) 令和の時代を考えた講義と新規講師、心に残った質疑応答

今年は、新元号「令和」に元号がかわった。天皇制についても塾生に考えてもらいたいと、天皇陛下とオックスフォード大学で師事した教授が一緒だった川勝平太・静岡県知事に「日本と天皇の学問」と題して講義をしていただいた。川勝知事は「徳仁天皇は、人間の生活に必要な水を研究対象にされていた。平成天皇はハゼを研究されており、昭和天皇は海洋生物を研究していた。大学の教授に何故日本の皇室では学問をするのかと聞かれた時に、研究を行っていない天皇も奈良時代から歌学を続けていると知った。歌学も学問であり、『禁中並公家諸法度』では天皇は学問を第一にするべきと書かれている。トップである天皇が学問を第一にしている日本人は学問を続ける志を持つべきであると言える」と話された。また、天皇陛下即位の日に NHK のニュース番組で終日コメンテーターを務めていた河西秀哉・名古屋大学大学院人文学研究科准教授には、初めてリーダー塾の講師をお願いして「象徴天皇制とは何か」と題して講義をお願いした。

リーダー塾には、医学を目指す塾生も多く、荒井保明・国立がん研究センター理事長特任補佐に講師をお願いした。放射線を用い、からだの中を画像化して、ガンなどの病変の検査や治療をする技術が IVR と呼ばれるが、その世界的な権威、まさに「神の手」の持ち主である。白血病の小児の治療や自らヒマラヤでの雪崩による遭難などの経験から、講義では「ダーウィンの進化論は、僕らが生きている今が、実は地球が生まれ、流れの中の一瞬でしかないということを教えてく



▲荒井保明先生・講義の様子

れている。でも、その一瞬の宇宙にも大きな価値があることを忘れてはいけない。未来が無限に見えているかもしれない若い皆さんだからこそ、実は一瞬の、しかし限りない可能性をもった宇宙でどう生きていくかを考えて欲しい。」と塾生にエールを送ってくださった。

理系の大学である東京工業大学で先駆的なリベラルアーツ研究教育院の院長を務める上田紀行先生には、「『志』を持とう、『愛される』より『愛する』人になろう。自分も輝き、世界を輝かせる生き方とは」と題して話していただき、塾生から相手を思いやる気持ち、愛することの大切さを学び、根底から考え方を覆されたとの意見も出された。

また、永年、東芝、日本経団連の最前線で活躍した矢野弘典・産業雇用安定センター会長、横綱審議委員会委員長には、論語を通して内面を磨くことの大切さを語っていただき、グーグルが注目する福岡市に本社を持つ AI の最先端企業佐々木久美子・グローヴノーツ代表取締役会長には「AI をつくるには人の心の移ろいがわからないといけない。」と語っていただいた。

元国連事務次長で明石康・国立京都国際会館理事長は、毎年英語で日本と世界の関係について講義していただいている。質疑応答の時間も、塾生は英語でチャレンジした。そんな中で、中国からのアジア奨学生が「両国の青年たちはどうやって共通の歴史の認識を持つことができるのでしょうか。」とあえて日本語で質問。これに対して、明石先生は「ドイツとフランスは同じ歴史の教科書を使っています。未来のいつかの時点で日本と中国もそうなってほしい。」と返答してくださった。大変、心に残る質疑応答だった。



▲明石康先生・質疑応答の様子

(3) アジア・ハイスクール・サミット

地球規模で解決する課題ってなに？ ～宇宙で解決してみよう～



① 概要

リーダー塾では、一流の講師の先生方の講義を拝聴することに加えて、決まったテーマのもとで塾生同士、徹底的に議論をして政策を打ち出すプロジェクトを行っている。2週間を通して、日本とアジアの高

校生が本音で語り合い、徹底的に議論を交わした末、具体的な解決策を導き出す「アジア・ハイスクール・サミット」である。本プロジェクトは解決することが難しい社会課題に挑戦し、やがて近い将来、リーダーとなったときにどう課題に取り組み、解決することができるか、高校生のうちから経験することを狙いとしている。今年は、日本の高校生169名に加え、中国、モンゴル、マレーシア、韓国、タイ、ベトナムの6カ国から16名のアジア奨学生も参加した。



▲発表の様子

塾本番では宇宙飛行士であり、宇宙開発を世界的にリードする若田光一・JAXA 理事に地球規模で起こる課題を宇宙でリーダーとして、どう解決しているのかをテーマに講義をしていただいた。また、昨年92歳で首相になり絶えず国づくりに勤しむマハティール・マレーシア首相には「科学技術が世界の平和に果たす役割」を語っていただいた。そこで、今年のアジア・ハイスクール・サミットでは、塾生に「地球規模で起きていて解決しないといけない課題とは何か。宇宙という空間を使っていかにその課題を解決できるのか」を議論してもらった。

複数国間で行われる宇宙開発により宇宙技術は急速なスピードで進歩している。社会課題が複雑に絡み合う現代において、国内に留まらず宇宙規模で考えることで新たな解決策を見出すことが可能となる。

このため、地球規模で解決しなければならない課題とは何か。その問題を人種や民族、宗教を超えて多様性のある人々がどう解決しうるか。塾生各人が考える社会問題をまとめてみると、「環境」「政治・経済」「教育」「人権・ダイバーシティ」「科学技術・医療」「平和」「歴史・文化・宗教」の7つに分類された。そこで、塾生が提示した課題を、今の科学や技術などの限界を考えずに、どうすれば宇宙空間で解決できるのか考えてもらった。

今回、塾生には現代の科学技術の限界を考えずに、高校生の柔らかい頭で奇想天外な方法について考え抜くことを期待した。塾本番では、塾生が持ち寄った課題と宇宙での解決方法をもとに2週間かけて徹底的に討議した。

サミットの集大成として JAXA 職員の方、クラス担任、塾生の前でクラスごとに発表をもらった。また、マハティール・マレーシア首相がいらした際に、サミットの内容を発表した。

そして、最優秀賞クラスの代表者は「アジア・太平洋地域宇宙機関会議」(APRSAF)で各国の宇宙機関長と、大学生や社会人で構成される宇宙世代諮問委員会(SGAC)のメンバーらとともに登壇して、リーダー塾での議論を発表した上で、パネラーとして議論を交わす。(57ページ参照)

② 事前課題

塾本番前に、2段階で課題を課した。まず塾生自身が地球規模で解決する必要性を感じる問題の概要とその選んだ理由を記述してもらった。そして親や親せき、学校の先生ではない社会人2人に地球規模で解決しないといけない課題とは何か取材をしてもらい、自身の考える社会問題とインタビューした人が提示した問題について記してもらった。その後、塾生が提示した課題に対する宇宙規模での解決策を最後の事前課題として課した。

宇宙をベースにした解決策を考えるという課題の解釈が難しく、アイディアが浮かびにくかったようである。解決策が思いつかないときは学校の先生の力を借りて考えた塾生もいた。事前課題の内容に関して難しかった、課題に取り組む時間を十分にとることができなかったという意見が多かったものの、自分の意見をもって塾に参加することができたため有意義であった、との意見も多く見られた。

■事前課題の感想

今までこんなにも正解が無い難しい問いを考えたことが無かったので大変難しかった。大人への質問でさまざまな意見を聞き、視野を広げることができた。

若い世代の新たな発想ということでスケールの大きなプロジェクトを考えました。自分の考えを資料として作成し訴える経験は無かったので良い経験になったと思います。
クラスで発表をすると、仲間達が思った以上に「面白い！」と誉めてくれたのは私の大きな自信になりました。
世界の課題は有り余るほど出てきたものの、解決策の規模が非常に大きく、考えるのが大変だった。社会人に話を聞いたのはとても良い経験になった。
私はよく、社会問題を考えますが、社会人の方にお話を伺った事で、自分一人では得られない気付きを得ることができました。リーダー塾がなければ、社会人にしっかりと話を伺う事はなかったと思うので、良い機会でした。
私は文系であるため、理系分野のことについて興味を持ったことはありませんでしたが、今回のリーダー塾に参加することで、台風や地震などの災害もどこかで必ず文系と繋がることを学びました。
はじめは世界規模の社会問題を宇宙を使って解決するというテーマにとっても四苦八苦しました。どのような社会問題を解決したいのか、どのような解決方法があるのか、どうしてその問題を解決したいのかとても悩みました。
あまり読まないジャンルの本だったが、事前課題がきっかけでこのようなジャンルの課題図書を読んだ。今まで自分が知らない、もしくは知っていても全く意識していなかった様々な考えや理念を知ることが出来て非常に勉強になった。
地球規模で解決しなければならない課題をどのように宇宙で解決するのかを考えたことは無かったのでもとても難しかったです。皆の事前課題をみて自分の視野の狭さに気づきました。
とても難しく、何日も机の上で頭を捻って図鑑や論文を漁ったり、先生達とその課題について話し合ったりして完成させました。
日常的に社会人の人と会話する機会が少ないので、質問したり、されたりするうちに、気づけば数時間経っていました。同じ問題に対しても、様々な価値観で見ることができるのだと感じました。
課題を見つけても本当に宇宙でやるべきなのか、何度も振り出しに戻って、考えた。納得のいく案は自分では思いつく事が出来なかったが、クラスの人々と協力してワクワクしながら考える事ができた。
実際に大人の方にアポイントを取ったり自分の足でインタビューをするか他のところへ出向くなど大人になってからでも必要なスキルを身につけることが出来たと思います。

③ 塾中の様子

■課題設定

第1段階の事前課題で塾生自身が問題だと感じた事象と社会人へのインタビューで回答者が挙げた問題を、「環境」「政治・経済」「教育」「人権・ダイバーシティ」「科学技術・医療」「平和」「歴史・文化・宗教」の7つのテーマに分類した。これら7つのテーマを第2段階の事前課題を課す際に提示し、事前に他の塾生が考えている問題についても知ることができるようにした。



▲議論の様子

そのプロセスを踏まえた上で、塾本番では「地球規模で解決する課題ってなに？～宇宙で解決してみよう～」という表題のもと、各クラスでテーマ設定を行い解決策を討議した。そのテーマから具体的な課題設定に至るプロセスは、どのクラスもかなり手間取ったようである。それぞれ、事前課題に真剣に取り組んだからこそ、自分が調べてきた内容を取り入れたいという思いが強く感じられた。またその一方で自分が扱わなかった問題に関して知識と興味関心がなく議論に参加することをためらうといったことから、課題設定に多くの時間を費やしたクラスも見受けられた。

また、最初に設定したテーマを中間発表を経て変更したクラスもあった。今年のテーマは宇宙空間を

利用して課題解決に取り組む、といったもので専門的な理系の知識をベースに議論を進めるクラスもあり、クラス内で温度差が生まれるといったケースも少なくなかった。しかし、課題設定の時点で、誰がどんなことに興味があるのか、加えて同じテーマの中でも様々な問題意識があることを学んだことは有意義であった。「1 番解決したい課題とは何か？」という軸がしっかり定まっていたかどうかはその後の議論の質を左右することになったようである。

■議論の様子

課題設定がやっと決まったところで、議論に入ったが、切り口は多様でいかに奇想天外なものにできるかといった視点で入ったクラスもあったようだ。また、その他のクラスは考えていて楽しいもの、宇宙という現実と一線を画す空間をいかに活用するかということを考えてテーマ設定を行ったところもあったようである。とりわけ宇宙空間の活用といった普段扱うことのない問題設定に困惑した塾生も多くいた。



▲中間発表の様子

最終発表に限定せず、中間発表の場を設けることで塾生が他クラスの討議内容に触れることができるよう配慮した。自分たちの討議から一度離れ、他の意見に耳を傾けることで新たなアイデアを思いついたといった意見や、進度を比較して焦りを感じその後のクラス討議がより白熱していく、といったことが見受けられた。

また、中間発表は前半のクラス担任の退任日に行ったため 1 週間お世話になったクラス担任にこれまでの議論の成果を見せたいという塾生の思いが表れていた。一方で、問題設定から解決策に至る間の議論が十分になされていないクラスも見受けられ、質疑応答で行き詰るところもあった。「奇想天外な発想」というものに固執してしまい、思考のプロセスが飛躍してしまっていたようだ。そのような問題点に前もって気づくことができた点でも、有意義な時間であった。

中間発表を経てだんだんと議論が白熱していき、話の展開も早くなるにつれ、そのスピード感についていけない生徒が複数見受けられた。議論に参加していないまたは参加できない生徒に対するもどかしさやクラス全員を巻き込めていないという悔しさからその他の数人の塾生が泣いてしまうケースもあった。そのような状況を見て見ぬふりをするのではなく、自身の抱える思いを素直に周りの塾生に伝えることによって、より主体性を持って取り組むことができるようになったようだ。

今年のテーマは宇宙を活用した解決策の提言という難易度が非常に高いものであった。もうできないと諦めそうになる課題に 2 週間しっかりと取り組ませることで、彼らが持つ潜在能力をより引き出すことができたと考えられる。

■議論の感想

学級委員長のできるだけ強制して発表させたくないという言葉聞いてこのままではいけないと思い、そこから自分の意見を積極的に言うようになった。これからも失敗を恐れずに挑戦することを大切にしたい。
クラスの間で意見の食い違いが発生し、一時期どんよりした空気になりました。その時、先生と学生リーダーさんの助言によりみんながまた一つになることができました。
論点を定めないと全く意味が無い話し合いになってしまい、モチベーションの低下にも繋がるのが分かりました。データやソースはその発言の重みをアップさせてくれるもので重要だと学びました。
議論する上で大事な事をみんなで確認し合い、共有することで更に深い議論ができた。それぞれの思いを一つ一つ組み込んで行くことの大変さや大切さを感じる事が出来るものとなった。
普段の学校生活では話し合うことがない課題について話し合うことはとても難しかったです。理解し合うことができるようになってからはディスカッションの時間は大変だけど楽しい時間でした。大変だったけれど、これこそ他では経験することが出来ない事だと感じました。

迷うときもあり、何度も道を見失ってしまいました。しかし、そのたびに、先生や学生リーダー、時には気付いたクラスの仲間が時には少し厳しい言葉で状況を整理し、目を覚ましてくれました。そして、 寝るときまで考えたこともいい思い出です。
議論を進めていく上で、知識もまた必要だと感じました。物事や過去の歴史を知らなければ意見を述べる事が出来ません。 これらで学んだことをこれからの学生生活で活かして行きたいです。
普段学校の授業なんてどこで役に立つんだろうとか考えていましたが、役に立つ場所はいくらでもあるのだなと改めて感じる事ができました。 またクラスメイトの熱い議論に圧倒される日々が続いていました。
意見が割れたり、伝えたいことがうまく伝わらなかったり、もどかしい思いをたくさんした。皆の思いつくことが全然違うことを改めて感じたし、 大勢の意見を一つにまとめる難しさも知った。
便利なツールに頼ることなく、生身の人間同士がぶつかりあえる内容の濃い時間でした。 次第に分らないことは素直に分らないと言い合える関係になり、より一層ディスカッションがスムーズに進むようになりました。

■アジア・ハイスクール・サミット発表内容

8月6日、最終発表の当日は後半のクラス担任の先生方8名に加え、実際にJAXAで働かれる職員の方2名にも審査員を務めていただいた。発表が始まると塾生は緊張した面持ちであった。審査員からの質疑にいかに対応できるかが特に注目されていた。また、このサミットを通して最も学んでほしかった「社会課題を客観的にではなく主体的に考える」ということは、発表担当の塾生だけでなく彼らをサポートするかのように応援する周囲の塾生の様子からも見て取れた。最終発表を通してクラスで一体となって取り組んでいたことを十分に感じられた。地球規模で解決すべき問題について、同時代を生きる日本の高校生とアジア学生が討議したことは彼らの社会課題に対する意識を高めることにつながった。加えてこの発表は互いに学び合い、ともに行動することを誓い合う良い機会になった。



▲最終発表の様子



▲最終発表の様子

【各クラスが取り組んだ発表テーマとその解決策】

クラス	テーマ	解決策
1組	宇宙学校－SPACE－	全員が教育を受けられるようにするための第一歩として、ISSの技術をまねて拡大し、宇宙に学校をつくる。人種や宗教によって差別されることなく自由に学校に通うことができる。
2組	TUB計画	地球温暖化防止のため、温室効果ガスを出さない発電方法を開発する。太陽光パネルを地球に近い惑星に貼りつけ、地球のある一か所に電磁波を集め、地下に埋めたケーブルで各国に送電する。
3組	三組の宇宙による海のための全三案	人工衛星で海洋プラスチックの多い場所を特定し、海洋バクバクロボットなるものを開発して、海中のプラスチックを吸い取る。その他、海岸と海面のプラスチックも消滅させる仕組みをつくる。
4組	宇宙教室	勉強したい人が勉強できる世界をつくる。読み書きや計算ができない子どもが対象。4人乗りのカプセルを合体させ、10人程度で授業を行なう。少人数で効率よく勉強ができる。
5組	明日のearth	宇宙畑をつくり、飢餓に苦しむ地域に食糧を供給する。エネルギーは太陽光パネルを使用。水は浸透膜の原理を利用して地球から海水を送り食水に変換する。ロケットで食糧を地球に運搬する。
6組	ISGS－国際宇宙ゴミステーション	人体や周囲に影響がない電磁波でゴミを宇宙まで浮かび上がらせて、国際宇宙ゴミステーション（ISGS）で吸収。内部でリサイクル可・不可を分別し、圧縮して資源に変換する。
7組	EARTH－RING	地球の上空の大気の外に土星の環のようなリングを用いる。災害級の雨雲を吸い込み干ばつ地域に運んで雨を降らせる。これにより干ばつ地域の作物生産が可能となり、災害を防ぐことも可能となる。
8組	宇宙×エンタメ＝雇用問題の解決	宇宙エンタメ＝宇宙ライブとテーマパークで新しい事業を展開し、3年雇用サイクルで持続させていく。経済成長と雇用を促進することで、他のSDGsの問題も解決できる。

発表に際して理解してもらうための工夫が各所に見られた。あるクラスはロボットの説明のために段ボールでその模型を作成していた。どのクラスも発表は口頭に限らず模造紙などを使用して伝えたいことを可視化しよう努めていた。

最終発表の翌日8月7日にはマハティール・マレーシア首相とJAXA 理事で宇宙飛行士の若田光一氏の前で、代表者5名が英語で発表を行った。代表の塾生たちはアジア・ハイスクール・サミットの概要と感想、そして全クラスの発表内容、特に最優秀賞・優秀賞の2クラスの発表内容を詳細に説明した。長期に及ぶ強力なリーダーシップにより、マレーシアの国力を飛躍的に増大させた首相に直接発表内容を伝えた経験は全塾生にとってかけがえのない思い出となったようである。また、この日は宗像市の中高生が見学に訪れた。ご協力いただいた宗像市のご担当者の方々には心よりお礼を申し上げたい。

宇宙規模で考えることは高校生にとってかなり難易度の高いものであったが、活発な議論のもと、「まず高校生の自分たちにできることは考えること」、そして「直面した課題に精一杯取り組むこと」、「意見が対立しても理解しようと努力することではないか」といった発言がなされた。この2週間を通して多様な考えを持つ仲間と交流し、視野が広がったと多くの塾生が感じたようだ。

■サミットの感想

発表・投票後にクラスごとに振り返りを行った。「課題に対する知識や理解度が異なるため議論が難しく感じた」、「緊張してしまって思うように発表できなかった」などといった意見が聞かれた。限られた時間で2週間の討議の内容をまとめて発表しなければならないこと、そして約200人の前で発言することは塾生にとって未だかつて経験したことのない環境であり、相当なプレッシャーであったようだ。しかしその一方で、自分たちで一から作り上げた経験は、今後自ら議論の場づくりをしたいという思いを醸成し、同様のイベントに積極的に参加したり大会に出場したりといったことにつながっている。



▲最終発表の様子



▲集合写真



▲発表前日の準備の様子



▲投票の様子

中間発表の時とは全く違うアイデアになっているクラスや、そこからもっと練り直していたクラスなど様々で面白かったです。自分たちのクラスでは出てこなかったアイデアや、プレゼンの仕方など、勉強になることもたくさんありました。

実際に発表してみて感じたのは、どれだけ相手にわかりやすく伝えるかが大切で、いかにそのことが難しいことであるかということです。五分間という時間が限られた中で自分たちが企画したプロジェクトを出来るだけ詳しく説明できるか考えることはとても大変でした。

発表はどのクラスもすごくて圧倒された。発表者として前に立ったが、みんなが批判的な目ではなく興味深そうに好意的に発表を聞いてくれている感じが伝わってきて落ち着いて主張できた。

みんなの知識の多さや、考え方のレベルに驚いた。ディスカッションの時と同じように幅広い知識を駆使して色々な観点から考えているしアイデアの質も高かった。クラスの団結力と集中力に感動して多くの刺激を受けた。

自分たちが一番伝えたいことは何なのか、どのようにしたら伝えられるかを考えながら発表することはとても難しかったです。
こんなにも頭を使い、みんなで一つの目標に向かって頑張りがつづけた2週間の話し合いは人生にとって大きな出来事でした。
問題提起から、結論まで、 全て自分達で考えたことを相手に伝えることの難しさ を知りました。はっきりと分かりやすく、相手に物事を伝えられるスキルを身に着けたいと思いました。
私の高校では、ディスカッションをほとんどしないので、最初はとても難しかったですが、 日が経つにつれ、レベルアップした議論ができた と思います。私の住んでいる地域では、ワークショップがよく行われているのでそれにも参加してみたいと思いました。
クラスの発表を聞き、2週間かけて 世界をより良くしたいという志をもった仲間が本気で考えたプレゼンはどれも奇想天外で素晴らしかった です。技術やお金の問題を考えずにすむのなら8つのクラスが考えたものをすべて実現できたら、世界の諸問題は必ず解決するだろうと思いました。
私は今回のサミットを通して自分自身がまだまだ実力が不足しているという事実を知ることができました。 このリーダー塾でしか経験することができないことを自分の身を持って経験し、気づけたことは私の人生における財産である と私は考えます。
新聞やニュースの情報をただ鵜呑みにするだけではなく、 自分で考え、情報を集め、今私たちがすべきことは何なのかを考えながら過ごしていこう と思いました。次に、物事を違う視点から見てみる、ということです。
アジアハイスクールサミットでは今までに出会ったことの無いような高い志を持ったクラスメイトと2週間濃いディスカッションの時間を通して、新たな知識はもちろん 経験したことの無いようなディスカッションやディベートの形を教わり ました。
私はリーダー塾後に「 高校生の地球問題を考える会 」に参加し、全国の高校生と地球規模の問題について話し合っている。最後は、地球温暖化の対する危機意識を、周囲に、世間に発信することだ。
せっかくなので、もっと他にも宇宙を使った解決策がないか考えてみたい 。また、今回私たちが提案した宇宙教室についてももっと具体性を詰めて、どうしたら実現できるか、この案で問題を解決できるかについて詳しく考えていきたいと思った。
今回のサミットをきっかけとして、世界情勢や環境問題についてもっと深い理解が必要だ と感じ、リーダー塾終了後まだ未熟ではあるがリーダー塾開始時よりかは詳しくなれたと思う。
司会進行のやり方や大変さ、限られた時間の中で質疑応答の時は一つ一つの質問に対して答えるのではなく、全ての質問を聞き取ること、 問題に対しての解決策を出すときのやり方、興味をわかせるプレゼンの仕方 を学びました。
まずは普段からニュースや新聞に積極的に目を向けて世の中の変動に関心を持っていこうと思います。 自分の興味のない分野や自分とは考え方の異なる人と関係を持って議論をしていけるよう、人脈をどんどん広げていきます 。
ニュースや新聞を活用して何が起きているのか、私にできることはないか、これからどう行動をとればいいのか考えるようになりました。また、 考えるだけではなく、学校でコミュニティを作り、これから皆で議論する場を設けようと奮闘 しています。

（４）今年の特徴的なカリキュラムについて

■キャリア教育

キャリア教育は、高校生うちに社会や働くことへの関心を持ってもらい、進学や将来の目標設定をしてほしいという目的で行っている。内容は、クラス担任の皆様にお任せしてプログラムを作成いただいた。前半の先生方は、クラス単位ではなく全体で行い、それぞれこれまでの経歴やご自身の仕事の説明、やりがいなどを塾生全員にご紹介いただいた。後半の先生方は、それぞれのクラスで独自の内容を実施いただいた。ある担任の先生は、プレゼンの合間にゲームの要素を取り入れたり、インタビュー形式でカメラに向かって塾生に話をしてもらうなど、楽しみながら行っていた。

高校生にとっては、どうしても目先の大学進学に意識が行くが、あくまでもそれは一つの通過点である。学生から社会人になることは大きな環境の変化であり、自分自身がどのような生き方をしたいか、しっかり考えをもつことが大切であることを、それぞれの担任の先生方から学んだ。



▲後半担任によるキャリア教育

■佐賀フィールドトリップ

毎年佐賀でのフィールドトリップは、佐賀県立名護屋城博物館の見学を中心とした日本列島と朝鮮半島の交流史を学ぶことをテーマに実施している。名護屋城は、豊臣秀吉が朝鮮出兵の拠点とした地である。今年はそれに加え、佐賀城本丸歴史館を見学し、幕末から維新期にかけて、日本の近代化を推し進めたものづくり、人づくりを特徴とした佐賀藩の取り組みについて勉強した。

佐賀初日には佐賀城本丸歴史館を見学した。佐賀が幕末から維新期にかけて行なった先駆的な取り組みや一時代の礎を築いた偉人たちについて学んだ。館内で、現在の佐賀県の取り組みなどについて、佐賀県知事の山口祥義先生にご講義いただいた。

その後、アバンセに移動し、大阪学院大学法学部教授の笠谷和比古先生に、幕末から明治にかけての近代化と国際化について、学校の教科書では習う事のない内容をお話いただいた。

名護屋城博物館では、副館長の浦川和也先生が、日本列島と朝鮮半島の交流史をはじめ、できるだけ冷静な立場で豊臣秀吉らによる侵略戦争を分析し、今後二度と同じこと繰り返さないようにという願いが込められて博物館が建設されたことを教えてくださった。講義後、名護屋城博物館本丸跡地を、ガイドさんの解説を聞きながら登った。また、名護屋城博物館を解説を聞きながら見学した。

午後からは映画プロデューサーの李鳳宇先生が太平洋戦争末期、日本で初めて保育園を疎開させることに挑んだ映画「あの日のオルガン」を上映してくださり、大切な命を未来へ繋ぐことを願い、毎日を必死で戦った保母さんたちから、大きな勇気と希望を与えていただいた。李先生からは「映画で日本の将来を考えよう」という題でご講義いただき、映画から歴史背景やその時代の人の感情を理解しやすくなるということなど、映画の新たな見方についてお話いただいた。

また、（公財）産業雇用安定センター会長である矢野弘典先生に「論語とリーダーシップ」についてご



▲名護屋城博物館本丸跡地見学では、タブレットでバーチャル名護屋城を体験した



▲名護屋城博物館本丸跡地は、天気の良い日は、朝鮮半島が見える



▲名護屋城博物館見学

講義いただいた。

そして、朝鮮出兵のときに連れてこられた朝鮮人陶工の末裔である薩摩焼の十五代沈壽官先生に「伝統を守り現代を表現する」という題でご自身のアイデンティティと伝統を背負っていく生き方についてお話しいただいた。

■地球B I R D

リーダー塾のキャラクター、ネッピーの生みの親であり、企画委員として携わっていただいている、大嶽一省様とコラボレーションとして、地球B I R Dポスターワークショップを行った。ポスターに描かれた地球B I R Dを、クラスに分かれて、実際の地球の色やポスターの枠線などに捉われず、自由な発想で色塗りを行った。

今年の「アジア・ハイスクール・サミット」のテーマとも親和性が高く、各クラス非常にユニークなポスターが仕上がった。

クラス担任や学生リーダーと一緒に塗り絵に参加するなど、ワークショップ中は終始和やかな雰囲気であり、サミットの内容などで煮詰まっていたこともあり、塾生はリフレッシュできたようである。

発想が柔らかくなり、その後のディスカッションなどにも非常に良い影響が出たように思う。



▲地球 B I R D の塗り絵を楽しむ塾生たち

■宗像大社・神宝館見学

一昨年に「『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺産群」としてユネスコ世界文化遺産に登録された宗像大社を正式参拝した。大変暑い中、神職の皆様が各グループに付いて、丁寧に説明をしてくださった。日本人の祈りの原初となる古代祭場を維持しているところは国内でも殆どなく、祖先が祈りをささげたであろう場所で、悠久の歴史に想いを馳せた。

沖ノ島から発掘された8万点の国宝の一部が展示される宗像大社横の神宝館では、沖ノ島の模型があり、神社に社殿が構築される以前の岩の祭場の模型も見ることができた。また、海外から海のシルクロードを渡って来た装飾品などの数々が、宗像が古代より国際都市の機能を担っていたことを物語っている。日本人の自然崇拜の原点、国際交流の原点とも呼べるものが今でも多数残されている宗像で、日本全国・アジアの若者が集い、未来の世界について考えることは、想像力が掻き立てられ、ロマン溢れる議論と国際交流の機会となる。



▲宗像大社・本殿

■卒塾生発表

今年は4名の卒塾生に話をしてもらった。社会人2名と大学生2名。1期中川智博さんは、外務省での業務やこれまでの経歴をお話しされた。また国際社会で生きていくために必要なことを塾生たちにアドバイスしてくださった。住友商事で未来の農業を考えるためさまざまな取り組みをされている2期の椿原誉樹さんは、現在従事されている業務や海外でのご経験などを話してくださった。11期で早稲田大学の時津美弓さんは、6月まで留学していたスウェーデンで学んだこと、今後の夢、リーダー塾を経験して感じたことを語ってくれた。幼少期を韓国で過ごした経験をもつ13期の岩崎綾夏さんは、現在アメリカの大学 The College of Wooster に留学している。アメリカでの生活と夢について語ってくれた。

講師とは違う、より身近なロールモデルの話聞くことにより、高校卒業後の自分の進路などについて、より具体的に考えるヒントになったと思う。



▲卒塾生発表の様子

■夢ディスカッション

過去のクラス担任の先生や卒塾生にも、ファシリテーターとしてご協力いただき夢ディスカッションを行った。学校では夢を語るという機会はほとんどないようである。昨今の塾生をみていると、漠然とした将来への不安を抱えている若い世代が増えてきているのではないかと感じる。その不安を口に出せないという状況で、一人で悩んでしまう傾向にある。リーダー塾の2週間で目標ができた塾生も多いが、その一方で刺激を受けたからこそ、やりたいことが沢山出てきて、今後どうしていこうかと悩む者もいる。また、目標がすぐに見つからない者もいる。そのような自分の今後の希望や不安についてもざっくばらんに語り合うのが夢ディスカッションである。全国から持ち寄ったお菓子を食べながら、リラックスして語り合う場として、塾の締めくくりに自分の今後を考えるととてもいい機会になっている。



▲夢ディスカッションの様子

■音楽セッション

マハティール首相ご夫妻を歓迎するため、合唱と演奏の音楽セッションを行った。

はじめに、和太鼓の演奏を塾生が行なった。この日のためにわざわざ塾へ和太鼓を持参してくれた。続いて、バイオリンの演奏を塾生3名が行なった。塾の開始前から3名で連絡を取りあって演奏曲を決めてもらい、練習を重ねてくれた。和太鼓もバイオリンも事前に演奏したいと申し出があった塾生に演奏してもらい、大成功を取めた。

そして、全員での合唱は、チームビルディングの一環として毎年取り入れている。今年の合唱曲はゆずの「Hey 和」であった。この曲は、地球を“ほし”として、希望に向かっていく歌詞になっている。今年のアジア・ハイスクール・サミットのテーマに通じるものがあると選曲した。塾開始前の送付物で歌詞を配布し、覚えてくるよう伝えていたところ、初回の合唱練習の時点で皆上手に歌えていた。その後も合唱リーダーたちが中心となり練習を重ね、本番では見事なハーモニーを披露してくれた。



▲和太鼓を演奏する塾生

このあと、マハティール首相夫人が「帰れソレントへ」をバイオリンで演奏され、ご友人の鈴木素子さんがそれに合わせて歌を披露してくださった。夫人は年齢を重ねてからバイオリンに挑戦され努力を惜しまず練習されていると聞き、塾生たちにはたいへん刺激になった。

締めくくりは、マレーシアの童謡曲「ラササヤン」を全員で合唱した。この日のためにマレーシアの塾生が中心となり練習をしてきた。

当日は台風の影響で非常に多くの変更を伴うことになったが、素晴らしい演奏、歌声をマハティール首相夫妻に届けることができた。



▲バイオリンを演奏する塾生



▲マハティール首相夫妻とともに「ラササヤン」を合唱する塾生たち



▲『Hey 和』の合唱



▲バイオリンを演奏されるマハティール首相夫人

■みそ汁コンテスト

塾5日目の7月30日には「みそ汁コンテスト」が行われた。みそ汁コンテストでは、各クラスがオリジナルのみそ汁を考案し、味、見た目、コンセプトを審査ポイントとして、優勝クラスを決める。みそ汁は古くから日本の食卓に欠かせないものであり、全国各地で具材やダシ、味噌などの違いがある。しかし、残念ながら、近年、毎日みそ汁を飲む習慣が少なくなっている。全国から集まる高校生にみそ汁を通して日本の食文化の大切さと多様さを学ぶ機会を提供するためにみそ汁コンテストを開催している。



▲協力してみそ汁を作る塾生たち

使用する味噌はフンドーキン醤油株式会社から協賛いただいた、「生詰無添加あわせみそ」、「生きてる米みそ」、「九州育ち麦みそ」、「生きてる純正赤」の4種類。この中から味噌を1種類選ぶ。食材は開催地であるグローバルアリーナにご協力いただき、宗像市産のものを中心に、塾生が要望した食材を集めていただいたことに感謝したい。

各クラスは、事前にホームルームで具材やコンセプトを決め、当日に向けて準備を行った。より良いみそ汁を作るために、クラスにおいて様々な議論が行われていたようである。審査時にクラスのみそ汁をアピールするプレゼンテーションについても、話し合いを重ねていた。

フンドーキン醤油株式会社社長の小手川強二先生の講義の後、各クラスでグローバルアリーナのバーベキュー広場に移動し、みそ汁の調理に取り掛かった。調理の制限時間は30分。各クラスで、かまどの火の調整から、食材を切る・煮込むなどの調理をしたり、審査・食事会場となる食堂の準備を行ったりと手際よく役割分担しながら、協力してみそ汁づくりに取り組んだ。

塾生たちは昼食とともに自分たちが作ったみそ汁を堪能。昼食と並行して、審査員による実食審査が行われた。審査員には、小手川社長ご夫妻、宗像市教育委員会教育長の高宮史郎様、株式会社TNC放送会館代表取締役社長藤井通彦様、リーダー塾専務理事・事務局長の加藤暁子の5名を迎え、8クラスのみそ汁を審査した。各クラスの代表者がコンセプトや工夫した点などを1分半の持ち時間で審査員に発表した。各クラス個性のあるプレゼンテーションに食堂は賑わった。

最優秀賞は5組の「^しみ^そ喜^し露^ろ（みそ=笑み、喜露=喜び弾ける）」が受賞。具材に大根の葉っぱを使うことで、食品ロスを減らし、世界を笑顔にしたいという願いが込められている。またクラスに韓国のアジア学生がいることから韓国語を組み合わせたネーミングとなった。フンドーキン賞には2組の九州の名産が世界の裏側まで届くようにという意味の「ブラ汁」が輝いた。教育長賞には6組の「むなかたJiる」が選ばれた。みそ汁コンテストは、楽しいだけでなく、短時間で最大限の結果を生み出すための計画、創意工夫や役割分担、協力し合うことの大切さなどを学べる機会である。



▲各クラスのみそ汁



▲自分たちで作ったみそ汁を食べる様子



▲コンテストで表彰される様子

■台風の接近と想定外の事態に対する対応

今回のリーダー塾は台風のため、講師の到着や塾生の帰宅に影響を受けた。台風の接近で、卒塾式後の塾生の帰路での行程が大幅に変わった。

塾後半に台風8号の接近が報じられた。台風が最接近する8月6日の講師であった滝久雄・ぐるなび会長は新幹線に切り替え早朝から出発していただき、西川恵・毎日新聞社客員編集委員は前日入りをしていただいた。翌日の講師であった若田光一・JAXA 理事は羽田空港で前夜待機していただいて、7日の始発便で福岡へ。マハティール首相ご夫妻は政府専用機を夜行便に切り替えて、6日夕方到着から6日深夜にクアラルンプールを出発、7日早朝着で駆けつけてくださった。

7日、台風はそれたものの、大気が不安定でマハティール首相ご夫妻歓迎昼食会の時間帯想定外の雷雨に見舞われ、グローバルアリーナは停電。福岡県警から禁足令が出された。マハティール首相は「マレーシアのスコールみたいだね。ここは熱帯？」などと話され、会場内で、参加者との写真撮影に応じて雨宿りをした。

続いて行われたマハティール首相ご夫妻歓迎音楽会も武道場が停電したため、急遽場所をクラブハウスの切り替えて行った。

翌日は卒塾式の日で、全国やアジア各国に塾生は帰るため、その後の台風の進路を確認し、関係者との情報交換、塾生の交通機関の情報収集及び延泊対応の確認などを行った。

8日、卒塾式後、空港に向かうバスの出発が遅れたことや、空港に到着後の迅速な行動が取れなかったため、岩手県枠の塾生が飛行機に乗れないという事態が発生した。便の振替対応を行い、目的地を仙台から東京に変更し、東京から岩手までは新幹線で移動をした。

うるま市枠の塾生は那覇空港に着陸寸前台風9号の影響で着陸を断念。福岡空港に引き返してきたが、福岡空港が雷雨のため着陸できずに北九州空港に到着。塾生が臨時バスに乗って福岡空港に戻ってきたのが深夜となった。翌日からの那覇行きの直行便はお盆まで満席だったため、翌日、羽田空港経由で帰途に着いた。

一方、アジア奨学生たちも影響を受けた。ベトナムの塾生は、8月9日のフライトであったが、台風が台湾に向かったため欠航となり、韓国・仁川空港経由の便に振替を行った。

対応にご協力いただいた、保護者の皆様、参画県担当者ら関係者の皆様、特に講師の皆さまや岩手県の担当者及び西鉄旅行担当者の皆様には改めてお詫びとご対応に感謝を申し上げたい。



▲帰宅の途に就くベトナムの塾生たち

9. 参画道県・市の声

リーダー塾は、9つの県と2つの市から参画を受けており、塾生の募集、選考など、多くの協力を頂いている。参加塾生の様子や塾に期待していることなどについて、参画県に対し、アンケート調査を実施した。

【北海道 環境生活部くらし安全局道民生活課青少年グループ】

北海道は、毎年関係機関から塾期間中に道産品の差し入れをいただいております、北海道からの派遣生全員で協力して、同品はもちろんのこと、本道のPRを行った。

今年度は道職員が一部参加し、現地での塾生の様子や北海道との気候の差異も確認できた。北海道からの派遣生は、出発前に集まる機会が第二次審査しかないのだが、往路の待ち時間等を利用して打ち解けていた。

塾の参加によって、普段交流できない道外の方々と出会い、“北海道の代表”としての自覚が芽生え、将来のビジョンを見つめる経験を積めたようである。

高等学校の所管が教育委員会となっていることから、毎年、高等学校への周知に苦慮しているが、今年は「少年の主張」全道大会において卒塾生の講演の場を設け、主張発表者の中学生・引率者を相手に事業を周知し、高校入学後に参加を検討いただくよう声かけを行った。



第二次審査の様子（提供：北海道）



事前講義の様子（提供：北海道）

【青森県 企画政策部地域活力振興課人づくりグループ】

参加した塾生皆が、充実した塾生活の中で自分の将来、日本、世界の事を真剣に考え、自分のなすべきことを実行に移す意欲を高めたようである。

壮行式での期待や不安の表情とは違い、青森に到着した時の表情からは、満足感、達成感が感じられた。卒塾後の感想では、切磋琢磨した仲間の大切さと、これからの自分の将来についての具体的な考えとその行動へ向けた決意を新たにし、意欲の高さを示す言説が多く見られた。

保護者の感想でも、一回りも二回りも大きくなり、視野も広がり、新たなことを実行している子供たちの様子に感動し、塾へ参加できたことへの感謝の言葉が多く見られた。



壮行式の様子（提供：青森県）

【岩手県 教育委員会事務局教育企画室】

リーダー養成塾は、日本や世界を代表する学者、経済人による講義の受講や全国の志の高い高校生や海外からの留学生との本気のディスカッションを行える貴重な機会であると思う。リーダー塾には、今後も魅力的なプログラムの提供を期待したい。

参加した受講生からは、リーダー養成塾に参加したことで自分の世界が広がった、将来の夢を明確に持つことができたという話があり、生徒にとって貴重な経験となったと実感している。受講生たちには、リーダー養成塾で得た経験を糧にして、将来の目標に向かって努力し、次世代のリーダーとして成長することを期待したい。



事前研修会の様子（提供：岩手県）

【静岡県 教育委員会高校教育課】

塾生は、2週間の生活を通して様々な影響を受け、今の自分を見つめ直したり、夢を再確認したりして、進路をより具体的に考え、将来に思いを巡らしています。また、全国から集まった同世代の仲間は、生涯を通じて支え合うことができるかけがえのない存在となりました。

講師の方から「自分らしくなるために1%変わることに」、「愛される人より、愛する人になること」など心に響くメッセージをいただき、静岡を世界に発信したい、地域や国、世界に貢献したい、国際社会で活躍する自分でありたい等、グローバルな視点で考えています。また、アジア・ハイスクール・サミットを通して、仲間は支え合う存在であり、相手を尊敬して行動することが、大きな成果につながることを強く実感しています。

塾生が、貴重な経験を生かし、更に高い目標に向かって、積極的に活動していくことを願っています。



塾出発前の様子（提供：静岡県）

【岐阜県 環境生活部私学振興・青少年課青少年係】

10月20日（日）に行われた報告会では、塾生10名が参加し、2週間の塾を通して自己を見つめ直し、日本の未来や自身の将来についてより深く考えるきっかけを得た事がうかがえました。多くの塾生がマハティール首相をはじめとした様々な講師の方や高い志を持った仲間たちに出会い成長を実感することができたと感じていました。また、親や周りへの感謝の言葉を伝える塾生も多く、内面からも一回り大きくなって帰ってきたことが分かりました。

当県は、外部有識者による二次選考を行っており、選考する委員たちからも、塾生が塾で得た事や将来

の夢について表情豊かに生き生きと発言する姿がみられ、大きく成長した様子を感じ取れたとの意見がありました。

塾生たちには、参加した時の意欲や経験を忘れず、将来の目標に向かって継続して活動してほしいと願っています。また、次世代のリーダーとして地元への貢献にも期待したいです。



報告会の様子（提供：岐阜県）

【和歌山県 教育庁学校教育局県立学校教育課全国高総文祭推進室】

本県から次世代を担うリーダーを輩出することを目的に、同塾発足当初から本県は参画し、毎年10人程度の高校生が参加している。県の面接で生徒は、「新しい自分を見付けたい」、「自分を高めたい」、「視野を広げたい」等々、塾への期待を語っていた。

卒塾後の感想文からは、各界を代表する方々からの講義や多彩なプログラム、全国から参加した仲間との交流を通じて、「志を持って生きることの大切さに気付いた」、「周りに聞くのではなく、自分の頭で考えることができるようになった」、「人の前に立つ人は、人一倍自由な発想と強い意志を持っている人が多い」、「自分の目指すべきリーダー像がわかった」等、様々なことを学び、これまでの意識や考えが変化し、成長したことがうかがえた。

日本の次世代リーダー養成塾は、子供たちが持つ可能性を大きく伸ばす取組だと実感している。今後もさらにプログラムを精選し、事業が継続されることを望んでいる。

【愛媛県 教育委員会事務局指導部高校教育課】

愛媛県では、日本、そして世界に通用する人材の育成を目的として、「えひめ高校生次世代人材育成事業」を実施しており、その中で、「日本の次世代リーダー養成塾」への高校生の派遣、リーダー養成塾の参加の成果の普及を図る事後研修会及び報告会等を行っています。

リーダー塾参加後は、「日本の歴史や経済状況、アジアをはじめとした世界各国の状況に目を向けることの重要性を感じた。」「仲間と意見を交わす中で、意義あるディスカッションを実現するために、自分の意見を分かりやすく伝える力や、相反する意見を取り入れる柔軟性を身に付けたいと思った。」との声が聞かれるなど、目指すべきリーダー像を具体的に思い描いている様子がうかがえました。

今後、塾生との絆を大切に、将来の目標に向かって歩みを進められ、世界のリーダーとしてさらに成長されることを期待しています。



事前研修会の様子（提供：愛媛県）

【福岡県 人づくり・県民生活部私学振興・青少年育成局青少年育成課】

本県では、“Think globally, act locally”、国際的な視野を持ち、地域で活躍する「人財」の育成が必要と考え、「ふくおか未来人財育成ビジョン」を策定している。子どもたちに眠る無限の可能性を引き出した、地域の未来を担う子どもたちを社会全体で育てたい、その思いで取りまとめたものである。

このリーダー養成塾は、同じ志を持った全国各地から集まった仲間と学校の授業では経験できない貴重な講義を体験することができ、子どもたちの可能性を引き出すための良い機会となっている。卒塾生からは「視野が広がった」、「自分の世界観、価値観が変わった」、「一生の仲間ができた」など、参加できたことに感謝の声がある。

今後も、次代を担う高校生のため、時代に合わせたより良い事業の継続を望む。



事前研修会の様子（提供：福岡県）

【佐賀県 健康福祉部男女参画・こども局こども未来課】

今年は、往時の佐賀藩の歴史を体感することができる佐賀城本丸歴史館で知事講義を行い、全国の仲間に佐賀のことを知り、学んでいただけたことは、大変嬉しく思います。

佐賀県塾生は、出発式では、覚えてきた言葉を思い出しながら塾での目標を話している様子でしたが、卒塾後の報告会においては、「世界で活躍したいという夢を語り合うことができる仲間がたくさんできた」「本当に自分がやりたいことを見つけることができた」「ふるさと佐賀の魅力を世界に発信できる人になるという新たな夢に向かって頑張りたい」など、一人ひとり自分自身の言葉で堂々と語り、その成長した姿に頼もしさを覚えました。

卒塾生には、塾で高まった志や繋がった仲間をこれからも大切にして、地元“佐賀”に愛着と誇りを持ち、日本や世界で活躍する人材となることを期待するとともに、今後も、この素晴らしい塾へ志をもった多くの高校生が参加し、ますます発展していくことを願います。



事前研修会、出発式、報告会の様子（提供：佐賀県）

【福岡県宗像市 教育子ども部子ども育成課グローバル人材育成係】

毎年、宗像市で「日本の次世代リーダー養成塾」が開催されることを嬉しく思います。

本市では昨年に引き続き、8月7日（水）市民公開講座がありました。今回はマハティール首相と若田光一さんの講義があり、中学生や高校生をはじめ宗像市民 85 名が聴講しました。

塾生だけでなく宗像市民にも聴講の機会が与えられたことに、とても感謝いたします。

また本市から参加したある塾生は、「アジアハイスクールサミットにて『地球規模の課題を宇宙で解決しよう』というテーマで議論した。その中で新たな価値観や考え方に触れ、学ぶ事ができた」と力強く語ってくれました。

宗像市枠で参加した他 2 名の塾生の感想からも、充実した 14 日間の日々で、かけがえのない仲間と出会い、将来に向けての意欲に繋がったと確信しています。

塾生には、リーダー養成塾で得た経験を糧にして、次世代リーダーとしての今後の活躍に期待です。

【沖縄県うるま市 経済部商工労政課雇用推進係】

日本の次世代リーダー養成塾の参画県となりうるま市の高校生を派遣するのは今回で 4 回目となります。

毎年、2 週間という研修の中で日常では体験できない貴重な経験を経て、自分の欠点を見出しそれを改善していく子、自分のやりたいことを再確認し新たな力を手に入れる子など、どんな子ども達も新たな自分を見つけ成長しているように感じます。

リーダー塾終了後に行った地元のラジオ放送の収録では、事前学習の時よりもディスカッション能力や聞いている人がわかりやすいように話す能力が向上しており、リーダー塾での体験は子ども達の成長に良い影響を与えられているのだと思いました。

今年度参加した 2 名の子ども達にリーダー養成塾終了後、感想を書いてもらいましたが、2 人とも講義や同じグループ内でのディスカッション、普段の語らいの中でとても良い刺激を受け、自分を見つめ直すことややりたいことを考える良いきっかけとなったと述べていました。

リーダー養成塾に参加することで、県外の同年代とのネットワークを築く良い機会となっていると思います。これから子ども達が社会に出て大人になっていく中でその築き上げた繋がりがそれぞれの夢の実現の力になることを期待しています。



事後学習の様子（提供：うるま市）



ラジオ収録の様子（提供：うるま市）

10. 第26回アジア・太平洋地域宇宙機関会議（APRSAF-26）

名古屋市で開かれた「アジア・太平洋地域宇宙機関会議」（APRSAF）で11月29日、『宇宙機関長×若手世代』セッションに、アジア・ハイスクール・サミットで優勝した3組の人見玲奈さんとアジア奨学生を代表してAli Izzatさんが登壇した。「地球規模課題に対する宇宙技術の貢献」をテーマに、モデレーターは金井宣茂・宇宙飛行士が務めた。パネリストは各国の宇宙機関長とリーダー塾の2人と宇宙世代諮問委員会（SGAC）の大学生。会場には担任、学生リーダー、3組や名古屋の卒業生が応援に駆け付けた。

（1）発表内容

アリさんがリーダー塾とアジア・ハイスクール・サミットを、人見さんが3組の宇宙技術を使った海洋プラスチックゴミ解決策を説明した。最後にアリさんが他のクラスから発想力豊かな課題解決案が出たことを紹介し、「けっして食欲さを追及せず、人々に寄り添い、環境に配慮した持続可能な将来のために頑張っていきたい」と自らの夢を発表した。

（2）宇宙機関長からのフィードバック

Prof. Dr. Thomas Djamaluddin（インドネシア）「国境を超えて取り組むべきプラスチック問題に着目し、現代の宇宙技術を運用する姿勢を評価したい。新技術の開発で限界に囚われないことは大切だ」

Mr. Azlikamil Napiyah（マレーシア）「今日抱えている課題が取り上げられていた。マレーシアでは2030年までにプラスチックゴミを解決する計画だ。先端技術を人類の発展に使うことが最も重要だ」

Eng. Naser A. Bin Hammadi（UAE）「国際的なプラスチック問題に着目したのはとても良い。今後、さらに異なる視点で考え、解決策を考えることもできる。仲間との協力が必要で宇宙空間でも同様である」

（3）パネルディスカッション

金井宇宙飛行士の「50年後の宇宙と人間の関係はどうか」に、人見さんは「宇宙はより人間にとって近い存在になっている。次世代は一つの側面に固執することなく、様々な視点から宇宙を捉え、将来を担うリーダーとして、私は宇宙空間のイノベーションをサポートしたい」アリさんは「持続可能な点で宇宙は重要な鍵となる。持続可能な開発を実現することが最優先事項であることに気づかなくてはならない」。

各国の機関長は「一部の人間に限らず皆で問題に取り組むのが国連が目指すものである」「より多くの若者の意見を取り入れ多文化共生社会を創造するべきである」と述べた。

（4）感想

人見さん「APRSAFは宇宙開発の未来や、これからの持続的な社会の実現と向き合う有意義な場でした。高校生の私たちのアイデアや意見にも真剣に耳を傾けて下さった JAXA の方々に心から感謝しています。今回の経験を1つの通過点として、宇宙のように広い視野を持ち続け、邁進していきたいです」

アリさん「今回の発表を通して国際会議及び国際機関についてより深く学ぶことができました。会議では持続可能な開発目標やSDGsと宇宙の関係について討議されていました。宇宙はSDGsを実現する方法に結びついていて、今後、若手世代が関わっていくことが必要不可欠だと考えるようになりました。将来のためにその17目標に向かって、私を含め若者が頑張っていかなければなりません」



▲若田光一 JAXA 理事との再会



▲堂々と発表する人見さんとアリさん



▲パネルディスカッションの様子



▲駆けつけてくれたクラス担任・学生リーダー・卒業生のみなさん

1 1. マレーシア次世代リーダー養成塾設立へ

16回連続、リーダー塾の講師を務めていただいているマレーシアのマハティール首相は、昨年、首相に返り咲き、首相となってからも変わらずリーダー塾にいらしていただいたが、昨年、帰国後の閣議で「日本の高校生からは毎年呼ばれて講義をしているが、マレーシア国内では一度もない。次世代リーダー塾をマレーシアにも開塾しよう」と「マレーシア次世代リーダー養成塾」(Malaysia Future Leaders School=MFLS)の設立を提案して、決定された。

国家プロジェクトとして始まったマレーシア次世代次世代リーダー養成塾は、青年スポーツ省が管轄し、昨年の下院選挙で議員となり、26歳、最年少の大臣に就任したサイド・サディック青年スポーツ大臣がリーダーシップをとることとなった。1年かけて、2000校30万人の高校生から35000人が1次選考で決まり、マレー人、中国人、インド人が一緒に150人ずつ9泊10日の合宿生活を州ごとに行い、11月には、最も優秀な高校生リーダー200人が選ばれた。

これに先立ち、今年5月、クアラルンプールでマハティール首相が列席したキックオフセレモニーには、日本のリーダー塾を代表して、卒塾生の外務省アジア大洋州局中国・モンゴル第2課課長補佐の中川智博さんと東京外国語大学3年の高橋はなさんがビデオメッセージが流された。

今夏のリーダー塾には、サイフディン・アブドゥッラー外務大臣とともにサイド・サディック青年スポーツ大臣も視察。日本のリーダー塾の取り組みを視察した。

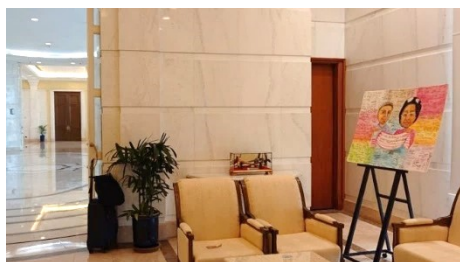
来春には、最優秀に選ばれた数十人が日本でスタディツアーをする計画や、リーダー塾への参加も計画されている。



▲サイド・サディック青年スポーツ大臣



▲卒塾生・中川智博さんと高橋はなさんによるビデオメッセージ



▲首相府待合室に飾られた2018年リーダー塾生による「私の夢」プレート

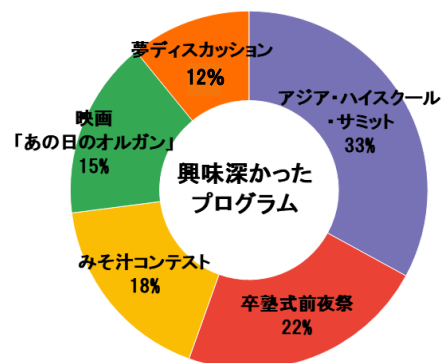
資料① 塾期間中の塾生アンケート調査結果

塾が終わるにあたり、塾に関する全般のことについて、塾生に対しアンケート調査を実施した。本報告書では、主な設問について掲載することとする。塾生185名のうち179名が回答。

興味深かったプログラム（複数回答可）

※アンケート集計上位5つを記載

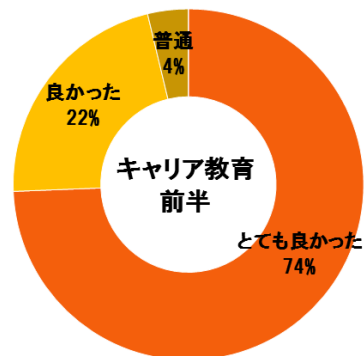
①アジア・ハイスクール・サミット	33%
②卒塾式前夜祭	22%
③みそ汁コンテスト	18%
④映画「あの日のオルガン」 （李鳳宇先生の授業の教材）	15%
⑤夢ディスカッション	12%



カリキュラムについての評価・感想

（1）キャリア教育（前半）

とても良かった	74%
良かった	22%
普通	4%
あまり良くなかった	0%
良くなかった	0%

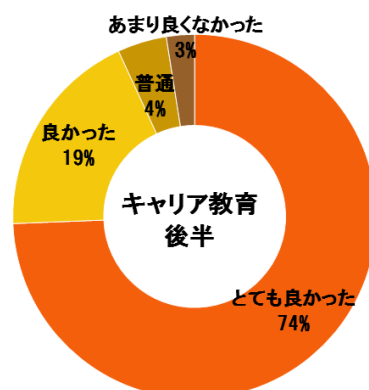


■主な感想

- ・今までは自分の興味がある職業しか調べたことがなく、この機会ですべて初めて知った職業などもありました。どんな仕事があるのかを把握できていない自分に気がつくことができました。
- ・進路選択における視野が広がったと思います。先生の「大事なものは「どこにいるか」ではなく「何をするか」」という言葉が心に残りました。

（2）キャリア教育（後半）

とても良かった	74%
良かった	19%
普通	4%
あまり良くなかった	3%
良くなかった	0%

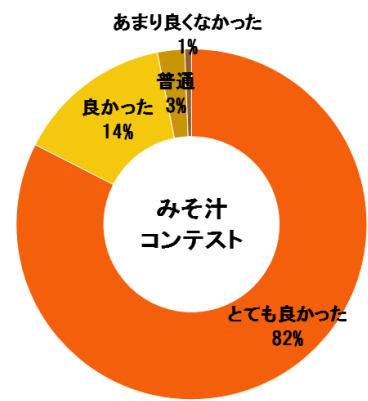


■主な感想

- ・前半と違った形でキャリアについて学ぶことができた。ゲームも含まれていて楽しく職業について知ることができた。
- ・自分のやりたいことを貫くことがとても大切だとわかりました。私はカメラが大好きなので、実際にカメラを仕事としてる人の話が聞けてとても嬉しかったですし、参考になりました。

(3) みそ汁コンテスト

とても良かった	82%
良かった	14%
普通	3%
あまり良くなかった	1%
良くなかった	0%

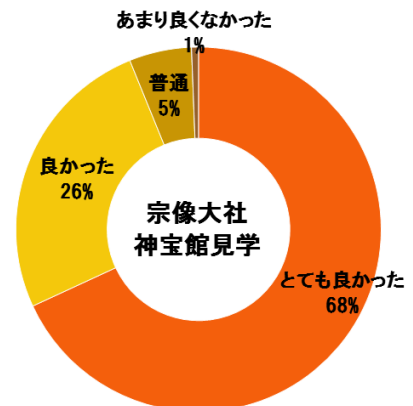


■主な感想

- ・みんなで協力し、みそ汁を作ったことで、絆が深まりとても良い思い出になりました。
- ・講義続きで疲れていたので一息つける、楽しいプログラムでした。
- ・話し合う過程で、お互いの意見を潰さないように少しずつ取り入れていきました。

(4) 宗像大社・神宝館見学

とても良かった	68%
良かった	26%
普通	5%
あまり良くなかった	1%
良くなかった	0%

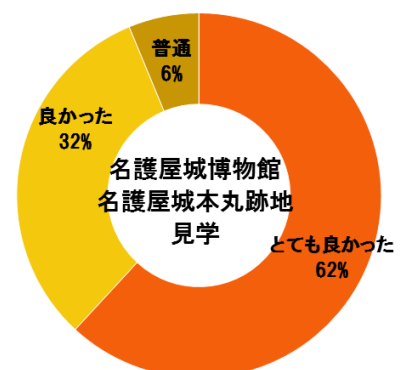


■主な感想

- ・古来からある自然の美しさに驚かされました。特に自然のままの岩や木々を祀っていることに驚くとともに神聖さを感じました。
- ・神々が住む自然がある宗像大社を見学し、圧倒的な自然の豊かさ、先代が守り続けてきた伝統を継がなければならないと感じた。
- ・光り輝く金製指輪を見て、沖ノ島から出てきたことや、日本人によって造られた可能性があることの素晴らしさを感じた。

(5) 名護屋城博物館・名護屋城本丸跡地見学

とても良かった	62%
良かった	32%
普通	6%
あまり良くなかった	0%
良くなかった	0%

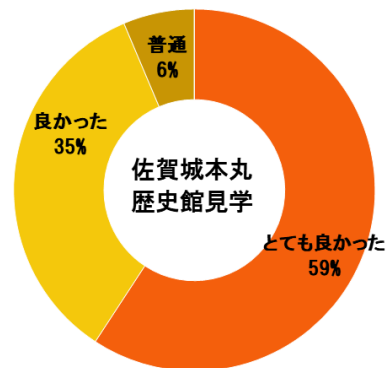


■主な感想

- ・博物館で見た朝鮮の硬貨や指輪を見て、異なる文化は互いに影響し合うことが分かり、もっと他国と日本の歴史を知りたくなった。
- ・名護屋城博物館は、「平和教育の場」として、とても優れている場所であり、自分が住んでいる唐津の誇れる遺産であると感じた。

(6) 佐賀城本丸歴史館

とても良かった	59%
良かった	35%
普通	6%
あまり良くなかった	0%

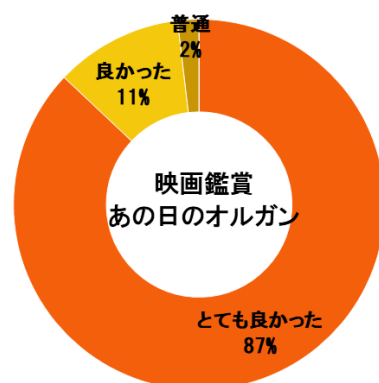


■主な感想

- ・幕末の時代に、早くから西洋の文化に目を向けていたことがよく分かった。映像機器を用いたことでとても分かりやすく解説を見られた。幕末の歴史をもっと良く知りたいと思った。
- ・古人の知恵の素晴らしさに驚きました。今あるものを自然とどううまく調和させながら、生かしていくかという考え方は現代も見習わなくてはいけないと思いました。

(7) 映画鑑賞「あの日のオルガン」

とても良かった	87%
良かった	11%
普通	2%
あまり良くなかった	0%

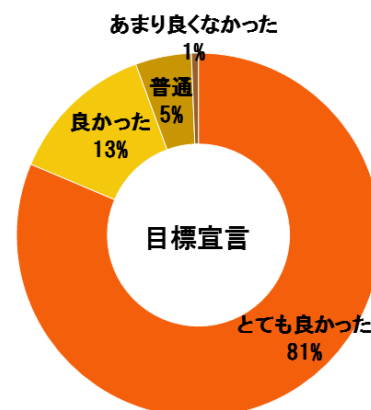


■主な感想

- ・私たちとさほど歳が変わらない女性たちが、多くの子供たちの命を守るために、自ら命をかけて行動した勇気に感動した。戦争の惨さ、残酷さを再認識できた。
- ・楓さんは素晴らしいリーダーだと思いました。女性の意見が反映されにくい時代に、多くの反対があっても、めげずにやり抜いた姿が印象的でした。私も、すぐに結果が出なくても諦めないリーダーになりたいと思いました。

(8) 目標宣言

とても良かった	81%
良かった	13%
普通	5%
あまり良くなかった	1%
良くなかった	0%



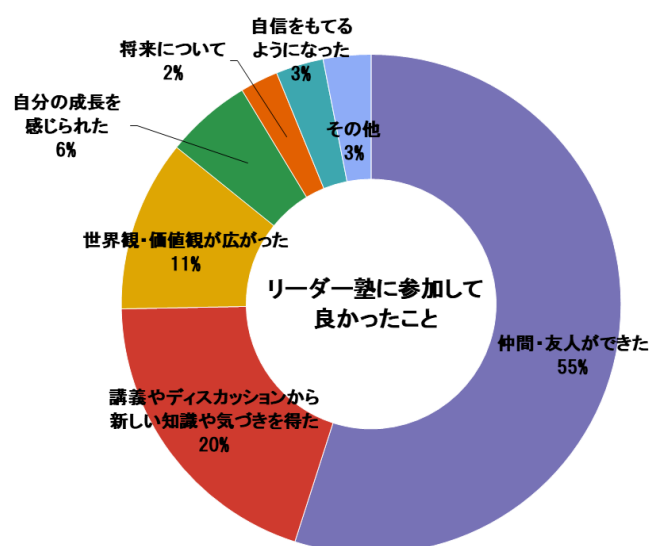
■主な感想

- ・塾生の目標はレベルが高く、刺激を受け、自分も負けていられないと闘争心が燃えた。
- ・私は今まで人前で話をするのが苦手でしたが、皆が笑顔で聞いてくれたことで安心感と喜びは一生忘れられません。
- ・自分の夢をみんなの前で発表することで、夢がよりはっきりと確立し、絶対に達成したいという気持ちが強まった。目標宣言は自分の分岐点になったと感じる。

リーダー塾に参加して一番良かったこと

※記述式のため、キーワードをピックアップして集計

- | | |
|---------------------------------|-----|
| ① 仲間・友人ができた | 55% |
| ② 講義やディスカッションから
新しい知識や気づきを得た | 20% |
| ③ 世界観・価値観が広がった | 11% |
| ④ 自分の成長を感じられた | 6% |
| ⑤ 将来について | 2% |
| ⑥ 自信を持てるようになった | 3% |
| ⑦ その他 | 3% |



■主な内容

仲間・友人ができた	短い期間ではありましたが、今までにないほどの濃い時間を一緒に過ごした塾生は、一生の友です。そう呼べる仲間に出会えたことは私の自慢です。
	学校の友達に将来の話について熱く語ることは恥ずかしくてできませんが、熱い思いをもっているリーダー塾の仲間になら素直に自分の話が出来ました。
	ベトナム・韓国・マレーシア、日本全国。このように多様な仲間と知り合えたことは人生最高の宝物だと思っています。
	スマホ禁止というルールのお陰で面と向かって話をすることができ、性別や年齢に関係なく「仲間」と呼べる関係になりました。
	リーダー塾で出会えた仲間は、私の心の支えになっています。どんなに大変なことがあったとしても、全国のいろいろな場所でみんなも頑張っていると思えば前に進んでいけます。本当にみんなと出会えて良かったです。
	2週間インターネットの無い環境で、自分の言葉を本気でぶつけ合った仲間は、うわべだけの関係では無い信頼できる本当の友達になりました。
	様々な出会いを経て、自分はこのままでいい、自分は唯一自分しかいないと感ずることができた。一生の仲間を持てたことが私の人生を変え、参加して良かったと心から思う。韓国やタイ、モンゴルに親友と呼べるほどの友人がいます。これからお互いに迷った時は、手を差し伸べることができるように、様々な活動で学び、知識を増やしていきたいです。
講義やディスカッションから新しい知識や気づきを得た	自分の勉強不足を改めて実感しました。ニュースで世界で起きている問題が取り上げられた時に、その事について調べたり、前よりも自分で意見を持つようになりました。
	ディスカッションで、物事を整理しながら考える力が身についたこと、発言する力がついたこと、みんなをまとめる力がついたこと。どれも参加しなければ得られなかった。
	確実に成長した点は、議論の中で好感度を気にせずに自分の意見をはっきりと言えるようになったことです。また、たくさんの講義を聞いて、海外留学をするという決心ができました。
	学校では決して感じられないような緊張感の中で、異なった考え方をを持った仲間たちとレベルの高いディスカッションやディベートができた。
	講師のお話を聞き、自分の限界を決めないためには、知識が無いとどうしようもないと思い、勉強を頑張れるようになりました。
	明石先生の講義や、意識の高い高校生と触れ合いに、とても刺激を受けました。ただ授業を聞くだけでなく、この勉強を将来にどう生かすのか、知ることができた気がします。
	たくさんの先生の講義を聴き勉強は大事だが、日本の文化に触れたり、沢山の本を読んだり、すべきことは他にもたくさんあると知った。

世界観・価値観が広がった	携帯を使わないコミュニケーションの仕方が求められる中で、 直接関わって話すからこそ、本当の相手を知ることができる と痛感した。
	能力の高い高校生が大勢いて、自分は努力不足でもっと頑張らなくてはいけないということを実感できた。 視野が広がり、考え方や意識が変わった。参加して良かった と思う。
	自分に自信が無く、内向的な部分があった。2週間を共に過ごす仲間を見て、自分がとても小さな存在であることを痛感した。そして、私も いつかこんな仲間のよう に、 自信を持って夢を語る人間になりたい と思った。
	勉強は、テストで良い点を取り、受験に合格するためのものだと考えていた。しかし、講義やAHSをする中で知識を使う場面が多くあり、 勉強の大切さを実感 した。
	改めて自分の祖国である 日本について知り、理解を深めたい と思うようになりました。
自分の成長を感じられた	まず自分の将来の夢が変わったこと。 自分の価値観が変わり、物の捉え方、人との関わり方など、人間として成長できました 。
	最初は全然発言することができず、自分の殻に閉じこもっていました。学生リーダーの言葉に感化され 少しずつ発言できるようになりました 。でも、まだまだ積極性というところについては課題だと思います。 自分についてさらに知ることができたので良かった です。
	何かをしなければいけない時に、やりたくないという思いが先にきていたが、 今は実行してから、やってよかったのかを考えよう と思うようになった。
	自分の殻を破れたこと 。自分の意見を誰かに伝えることがものすごく苦手だった私が、こんなにも変われるのだなと思い、 参加してよかった と強く思った。
将来について	先生方の講義を聞いて、 職業だけが夢じゃない ということを学び、 将来の夢に希望が持てました 。
	JAXA に入りたいというきっかけになった若田先生に会うことができた。 憧れの人の講義を聞いて、握手までしてもらい、必ず夢を叶えてやろう と思い、いい刺激になった。
自信を持てるようになった	夢の大きさには個人差があったけれど、みんなで語り合っ、アドバイスし合っていくうちに、 夢を持つ誇らしさと素晴らしさを感じて自信につながった 。
	自分が好きになれました。自分なんてと思っていた部分は、リーダー塾のみんなに認めてもらって、 私にも可能性はあるんだ、そんな力があるのだと解る事ができてよかった 。
その他	2週間も知らない土地で知らない人と共同生活を送ることに不安を感じていたが、その 不安も良い意味で裏切られた 。さらにもう 2週間過ごしたい と思ったほどだった。
	自己管理をできるようになったこと、たくさんの学びと出会えたことなど、自分の将来の糧となるものを得ることができました 。
	リーダーに必要なものの一つに語学力があると思いました。アジアからの学生は母国語以外に日本語や英語を話していました。 彼らと共同生活を通じて世界の広さを直に感じる ことができた。
	情熱を持つ大切さが身に染みてわかりました 。

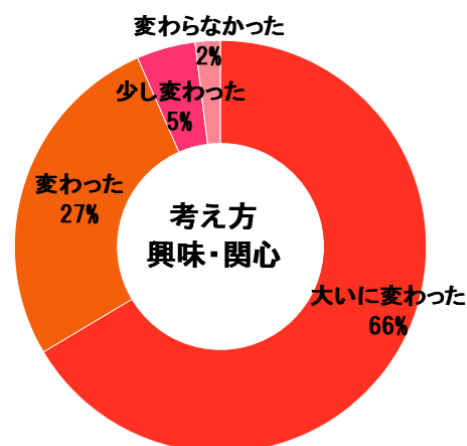
資料② 卒塾後の塾生・保護者・学校アンケート調査結果

卒塾してから約1ヶ月後、185名の16期生（アジア奨学生を含む）と、その内169名の日本人塾生の16期生の保護者、学校の担任教員を対象に、卒塾後の塾生の変化についてのアンケートを実施した。卒塾生は164名から（88.6%）、保護者は142名から（84.0%）、学校の担任教員は134名から（79.2%）回答があった。主な項目を抜粋して掲載する。

塾生へのアンケート

？ 塾参加後、ものの考え方や興味関心が変わりましたか？

大いに変わった	66%
変わった	27%
少し変わった	5%
変わらなかった	2%



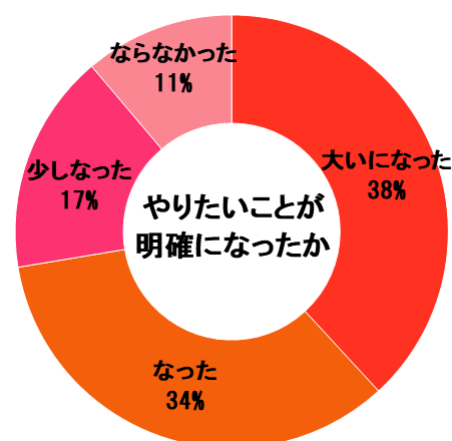
■主な内容

視野が広がった 社会・世界に興味を持った	多くの方々との出会いで、 多角的に物事を考えられるようになった 。自分を客観的に見ることができるようになり、 より周りを見て行動できるようになった 。
	新聞やニュースの見方が変わりました 。取り上げられる問題に対して、内容を理解する他に、今後どのような動きになるのか、 自分の意見を持つようになりました 。
	クラスでのディスカッションやAHSを通して、多くの意見を知り、 視野が広がりました 。また 地球規模の問題に関心を持ち、何か解決に貢献したいと思うようになりました 。
	私は貧困問題をどこか他人事とっていました。AHSで貧困問題を掘り下げていき、逆の立場にいる 自分が解決することが使命である と感じるようになりました。
主体性・責任感、 意欲向上、自信	日々の中で 他人は変えられないが自分は変えられる ということを意識し、「自分がやる！」という気持ちが強くなった。
	周りにどう思われるかを気にしたり、「無理だろう」と諦めていたことが、「 自分の力を試してみよう、将来のためにやってみよう 」と思えるようになった。
	スケジュール管理がうまくなったと思います。自分の予定を把握し、 次に何をすべきかを常に考える ことで責任感が生まれました。
大学・将来の 職業・生き方	講師の方々や仲間との出会いで、 将来自分が一番好きなことをして、社会に必要とされる人間になりたい と強く思うようになりました。
	今まで自分が知らなかった職業や分野を知ることができました。 自分の将来の夢の選択肢も広がったし、自分に合っている職業って何なんだろうと考えるようになりました 。
他の意見を受け 入れる力	人の表面だけ見ていると、自分と違う意見を持った人を否定しがちですが、深く関わることによって「 なぜ 」そんな考え方をするのかわかり合うことができ、それが本当に面白いことだと思うようになりました。
	今まで物事や人を少し否定的に捉えがちで、プライドも高かったため、人を尊敬することが少なかったが、塾に参加し、 同世代の高校生が持つ目標や考え、堂々とした態度に衝撃を受け、心から尊敬できるようになった 。
リーダー像、 リーダーシップ	リーダーという存在はチームを引っ張るのではなく、 チームの士気を上げる為にみんなを導く存在だ という考え方に変わりました。

リーダー像、 リーダーシップ	チームに貢献しようという強い思い、そして同じ方を向いて進むために他人を敬う気持ちこそが、チームを牽引するための能力であり、それらを持つ人々は全員が「リーダー」になれることに気づいた。
知識の習得、 学習の仕方	リーダー塾に参加する前は、文化や歴史は知らなくてもいいと思っていた。しかし、これからリーダーとして活躍するためには 文化や歴史は最低限の教養である と考えるようになった。
	自分の知識の無さに直面しました。自分のレベルの低さがとても辛かったです。だからこそ学校でも、 この授業は何のために行ない、将来どのようなものに繋がるのかをとて意識する ようになりました。
アジア各国、 他国の見方	参加するまでは、国内の時事問題にしか関心がありませんでした。しかし、AHS や講義を通して 世界の諸問題、特に環境問題や貧困問題、教育問題に興味を持つようになり ました。
	日本の教育は他のアジア諸国よりも少し進んでいると思っていたが、アジア学生たちのディスカッションやプレゼン能力の高さを目の当たりにし、 他国の方が時代にあった先進的な教育が進んでいると感じた 。
その他	常に命を扱う医師である先生は、自分が死ぬということを楽観的に捉えていた。「人間いつかは死ぬんだから、やりたいことはやらないとね」この言葉にはとても重みがあった。自分も「 死生観 」というものを見つめ直し、 一時も無駄にせず生きていきたい と思う。
	人生において失敗する事が許されない局面が来ると考えていた。しかし、人生は挑戦をするからこそ、失敗の連続になり失敗こそが人を成長させるのであると学んだ。 失敗を恐れず、挑戦することの重要性を学んだ 。

？ 参加後、やりたいことが明確になりましたか？

大いになった	38%
なった	34%
少しなった	17%
ならなかった	11%



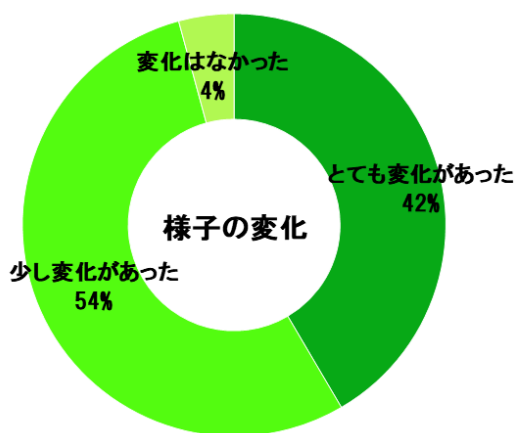
■主な内容

貧困や紛争などで苦しんでいる人を現地に行き助けたいという思いは変わりません。どんな形かはまだはっきりしていませんが、国連などの国際機関に入り、世界平和の為に役に立ちたいと思います。 以前は地域に貢献したいと言う夢があったが、今は地域に貢献しつつ、その経験を世界で活かしていきたいという夢につながった。今後はローカルな人材となってこれからの日本を創っていく一員になりたい。 「IoT の製品を創って、安価で難民の人でも手の出せるようなものを作る」ことや、クラスメイトに国境なき医師団に参加して人を助けたいという子がいたので、その子の役立つような医療用器具を、IoT を応用して作成したいと、具体的な目標ができた。 「自分のように、リーダー塾のような場で変われる子供たちを増やしたい！子供たちにもっとたくさんの人や価値観に触れられるような場を提供したい！」という将来やりたいことが見つかりました。 飢餓や貧困で苦しんでいる人々を助けるロボットを作るプログラマー、システムエンジニアになりたいと思っていた。しかし、その人たちだけに絞るのではなく、世界中の大きな問題から個人の小さな問題まで解決したいと思うようになった。 明石康先生の講義を受け、教育の中でも日本の大学入試に携わりたいと強く思うようになりました。講義はすべて英語で行われ、ちょうど聞き取ることが出来た部分が自分の夢を具体的にしてくれました。たった一言二言で自分の将来に良い影響を及ぼしてくれる講師の方に出会えて良かったです！
--

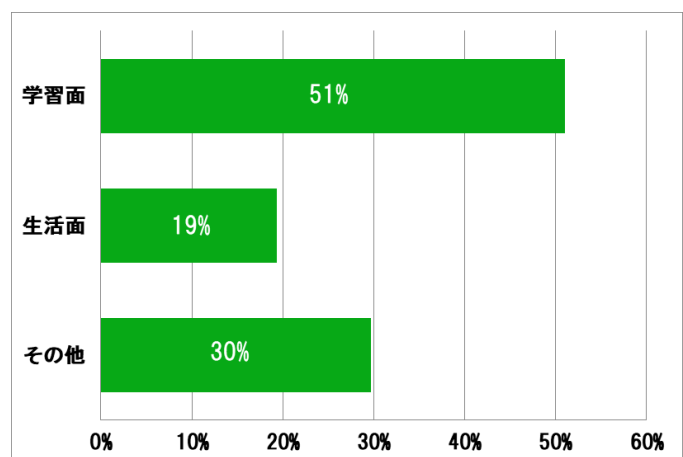
塾に参加して、今まで本気で自分と向き合わずに過ごしていたのだと、自分の愚かさに気づかされた。将来やりたいことは明確にはなかったが、これから本気で考えて、 自分が情熱を持ってやりたいことを探そう と思った。
私は 地元でするグローバル事業は何があるのかを進路探求のテーマ にしていきたいと思います。将来を考える時に、ただ職業を選ぶのではなく、何をやりたいか考える事が必要だ、というお話があったので、今は無理矢理に職業を決めなくとも、何をやりたいかが決まっただけでもよかったなと思います。
日本と韓国と中国で同じ歴史の教科書を共同開発したいです。
将来は船乗りになるものだとばかり思っていたが、様々な講師の方や仲間たちとの出会いや話の中で NGO スタッフになるという 新たな道 を見つけられた。

保護者アンケート

❓ 塾参加前と参加後でお子様の様子に変化がありましたか？



❓ 「変化があった」と答えた方は、どのような点に変化がありましたか？
(複数回答可)



■主な内容

学習面	今までより偏差値が高い大学を目指し、 自分から勉強に取り組むようになった。
	英語が流暢な同級生がいたり、東大を目指している同級生がいたりして、自分がまだまだだと思ったようだ。また、講師の先生のグローバルな話を聞き、 しっかり勉強して、大学に入り、留学したい と考えるようになった。
	中国人のお友達ができたのをきっかけに、元々興味があった 中国語にトライしてみたい、そしてもっと英語にも力を入れたい と言い英検にむけて頑張っています。
	自分のことを客観的に見ているところがあり、進学先も漠然としていて方向性が定まらない様子でしたが、 将来を自分事として捉えられるようになり、方向性を具体化 することができました。
	成績が伸び悩んでいる時期だったので、先生や友達、塾などを活用して 何か変わるきっかけを探して動き出した と感じています。
	少しずつ自分から勉強をしている姿が見られるようになった。他の学生と過ごしたことで、 自分自身がそこまでできないわけじゃないんだ と言うことを感じられたことが良かったです。
	夏休みの宿題を終えてからは、英語の勉強に力を入れはじめたように感じています。 海外への留学経験者、海外からの研修参加者から息子なりに刺激を受けた のだと思います。
	多くの優秀な生徒さんがいる中で、自分は正直課題をこなすだけで精一杯、という面がありました。しかし塾へ参加後は「できる」「できない」点を明確にし、「 できない 」ことを ネガティブに捉えるのではなく解決すべき課題点としてしっかり取り組むよう になりました。この「すべきことを明確にする。」という作業は、塾への参加期間中だけでなく、その前後に課せられる課題提出においても非常に鍛えられたと思います。

生活面	他の生徒さんの積極的かつ鋭い質問、講演者の話の流れや人となり等に刺激を受けた様です。全校生徒の前で、塾での体験談を発表するために、 全校生徒の心をいかに掴むのか、どのように話せば興味を持って聴いてもらえるかと、パワーポイントを使って頑張っていました。
	言動が大人っぽくなりました。行動も以前より責任感が持てる様になった気がします。 焦って行動せずに、ひと呼吸おけるようになりました。
	母親任せであった 食事の後片付け等、自ら進んで手伝うようになった。
	社会で起こっていることを積極的に知ろうとする姿勢がみられるようになった。 将来の職業や在り方を模索するところはあったが、 より広い視野で新しい可能性も考えるようになった。
	様々な観点から物事を捉えるようになったこと。外国の高校生と接したことで、 日本という国を再認識することができた。
	全国各地から集まった方達と話をし、夢や交流が広がり、留学したいと言い出しました。 消極的な所が積極的に変化し、自信がついてきました。 特にマハティール首相夫妻と参加者のみなさんの前で、 単独和太鼓演奏は、本当に名誉なことで、自信に繋がったようです。
	元々努力家ではあったが、リーダー塾参加後はさらに目的意識が高まり、学習にもさらに力を入れるようになった。また、 政治にも関心を持つようになり、SNSを利用してディスカッショングループを作ったり、様々な問題について考えるようになった。
	自己評価の低い子で「どうせ私にはできない」とよく言っていた。参加後は色々な友達と過ごす間に、 自分の優れている所や努力が必要な所が少し理解出来たようで、今までは避けてきた自分に負荷をかけた学習を行えるようになった。何よりも意欲を感じる。
その他	他人に対して寛容な考え方が出来るようになってきた。
	航海士から Jica スタッフへと夢の舵を大きく切り直しました。 表情も生き生きとし、これからのことを楽しそうに、しかしどこか「責任感をもって進まなければいけない」と思っているように感じます。 本来の彼らしさが戻ってきました。
	映画には物語から見える直接的な思いだけでなく、その裏にも社会的な思いや意図があって作られているから、そういうことを考えながら観るのも面白いとか、 今まで興味の無かった分野や、気づかなかったものの見方に発見があり、興味を持つようになりました。

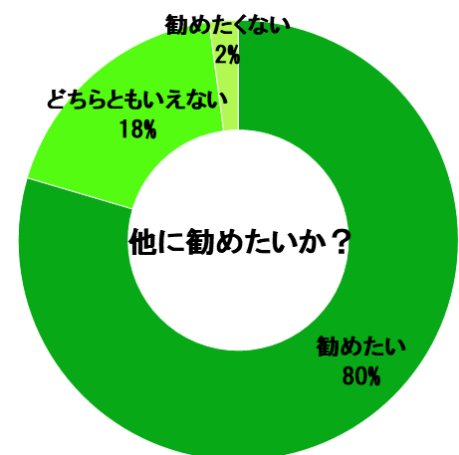
■お子様の感想で印象に残ったこと

外国語(英語)が大切だと分かった。 体調管理が大切だということ、食事の大切さが分かった。
「 一生涯の友ができた! 」という言葉です。
2週間の中でハブニングがたくさんあったが、それを改善している大人の姿を見て 臨機応変に対応すれば何とかなるんだ と言う事と、 物事はよく捉えれば良い方向にいくんだ と言う事。
アメリカに留学していたという、ボランティアで入ってくれた学生から聞いた話。「留学してすぐ、英語についていけず落ち込んでいた時、ネイティブの友人から『僕は英語が分かるけど、日本語も日本文化についても知らない。君は英語がまだ分からないけど、僕の知らないことを沢山知っている。だから、何を先に知って、何を後に知るのが、というだけのことだから、 落ち込む必要は全くない 』と励まされたんだ」 分からないことに対して、恥ずかしがることも落ち込むこともなく、学ぶ姿勢を貫く大切さに感銘を受けていた。 多くの先生方の話も聞いたが、一番最初にこの話が出てきた。
「 次回みんなに会った時に、恥ずかしくない自分でいたい!!だから頑張るわ!! 」とキラキラとした向上心に溢れた笑顔を見せてくれました。「 行って良かった!行かせてくれてありがとう! 」と言い、2週間の出来事を嬉しそうに話してくれました。
アジア各国の高校生とそれぞれの立場で意見を交換できたことが新鮮だった という話をしていました。
スマートフォンに触れない生活は全然苦にならなかった ということ。友達と話したり、やることが色々あって、スマホに触ってる生活よりも楽しかったと言っていました。
海外参加者の中にはいくつもの言語を話せる方が複数いたらしく、 自分ももっと勉強しなくてはいけないと 触発されていた。

視野が広がったと語っていたこと。
研究医を目指していた息子が、リーダー塾から帰ってきてからは臨床医になると、自分から語りました。 たくさん命を救いたい と自分の思いを打ち明けてくれました。その思いを語るときに、目を輝かせていたことに驚きを覚えました。
室伏きみ子先生の講義を聴き、「お茶の水女子大学に入学して、 神経変性疾患の治療薬の開発やアルツハイマー症、がんなどの治療を学んでみたい。 」と話してくれたこと。将来の夢を具体的に話すのを今まで聞いたことがなかったので、とても印象に残りました。
マニュアル通りに物事は進まない、自分で考えることが大事と言っていたこと。
「とにかく”ディスカッション”が熱い！！一歩間違えばケンカになってしまうのではと思う位みんな本気の意見を言い合っていた」と興奮気味に話してくれました。

？ 他の保護者または高校生に参加を勧めたいと思われますか？

勧めたい	80%
どちらともいえない	18%
勧めたくない	2%



■主な理由

勧めたい	世界で活躍している人たちに会って、話を聞くことができる経験は 地方ではできないから 。
	多方面の講師の方の話が聴けることは世界が広がる機会だと思います。そして自ら考え、他の同世代の友達の意見を聞けること。真剣に意見交換できることは貴重な体験です。どちらも 学校の授業では学べないことなので、この世代の子ども達にとって素晴らしい経験になる と思います。
	行きたくなかったはずだった本人が帰ってきて、今までに参加したどの行事よりも 行って良かったと言っていたから です。
	日本やアジアの、 高い志を持った高校生が大勢集まり、長い間、生活や苦楽を共にしながら学ぶ かけがえのないリーダー塾。生涯の友と出会い、先に生まれた素晴らしい先生方のお話を濃密に学ぶことができ、 思春期の高校生にとっては、とても貴重な経験ができるサマースクール だと思います。
	参加することで、普段では実際に会うことができない方に直接話を聞けることは、とても貴重な経験だと思います。それだけでなく、全国の志の高い高校生と一緒に生活し、意見を交換することで 視野が広がる と思うからです。 応募するにあたり作文や自己評価などを書くことで、今まで固まっていなかった将来についてのことや、自分のことを見つめ直す ことができ、これから大学受験に向けて勉強していく中でもいい経験になったと思います。
	親の私達も ”子離れ”のきっかけになった と思えるので。
	自分の言葉で意見を言える場所は今の子ども達にあるようで あまり無い と思います。他県、他国のみんなで力を合わせて、知恵を出し合い、想像力を掻き立て、普段の生活では簡単にできない経験だと思うので、この輪がどんどん繋がっていくといいなと思います。参加する年齢によっても感じ方が違うようなので、今後も沢山の子ども達が リーダー塾に参加できるといいなと思います。

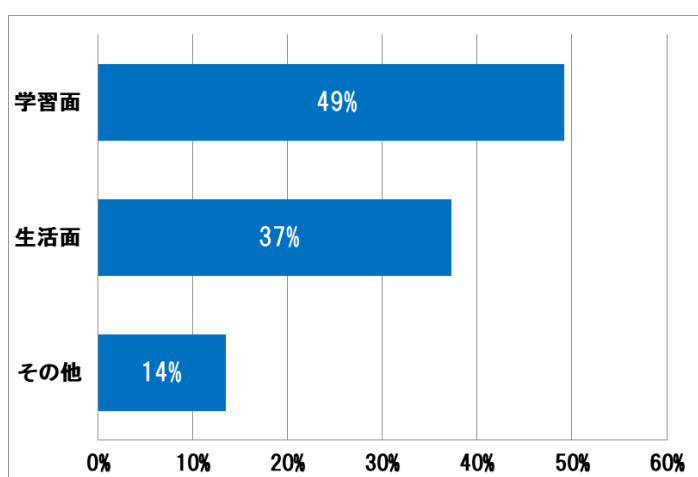
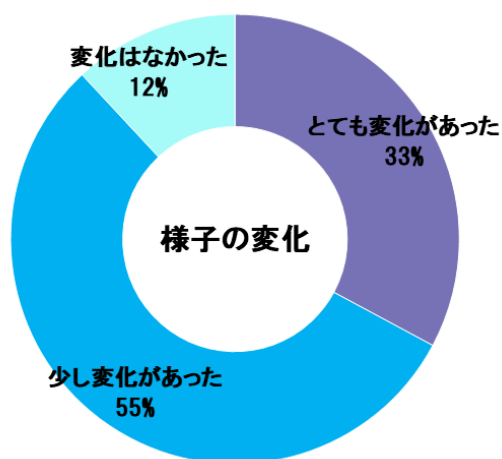
どちらとも いえない	レポートや書類等の提出期限と学校の定期テストや多くの宿題、行事、部活等と重なり、 かなり無理をしている様子だったため。
	素晴らしい方々の講義を受け、全国、他国の同世代の子たちと交流をして刺激を受けることは貴重な経験だと思います。ただ、 参加する本人に学びたい気持ちやリーダー塾に何かを求める強い気持ちが必要だ と思います。
	プログラムの内容は素晴らしいものだと思いますが、 安くは無い費用がかかるので安易に薦めることはできない と思っています。
	塾期間中に連絡が取りづらい ため。
勧めたく ない	お金もかかり、参加後は今まで自由に使えていた時間を使えなくなるから。

学校の担任教員アンケート

？ 塾参加前と参加後で生徒の様子に
変化がありましたか？

？ 「変化があった」と答えた方は、
どのような点に変化がありましたか？

複数回答可



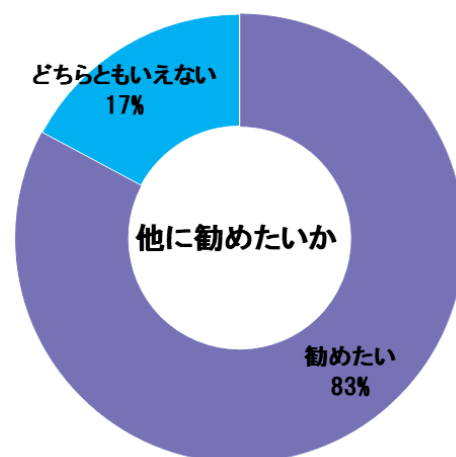
■主な内容

学習面	学習についてより意欲的に取り組むようになり、進路についてもより難易度の高い大学を希望するようになった。また、集中力がより高まったように感じられる。
	これまで以上に 世界に目を向けるようになった 。貴塾で出会った仲間たちと肩を並べられるよう、より学習に前向きになった。
	講義をしていただいた大学の先生のお話にとっても共感し、その先生がいらっしゃる大学に進学したいと思ったようです。また、 英語はできて当たり前で、できないと通用しないと気づいた ようです。
	以前から非常に真面目に取り組んでいましたが、将来の目標が定まっておらず、とりあえず高いところを目指して頑張っているという様子でした。塾参加後は、 明確な目標が見つかったこと で、 以前よりも前向きに学習に取り組んでいる ように思います。
	将来の目標が定まり、 自分のやるべき事を自覚し、英語や政経などの授業で高い意欲を示した 。
	苦手な科目を前向きに取り組む姿勢が見られるようになりました 。もともと自分の意見をしっかりとと言える生徒でしたが、人の言うことも落ち着いて聞けるようになってきました。
	学習面では、 新しい分野の学習に興味を持ち、熱心に取り組む様子が見られた 。ホームルーム委員としてクラスのまとめ役として、円滑に話し合いを進められるようになった。
	参加前から学習に対する意欲があったが、参加後、更に学習に対する真剣度が増している。 授業や課題についての質問も増えている 。

生活面	まず、表情が変わりました。今まで取り組もうとしてもなかなかうまく出来ない自分に対して苛立ちがあったように感じていたが、「 出来ることから一つずつしっかりやればいい。 」と意識が変わり、少しずつ取り組んでいる。
	入学当初は人見知りで仲間の前に立つようなことはなかったが、参加後は積極的に仲間に働きかけるようになった。文化部発表会において、クラスで出し物をした際には、 仲間に積極的に声をかけ、自らも行動し、クラスをまとめた。 後期生徒会執行部へも参加を決めた。
	部活動のキャプテンとして、クラスをまとめることに対して積極的になった。 チームの意見を引き出すような工夫をしているようだ。学習に対しては、質問をするようになった。また、表情がちょっと明るくなった。
	自らが体験したことを積極的に周囲の生徒へ発信するようになった。
	リーダーとして、自信を持って行動に移せるようになった。 入学当初より、先輩から聞いてリーダー塾に参加したいということは話していた。リーダーとしての自覚はあれど、判断力や、積極性をもう少し発揮して欲しいと思っていたが、参加後は、それらが成長したとはっきりと見てとれた。9月中の文化祭までの取り組みで、いい形で発揮できていたと思う。
	様々な活動をする中で、グループをまとめたり、みんなの意見を集約し、一つの方向性を見出すことができるようになった。 自分の夢を明確にし、夢実現に向けて日々努力するようになった。
その他	自らの進路について、具体的かつ理論的に考えるようになった。 行事企画などを主体的に行う際に、学校内の課題だけではなく、社会的な捉え方も意識をし、発言・行動しようという姿勢が見られるようになった。
	意識の高い集団の中で生活をしたことで、学校に戻った際そのギャップで苦しんでいた。当初は上から物事を考えてしまうようになっていたが、段々と柔和になっていき「 リーダー 」とは何かを考えられるようになってきた。
	自分の将来についてより積極的に考えるようになった。
	参加前は進路が決まらず、悩んで暗かったが、参加後はやりたいことが見つかったといい、 やる気に溢れ前向きになった。
	例えば言葉遣いにしても、TPOを考え、その場にふさわしい言葉を使用することができ、 大人の雰囲気 を身につけた。

？ 他の先生または高校生に参加を勧めたいと思われますか？

勧めたい	83%
どちらともいえない	17%
勧めたくない	0%



■主な理由

勧めたい	生徒が大きく成長する「 出会いと原体験 」の場であると考え。また北海道の生徒が福岡という地で学ぶという環境に意味を大きく感じる。
	まず書類審査にあたり、生徒は自分のルーツを辿り、今の自分がどのように作られていったかを振り返っていきました。そうしたなかで本当に自分が目指したい姿を見つけていく様子は、 日常の学校生活だけでは得難い経験 に感じました。また、参加後の生き生きとした姿は、生徒が多くものを感じ取って帰ってきたことを感じさせました。
	自分自身を見つめ直すこともでき、 自分に足りないことに気が付ける から。

勧めたい	今まで、身の周りの世界だけで、感じていたことが格段に 視野が広がり、もっと努力が必要だと気づく から。
	学校ではあまり取り組めない、 ディスカッション や 他校の生徒との交流 ができる いい機会 であるため。
	自己主張や周囲の環境を自分で変えることの重要性を理解して、行動することを考えるようになる。また、 リーダーとして前に立つことについて考える ことができる。 非日常的な極端な環境に身を置く事で、生徒は大きく能力を伸ばすことが出来る と思うから。実際、参加した生徒はすごく成長していると思います。
	目の前しか見えていない生徒に 広い世界へ目を向けさせたい から。
	生徒は高い意識を持つことができ、前向きな変容が見られたが、教科担任の先生などには授業に参加できず迷惑をかけてしまった。また、費用もかかるので、勧めるべき生徒はよく面談をし、 本当に参加して意味があるか検討が必要だ と思う。
	学校の勉強だけで満足している生徒が多いので、 問題意識を持つ同世代の人達との議論を通して、様々な社会問題に関心を高め、危機感を持ってもらいたい です。
	同年代の生徒と難しい問題について意見を交わすことや、大人の話を聞いてレポートにまとめることで、 聞き取る力や発表する力がついた と思うため。また、この体験を通してさらに自分の興味関心が広がり学校生活にいい影響を及ぼしているため。
	参加してから 国際関係についての興味が強まり、勉強に対して意識が強くなった 。今までも十分頑張っていたが、より一層勉強に力が入っているため。
	地方にいと狭い社会の中で自分を判断しがちなので、できるだけ若いときに 日本に優れた若者が多勢いると知ることが必要だ と思うから。また、やる気のある者たちで学び合うことの 大切さを知って欲しい から。
	初対面の人に自分の意見を伝えることは勇気がいるが、この経験を通してそのよさを実感し自信になった と思うから。
どちらとも いえない	学業との両立ができなければいけない ので、安易に薦められないと感じます。
	生徒本人の適性もあるので、日頃の様子や進路希望を踏まえて勧めなければならないと思う。内容は素晴らしいが、 費用面で勧めづらい ところがある。
	今年度参加した生徒に関しては、 夏季休業中の課題がほとんどできておらず、9月末まで課題に追われる日々を送っていた 。参加することで日常生活に支障をきたさない生徒であれば参加させたい。
	意識レベルでの向上はあるが、 行動レベルで「リーダー」として育っているのか疑問を抱く ため。

資料③ 塾生概要

第16回日本の次世代リーダー養成塾 塾生概要

塾生総数 169名（男子62名・女子107名） 28都道府県1ヶ国（ベトナム）

○参画県推薦枠 115名（男子39名・女子76名）

1	北海道	11名	(男子 2名)	(女子 9名)
2	青森県	11名	(男子 3名)	(女子 8名)
3	岩手県	11名	(男子 2名)	(女子 9名)
4	静岡県	9名	(男子 4名)	(女子 5名)
5	岐阜県	11名	(男子 4名)	(女子 7名)
6	和歌山県	11名	(男子 5名)	(女子 6名)
7	愛媛県	11名	(男子 4名)	(女子 7名)
8	福岡県	21名	(男子 8名)	(女子 13名)
9	宗像市	3名	(男子 0名)	(女子 3名)
10	佐賀県	14名	(男子 7名)	(女子 7名)
11	うるま市	2名	(男子 0名)	(女子 2名)
計		115名	(男子 39名)	(女子 76名)

○一般公募枠 54名（男子23名・女子31名）

1	群馬県	1名	(男子 0名)	(女子 1名)
2	埼玉県	3名	(男子 3名)	(女子 0名)
3	東京都	9名	(男子 4名)	(女子 5名)
4	神奈川県	2名	(男子 1名)	(女子 1名)
5	山梨県	1名	(男子 0名)	(女子 1名)
6	長野県	1名	(男子 0名)	(女子 1名)
7	静岡県	3名	(男子 0名)	(女子 3名)
8	愛知県	6名	(男子 5名)	(女子 1名)
9	京都府	1名	(男子 0名)	(女子 1名)
10	大阪府	1名	(男子 1名)	(女子 0名)
11	兵庫県	2名	(男子 1名)	(女子 1名)
12	奈良県	1名	(男子 0名)	(女子 1名)
13	和歌山県	2名	(男子 2名)	(女子 0名)
14	広島県	2名	(男子 1名)	(女子 1名)
15	香川県	3名	(男子 2名)	(女子 1名)
16	山口県	1名	(男子 0名)	(女子 1名)
17	福岡県	6名	(男子 1名)	(女子 5名)
18	佐賀県	1名	(男子 1名)	(女子 0名)
19	長崎県	1名	(男子 0名)	(女子 1名)
20	熊本県	4名	(男子 0名)	(女子 4名)
21	大分県	1名	(男子 0名)	(女子 1名)
22	宮崎県	1名	(男子 1名)	(女子 0名)
23	ベトナム	1名	(男子 0名)	(女子 1名)
計		54名	(男子 23名)	(女子 31名)

資料④ 塾生高校一覧

第16回日本の次世代リーダー養成塾 塾生学校一覧

29都道府県 1ヶ国（ベトナム）、123校

学校所在地	学校名
北海道	私立遺愛女子高等学校
	私立札幌新陽高等学校
	北海道札幌東商業高等学校
	北海道登別明日中等教育学校
	私立北海高等学校
	北海道稚内高等学校
青森県	私立青森明の星高等学校
	青森県立三本木高等学校
	青森県立田名部高等学校
	青森県立八戸高等学校
	私立八戸工業大学第二高等学校
	私立八戸聖ウルスラ学院高等学校
岩手県	岩手県立一関第一高等学校
	岩手県立岩泉高等学校
	岩手県立釜石高等学校
	岩手県立黒沢尻北高等学校
	岩手県立高田高等学校
	岩手県立遠野高等学校
	岩手県立花泉高等学校
	岩手県立花巻北高等学校
群馬県	私立共愛学園高等学校
埼玉県	私立開智未来中学・高等学校
	埼玉県立不動岡高等学校
千葉県	私立市川高等学校
東京都	私立昭和女子大学付属昭和高等学校
	私立中央大学杉並高等学校
	国立東京学芸大学附属国際中等教育学校
	私立広尾学園高等学校
	私立文化学園大学杉並高等学校
	私立武蔵高等学校
	私立明治大学付属中野高等学校
	私立明治大学付属明治高等学校
神奈川県	川崎市立川崎高等学校
	私立慶應義塾湘南藤沢高等部
山梨県	山梨県立甲府南高等学校
長野県	長野県立松本県ヶ丘高等学校
静岡県	静岡市立高等学校
	私立静岡学園高等学校
	静岡県立静岡高等学校
	静岡県立清水東高等学校
	静岡県立清水南高等学校
	私立常葉大学附属菊川高等学校
	私立常葉大学附属橘高等学校
	静岡県立葦山高等学校
	静岡県立沼津東高等学校
	私立浜松学芸高等学校
	静岡県立浜松西高等学校
	私立不二聖心女子学院高等学校
	私立鶯谷高等学校
	岐阜県立大垣桜高等学校
岐阜県	岐阜県立可児高等学校
	岐阜県立加納高等学校
	岐阜県立岐阜高等学校
	岐阜県立岐阜北高等学校
	私立岐阜東高等学校
	岐阜県立多治見北高等学校
	岐阜県立中津高等学校
	岐阜県立本巣松陽高等学校
愛知県	私立海陽中等教育学校高等部
	私立名古屋学院名古屋高等学校
	私立名古屋国際高等学校
京都府	私立京都学園高等学校

学校所在地	学校名
大阪府	私立関西学院千里国際高等部
兵庫県	私立賢明女子学院高等学校
	私立三田学園高等学校
奈良県	私立西大和学園高等学校
和歌山県	私立開智高等学校
	私立近畿大学附属和歌山高等学校
	私立智辯学園和歌山高等学校
	和歌山県立橋本高等学校
広島県	和歌山県立信愛高等学校
	広島県立賀茂北高等学校
山口県	広島県立呉三津田高等学校
	私立梅光学院高等学校
香川県	私立大手前高松中学・高等学校
	私立香川誠陵高等学校
愛媛県	愛媛県立今治西高等学校
	愛媛県立宇和島東高等学校
	愛媛県立宇和島南中等教育学校
	愛媛県立野村高等学校
	愛媛県立松山北高等学校
	愛媛県立松山東高等学校
	愛媛県立三崎高等学校
	愛媛県立八幡浜高等学校
	福岡県立育徳館高等学校
	福岡県立香椎高等学校
福岡県	福岡県立嘉穂高等学校
	福岡県立輝翔館中等教育学校
	福岡県立久留米高等学校
	福岡県立玄洋高等学校
	福岡県立小倉工業高等学校
	福岡県立早良高等学校
	福岡県立城南高等学校
	私立西南学院中学校・高等学校
	福岡県立筑紫丘高等学校
	私立東海大学付属福岡高等学校
	私立中村学園女子高等学校
	福岡県立博多青松高等学校
	私立福岡工業大学附属城東高等学校
	福岡県立福岡高等学校
	私立福岡大学附属若葉高等学校
	私立福岡雙葉高等学校
	福岡県立宗像高等学校
	私立明光学園高等学校
	福岡県立明善高等学校
	福岡県立山門高等学校
	私立リンデンホールスクール中高度部
佐賀県	国立唐津海上技術学校
	佐賀県立唐津東高等学校
	佐賀県立佐賀北高等学校
	佐賀県立佐賀西高等学校
	佐賀県立多久高等学校
	佐賀県立武雄高等学校
長崎県	私立早稲田佐賀高等学校
	長崎県立佐世保南高等学校
熊本県	熊本県立宇土高等学校
	私立九州学院高等学校
	熊本県立八代高等学校
大分県	大分県立大分豊府高等学校
宮崎県	宮崎県立宮崎大宮高等学校
沖縄県	沖縄県立球陽高等学校
	沖縄県立与勝高等学校
ベトナム	Concordia International School Hanoi

資料⑤ アジア奨学生概要

第16回日本の次世代リーダー養成塾 アジア奨学生概要

○奨学生総数16名（男：6名 女10名）

1	中国	3名	（男子 0名）	（女子 3名）
2	マレーシア	4名	（男子 2名）	（女子 2名）
3	モンゴル	2名	（男子 2名）	（女子 0名）
4	韓国	3名	（男子 2名）	（女子 1名）
5	タイ	2名	（男子 0名）	（女子 2名）
6	ベトナム	2名	（男子 0名）	（女子 2名）

○奨学生学校一覧（6ヶ国 11校）

中国	成都外国語学校
	石家庄外国語学校
	東北育才学校高等部
マレーシア	帝京マレーシア日本語学院
モンゴル	新モンゴル小中高一貫学校
韓国	釜山國際外國語高等學校
	智山高等学校
	ソウルムンヒョン高等學校
タイ	Siyanuson School
	Kaeng Khoi School
ベトナム	Foreign Languages Specialized School

資料⑥ クラス担任・学生リーダー及びスタッフ名簿

■クラス担任（前半：7月26日～7月31日、後半7月31日～8月8日）

クラス	期間	氏 名	会 社 名
1 組	前半	市川 文子	三井住友海上火災保険株式会社
	後半	赤池 勇磨	株式会社リクルートマーケティングパートナーズ
2 組	前半	小林 伸吾	株式会社ぐるなび
	後半	牛島 知子	株式会社ふくや
3 組	前半	豆田 和也	麻生医療福祉専門学校福岡校
	後半	野中 美希	株式会社コアラ
4 組	前半	吉武 まどか	株式会社正興電機製作所
	後半	中田 直人	株式会社特殊高所技術
5 組	前半	栗原 聡史	特定非営利活動法人九州・アジア経営塾
	後半	堀 祐基	株式会社麻生
6 組	前半	恵良 慎一	三井物産株式会社
	後半	市川 智也	特定非営利活動法人九州・アジア経営塾
7 組	前半	諸隈 令明	株式会社南福岡自動車学校
	後半	小川 貴士	株式会社ミズ
8 組	前半	河野 雄彦	西部ガス設備工業株式会社
	後半	帆高 純平	九州電力株式会社

■学生リーダー

佐々木 梓乃	青山学院大学（12 期生）
佐々木 美歩	お茶の水女子大学（10 期生）
鹿野 明子	慶應義塾大学（13 期生）
志和 智広	関西学院大学
成田 玲央	獨協大学
時津 美弓	早稲田大学（11 期生）
中野 佑美	早稲田大学
中村 泰平	早稲田大学（11 期生）
星崎 伶奈	立教大学（10 期生）
高橋 はな	東京外国語大学（12 期生）
富貴田 彩乃	国際基督教大学（11 期生）
中山 智貴	早稲田大学
小野 史織	岩手大学（11 期生）
岩崎 綾夏	The College of Wooster（13 期生）
亀山 あかり	東京理科大学（11 期生）
永岡 拓実	九州大学
伊藤 惇貴	慶應義塾大学（11 期生）

開催県・市	木下 尊雅	福岡県 人づくり・県民生活部私学振興・青少年育成局青少年育成課長
	平井 智加香	福岡県 人づくり・県民生活部私学振興・青少年育成局青少年育成課企画監
	井上 雅之	福岡県 人づくり・県民生活部私学振興・青少年育成局青少年育成課企画主査
	藤川 為廣	福岡県 人づくり・県民生活部私学振興・青少年育成局青少年育成課事務主査
	福井 香月	佐賀県 健康福祉部男女参画・こども局こども未来課長
	佐保 幸伸	佐賀県 健康福祉部男女参画・こども局こども未来課副課長
	原田 昌信	佐賀県 健康福祉部男女参画・こども局こども未来課子ども・若者育成支援担当係長
	山田 晃也	佐賀県 健康福祉部男女参画・こども局こども未来課子ども・若者育成支援担当副主査
	中野 万由美	宗像市 子どもグローバル人材育成担当部長
	本田 和徳	宗像市 教育子ども部子ども育成課長
	船越 健樹	宗像市 教育子ども部子ども育成課グローバル人材育成係長
	西田 佳太郎	宗像市 教育子ども部子ども育成課グローバル人材育成係主事
参画県	合田 英美那	北海道 環境生活部くらし安全局道民生活課青少年グループ主事
	平山 健一	青森県 企画政策部地域活力振興課人づくりグループ主幹
	宇夫方 聡	岩手県 教育委員会事務局教育企画室主任指導主事兼主任主査
	松下 直由	静岡県 教育委員会高校教育課教育主幹
	水野 光芳	岐阜県 環境生活部私学振興・青少年課青少年係主事
	井田 恵	和歌山県 教育庁学校教育局県立学校教育課全国高総文祭推進室指導主事
	川井 由佳	愛媛県 教育委員会事務局指導部高校教育課指導主事
	上原 祥子	うるま市 経済部商工労政課雇用推進係嘱託
グローバルアリーナ	近藤 勇	株式会社グローバルアリーナ 代表取締役
	石田 達也	株式会社グローバルアリーナ
	森田 智	株式会社グローバルアリーナ
企画委員	石坂 広孝	三菱商事株式会社 シンガポール支店 地域戦略部長
	大嶽 一省	I N ・ C O M株式会社 代表取締役エグゼクティブ・クリエイティブ・ディレクター
	小林 浩	株式会社リクルートマーケティングパートナーズ リクルート進学総研 所長 リクルート「カレッジマネジメント」編集長
	山根 正司	三井物産株式会社 ビジネス推進部長
	松浦 克巳	国税庁調査査察部長

事務局サポート (短期お手伝い)	浅井 拓人	15期学生リーダー
	諫山 結	14期卒塾生
	糸藤 友作	15期卒塾生
	内山 岬	14期卒塾生
	沖永 光佑	11期卒塾生
	鹿子生 由依	15期卒塾生
	後藤 祥太	8期卒塾生
	末田 織佳子	15期卒塾生
	安田 莉那	9期卒塾生
事務局	加藤 暁子	日本の次世代リーダー養成塾 専務理事・事務局長
	新井 雅代	日本の次世代リーダー養成塾
	松尾 駿	日本の次世代リーダー養成塾
	十時 智子	元福岡県職員
	神田 由美	看護師

ご協賛・ご協力・助成いただいた皆様

今回の日本の次世代リーダー養成塾は、次に掲げる皆様のご協賛とご協力により開催することができました。ここに、深く感謝申し上げます。(五十音順、敬称略)

■ご協賛いただいた皆様

株式会社麻生
学校法人麻生塾 麻生専門学校グループ
株式会社インスパイア
AGC 株式会社
株式会社エヌケービー
株式会社エフティ 資生堂
公益財団法人オリックス宮内財団
九州電力株式会社
九州旅客鉄道株式会社
株式会社 QTnet
株式会社九電工
株式会社ぐるなび
国際ロータリー第2700地区
西部ガス株式会社
株式会社サニックス
医療法人社団静英会あしかわ耳鼻咽喉科
株式会社伸良商事
株式会社正興電機製作所
株式会社全教研
第一交通産業株式会社
株式会社玉屋
株式会社テクノ・ホールディングス
株式会社戸上電機製作所
株式会社特殊高所技術
株式会社トクスイコーポレーション
中村ブレイス株式会社
株式会社西日本シティ銀行
西日本鉄道株式会社
株式会社日本政策投資銀行
久光製薬株式会社
株式会社日立製作所
株式会社福岡銀行
株式会社福住
株式会社ふくや
フンドーキン醤油株式会社
マレーシアヤクルト株式会社
株式会社ミズ
三井松島ホールディングス株式会社
三菱商事株式会社
株式会社南福岡自動車学校
モトコ リソーシス株式会社
株式会社安川電機
YASKAWA 未来クラブ

■ご寄付いただいた皆様

相戸 和歌子
青山 太輔
枝光 理
株式会社 くうら
村上 究

■ご協力いただいた皆様

IN・COM株式会社
国立研究開発法人宇宙航空開発機構
特定非営利活動法人九州・アジア経営塾
株式会社グローバルアリーナ
Kaeng Khoi School
株式会社コアア
在タイ日本国大使館
在中華人民共和国日本大使館
西部ガス設備工業株式会社
在福岡大韓民国総領事館
在ベトナム日本国大使館
佐賀県波戸岬少年自然の家
佐賀県立佐賀城本丸歴史館
佐賀県立男女共同参画センター・佐賀県立生涯学習センター
佐賀県立名護屋城博物館
Siyanuson School
新モンゴル小中高一貫学校
成都外国語学校
石家庄外国語学校
ソウルムンヒョン高等學校
智山高等学校
帝京マレーシア日本語学院
東北育才学校高等部
Foreign Languages Specialized School
釜山国際外国語高等學校
株式会社ホテル日航福岡
三井住友海上火災保険株式会社
三井物産株式会社
宗像市総務部地域安全課
宗像大社
株式会社リクルートマーケティングパートナーズ

■助成いただいた皆様

一般社団法人東京倶楽部
公益財団法人福岡県市町村振興協会



Japan Future Leaders School

日本の次世代リーダー養成塾

〒107-0062 東京都港区南青山 5-12-28 メゾン南青山 403 号
tel 03-5466-0804 fax 03-5466-0842 mail info@leaderjuku.jp
<https://leaderjuku.jp/>